

Honeywell

Xenon™ 1950g/1952g, 1950h/1952h, 1952g-BF/1952h-BF

エリアイメージングスキャナ

ユーザーズガイド



免責事項

Honeywell International Inc.（以下「ハネウエル社」）は、本書に記載された仕様およびその他の情報を事前に断り無く変更することがあります。何か変更があったかどうかを確認するときは、必ずハネウエル社にお問い合わせください。本書の情報についてハネウエル社では一切の保証をいたしません。

本書に技術的または編集上の誤りや記載漏れがあった場合、また本書の提供、実行、あるいは使用に起因する偶発的または必然的に発生した損害についてハネウエル社では一切の責任を負いません。意図した結果を得るためのソフトウェアやハードウェアの選択と使用について一切の責任をハネウエル社は負いません。

本書には、著作権で保護された情報が含まれ、著作権法の対象となります。本書のどの部分も、ハネウエル社の文書による事前承諾を得ずにコピー、複製または他言語への翻訳はできません。

Copyright© 2010-2020 Honeywell International Inc. All rights reserved.

ウェブアドレス：www.honeywellaidc.com

登録商標

Microsoft® Windows®およびWindowsロゴはMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。

Bluetooth®ワードマークとロゴはBluetooth SIG, Inc.が所有しています。

本書に記載されているその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を所有しています。

特許

著作権については、www.hsmpats.comを参照してください。

目次

はじめに	1
本マニュアルについて	1
製品の開梱	1
接続	1
USBでの接続	1
キーボードウェッジ接続	3
RS232シリアルポート接続	5
RS485接続	7
CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFの設置	8
CCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BFの設置	8
水平面設置	9
垂直面設置	9
読み取り方法	10
メニューバーコードセキュリティ設定	10
カスタムデフォルトの設定	10
カスタムデフォルトの再設定	11
インターフェースの設定	12
はじめに	12
インターフェースのプログラム設定 - プラグ&プレイ	12
キーボードウェッジ	12
ノート型PCとの直接接続	12
RS232シリアルポート	12
RS485	13
USB IBM SUREPOS	13
パソコンもしくはマッキントッシュのUSBキーボード	14
USB HID	14
USBシリアル	14
CTS/RTSエミュレーション	14
ACK/NAKモード	15
VERIFONE [®] RUBY端末の初期設定	15
GILBARCO [®] 端末の初期設定	15
HONEYWELL2面式カウンタースキャナの補助ポート設定	15
DATALOGIC [™] MAGELLAN [®] 2面式カウンタースキャナの補助ポート設定	15
WINCOR NIXDORF端末の初期設定	16
WINCOR NIXDORF BEETLE [™] 端末の初期設定	16
WINCOR NIXDORF RS232モードA	16
国別キーボード	17
キーボードウェッジモディファイア	24
ALTモード	24
キーボードスタイル	24
キーボードの変換	25
制御文字の出力	25
キーボードモディファイア	25
RS232モディファイア	27
RS-232ボーレート	27
RS232ワード長：データビット、ストップビット、パリティ	28
RS232レシーバタイムアウト	29
RS232ハンドシェイク	29
RS232タイムアウト	29
XON/XOFF	29
ACK/NAK	30
スキャナから2面式カウンタースキャナへの通信	30
2面式カウンタースキャナパケットモード	30
2面式カウンタースキャナACK/NAKモード	30
2面式カウンタースキャナACK/NAKタイムアウト	31
コードレスシステムの操作	32
コードレスチャージベース/アクセスポイントの仕組	32

スキャナのチャージベースへの接続.....	32
スキャナとアクセスポイントの接続.....	33
リンクされたスキャナの交換.....	33
コードレスシステムとホストデバイス間の通信.....	33
スキャナとベースユニットまたはアクセスポイントのプログラム.....	34
RF（無線周波数）モジュールの操作.....	34
システム条件.....	34
通信プロセス.....	34
スキャナが通信可能範囲外にあるとき.....	34
スキャナが通信可能範囲内へ戻ったとき.....	35
バッチモード有効時での通信可能範囲への出入り.....	35
ページ（呼出し）ボタン.....	35
ページ（呼出し）ボタンとプレゼンテーションモード.....	35
テンポラリストリーミングプレゼンテーションモードタイムアウト.....	36
ベース設置時のプレゼンテーションモード設定.....	36
バッテリーについて.....	36
充電について.....	36
バッテリーについての推奨事項.....	36
リチウム電池の安全に関する注意事項.....	37
バッテリーの適切な処分.....	37
Xenon XP 1952g-BF/Xenon XP 1952h-BFインスタントチャージパックベース情報.....	37
ブザーLEDのシーケンスと意味.....	37
スキャナのLEDシーケンスと意味.....	37
スキャナチャージパックステータス.....	38
ベースユニット/アクセスポイントのLEDシーケンスと意味.....	38
ベースパワー通信インジケータ.....	38
ベースチャージステータス.....	38
LOW POWER（低充電残量）アラート.....	38
低充電残量アラート充電残量設定.....	39
低充電残量アラートLED点滅回数設定.....	39
スキャナのリセット.....	40
スキャナをベースに置いた状態での読み取り.....	40
ベースチャージモード.....	40
ページング（スキャナの呼び出し）.....	41
ページングモード（スキャナの呼び出し）.....	41
ページング（呼び出し）音の音程.....	41
エラーインジケータ.....	41
ブザー音の音程：ベースのエラー発生時.....	41
スキャナレポート.....	42
スキャナのアドレス.....	42
ベースまたはアクセスポイントのアドレス.....	42
スキャナモード.....	43
通信モード.....	43
スキャナとの通信解除.....	44
通信固定されたの上書き.....	44
通信範囲外アラーム.....	44
アラーム音の種類.....	44
スキャナパワータイムアウトタイマー.....	45
出力管理.....	45
Xenon XP 1952g/1852h出力管理.....	46
Xenon XP 1952g-BF/1852h-BF出力管理.....	46
バッチモード.....	47
バッチモード：ブザー音.....	47
バッチモード：保存形式.....	47
個数の入力.....	48
個数コード.....	49
バッチモード：出力順序.....	49
レコードの合計件数.....	50
最後のコードを削除.....	50
すべてのコードを削除.....	50
保存したデータをホストシステムへ送信.....	50
バッチモード：送信ディレイ（間隔）.....	50
複数スキャナでの操作.....	51
スキャナ名.....	51
アプリケーションワークグループ.....	52
アプリケーションワークグループセレクション.....	52
初期設定へのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ.....	53

カスタムデフォルトへのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ	53
BLUETOOTH対応機器との併用	54
Bluetooth Secure Simple Pairing (SSP)	54
Bluetooth HIDキーボード接続	54
バーチャルキーボード	55
Bluetooth HIDキーボード通信切断	55
Bluetooth Low Energy (BLE) デバイス接続	55
Bluetoothシリアルポート：デスクトップ型PC/ノート型PC	56
PDAやモバイルデバイスとのベースなしBT接続	56
スキャナのBluetooth暗証コード変更	56
BLUETOOTH/ISM帯域ネットワーク干渉の最小化	56
自動再接続モード	56
再接続試行最高限度回数	57
再接続タイムアウト	57
Bluetooth/ISMネットワークアクティビティの例	58
ホストコマンドの認知	58
ホストACK	59
ホストACKタイムアウト	59
ホストACKのレスポンス	59
入力・出力設定	61
起動ブザー	61
BELブザー	61
トリガークリック音	61
読取成功インジケータ	62
ブザー：読取成功時	62
ブザーの音量：読取成功時	62
ブザーの音程：読取成功時	62
振動：読取成功時	62
振動時間	63
ブザーの音程：読み取り失敗時およびエラー発生時	63
ブザーの長さ：読取成功時	63
LED：読取成功時	63
ブザーの回数：読取成功時	64
ブザーの回数：読み取り失敗時およびエラー発生時	64
読取成功ディレイ	64
ユーザー定義の読取成功ディレイ	64
トリガーモード	64
マニュアルトリガーモード	64
トリガートグルモード	65
シリアルトリガーモード	66
読み取りタイムアウト	66
プレゼンテーションモード	66
トリガープレゼンテーションモード	66
デコード後のプレゼンテーションLEDの動作	67
プレゼンテーションセンタリング	67
スタンド使用時のセンサーモード	69
低品質コード	69
低品質1Dコード	69
低品質PDFコード	69
低解像度PDFコード	69
CODEGATE [®]	70
ストリーミングプレゼンテーション [™] モード	70
スタンド使用時のストリーミングプレゼンテーション設定	70
ハンズフリータイムアウト	70
再読取ディレイ	71
ユーザー定義の再読取ディレイ	71
2D読取ディレイ	71
キャラクタ有効化モード	72
キャラクタ有効化	72
読取成功後の終端文字のアクティベーション（有効化）	72
キャラクタ有効化タイムアウト	72
キャラクタ無効化モード	73
キャラクタ無効化	73
照明ライト	73
エイマーディレイ	73
ユーザー定義のエイマーディレイ	74

エイマーモード	74
センタリング	74
シングルコードセンタリング	74
カスタムセンタリング	74
優先シンボル	76
高優先度シンボル	76
低優先度シンボル	76
優先シンボルのタイムアウト	76
優先シンボルデフォルト	77
アウトプットシーケンスの概要	77
アウトプットシーケンスエディタ	77
アウトプットシーケンスの追加	77
アウトプットシーケンスエディタコマンド	77
エンターアウトプットシーケンス	80
パーシャルシーケンス	80
良好読取トーン - アウトプットシーケンス	82
複数シンボル	83
NO READ	83
ビデオリバース (反転コード)	83
ワーキングオリエンテーション	84
ヘルスケア設定	85
クワイエットオペレーション - コンビネーションコード	85
LED点滅消音モード	85
長いLED消音モード	85
超小音量 (夜間モード)	85
小音量 (昼間モード)	86
クワイエットオペレーション - LEDとボリューム設定	86
LEDの色と音のリンク	86
LED点滅回数	86
LED点滅間隔	87
LED固定、点滅無	87
呼び出し音制御	87
通信範囲外アラーム	88
範囲外アラームディレイ	88
データ編集	90
プレフィックス/サフィックスについて	90
補足	90
プレフィックスまたはサフィックスの追加手順	90
例: タブサフィックスをすべてのシンボルに追加する	91
1つまたはすべてのプレフィックスまたはサフィックスの削除	91
キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに追加する	91
プレフィックスの設定	91
サフィックスの設定	92
ファンクションコード送信	92
キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間ディレイ	92
キャラクタ間ディレイ	92
ユーザー指定のキャラクタ間ディレイ (間隔)	93
ファンクション間ディレイ (間隔)	93
メッセージ間ディレイ (間隔)	93
データフォーマット	94
データフォーマットエディタについて	94
データフォーマット表示	94
データフォーマットの追加	94
他のプログラミング設定	95
端末IDテーブル	96
データフォーマットエディタコマンド (編集コマンド)	96
送信コマンド	96
移動コマンド	100
検索コマンド	101
その他のコマンド	103
データフォーマッタ	106
データフォーマット不一致エラーブザー	106
基準/代用データフォーマット	107

シンボル 108

すべてのシンボル 108

読取桁数について 109

CODABAR 109

CODE39 110

INTERLEAVED 2 OF 5 (ITF) 113

NEC 2 OF 5 114

CODE93 115

STRAIGHT 2 OF 5 INDUSTRIAL (3バースタート/ストップ) 116

STRAIGHT 2 OF 5 IATA (2バースタート/ストップ) 116

MATRIX 2 OF 5 117

CODE11 118

CODE128 118

 ISBT128連結機能 119

GS1-128 120

TELEPEN 120

UPC-A 121

拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13 123

クーポンGS1データバー出力 123

UPC-E0 124

UPC-E1 125

EAN/JAN-13 126

 ISBN変換 130

EAN/JAN-8 131

MSI 132

GS1データバー標準型 (オムニディレクショナル) 133

GS1データバー限定型 (リミテッド) 133

GS1データバー拡張型 (エクспанデッド) 134

TRIOPTICコード 134

CODABLOCKA 134

CODABLOCKF 135

ラベルコード 136

PDF417 136

MACROPDF417 136

MICROPDF417 137

GS1コンポジットシンボル 137

GS1エミュレーション 138

TCIF LINKED CODE39 (TLC39) 138

QRコード 139

DOTコード 140

DIGIMARC BARCODE™ 141

DATA MATRIX 141

MAXIコード 143

AZTECコード 143

中国漢信 (HAN XIN) コード 144

2次元郵便コード 145

 Postnet チェックデジット 147

 オーストラリア郵便 判読 147

1次元郵便コード 148

 中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 148

 韓国郵便 148

イメージングコマンド 150

シングルユースペース 150

コマンドシNTAX 150

イメージスナップ - IMGSNP 150

 IMGSNPモディファイア 150

画像送信 - IMGSH 152

 IMGSHモディファイア 153

 画像サイズの互換性 158

署名の取り込み - IMGBOX 159

署名取り込みの最適化.....	159
IMGBOXモディファイア.....	160
RF初期設定イメージングデバイス.....	162
インターフェースキー.....	163
キーボードファンクションの関係.....	163
サポートされているインターフェースキー.....	164
ユーティリティ.....	165
全シンボル体系のテストコードIDプレフィックス追加.....	165
ソフトウェアビジョン表示.....	165
テストメニュー.....	165
TOTALFREEDOM（トータルフリーダム）.....	165
プラグインアプリケーション.....	165
EZCONFIGについて.....	166
EZConfigの操作.....	166
初期設定の再設定.....	167
シリアルプログラミングコマンド.....	168
記述上の語句.....	168
メニューコマンドシンタックス（構文）.....	168
クエリコマンド.....	168
クエリコマンドの例.....	169
トリガーコマンド.....	170
標準の製品初期設定へのリセット.....	170
メニューコマンド.....	171
製品仕様.....	190
XENON 1950/1950Hスキャナ製品仕様.....	190
XENON 1952/1952Hコードレススキャナ製品仕様.....	191
XENON 1952G-BF/1952H-BFスキャナ製品仕様.....	192
CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFチャージャーベース製品仕様.....	193
CCB-H-01-010BT/CCB-H-01-010BT-BFチャージャーベース製品仕様.....	193
読取深度（DoFチャート）.....	194
標準ケーブルのピン配列.....	196
キーボードウェッジ.....	196
シリアル出力.....	196
RS485アウトプット.....	196
USB.....	197
必要な安全ラベル.....	197
Xenon 1950/1950h/1952/1952hスキャナ.....	197
CCB01-010BT/CCB01-010BT/BF ベース.....	198
CCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BF ベース.....	198
保守修理.....	199
保守.....	199
機器の清掃.....	199
ウィンドウの清掃.....	199
ヘルスケアハウジング（殺菌洗浄可能ハウジング）について.....	199
ケーブルとコネクタの点検.....	200
スキャナのインターフェースケーブルの交換.....	200
Xenonスキャナのインターフェースケーブルの交換.....	200
コードレスシステムのケーブルおよびバッテリーの交換.....	200
ベースユニットのインターフェースケーブルの交換.....	200
Xenonスキャナバッテリーの交換.....	201
スキャナのトラブルシューティング.....	201
コードレスシステムのトラブルシューティング.....	201
ベースユニットのトラブルシューティング.....	201
コードレススキャナのトラブルシューティング.....	202
カスタマーサポート.....	203
テクニカルサポート.....	203

製品のサービスと修理	203
条件付き保証	203
付録チャート	205
シンボルチャート	205
リニアシンボル	205
2次元シンボル	206
郵便シンボル	206
ASCII変換チャート（コードページ1252）	207
下位ASCIIリファレンステーブル	208
ISO 2022/ISO 646キャラクタ変換	210
キーボードキーマップ	212
サンプルシンボル	213
プログラミングチャート	215

はじめに

本マニュアルについて

本書では、Xenon™1950と1950hエリアイメージングスキャナならびにXenon1952コードレスエリアイメージングスキャナの使用方法と設定の手順について説明しています。また、製品の仕様、外形寸法、保証内容、およびカスタマーサポートに関する情報も含まれています。

ハネウェル社のバーコードスキャナは、工場出荷時に一般的な端末および通信装置用にプログラム設定されています。設定変更が必要な場合は、本書記載のバーコードを読み取ってプログラム設定してください。

アスタリスク（*）が付いているオプションは工場出荷時の設定を示しています。

製品の開梱

梱包箱を開封後、以下の手順に従ってください。

- 配送中の損傷がないか確認してください。損傷があった場合は、すぐに配送した運送会社に連絡してください。
- 箱の中身に間違いがないか確認してください。
- 返却もしくは保管用に、梱包箱はそのまま保管してください。

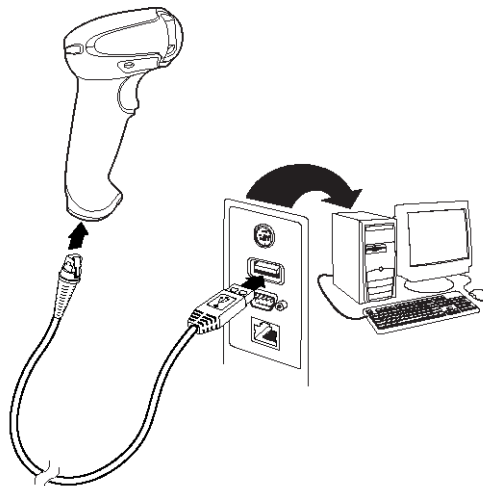
接続

USBでの接続

スキャナもしくはベースをホストデバイスのUSBポートに接続します。

1. まず、適切なインターフェースケーブルとスキャナを接続し、次にホストデバイスと接続します。

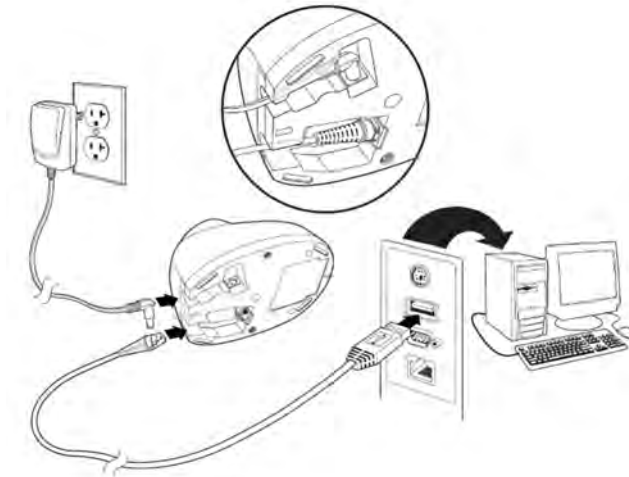
Xenon1950コード付きスキャナのUSB接続



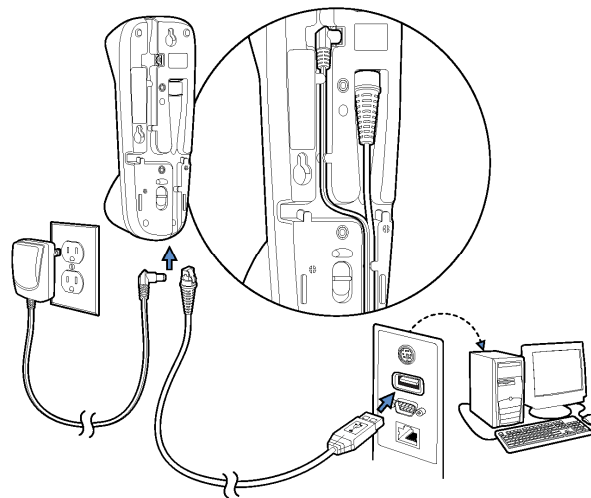
注意：必要な場合、電源を別途購入してください。

2. CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFまたはCCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BFベースに接続する場合、ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上になっすぐ置かれているか確認します。

CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFベースのUSB接続



CCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BFベースのUSB接続



3. スキャナからピーツという起動音がします。
4. 本書に記載の[サンプルシンボル](#)からバーコードを読み取り、スキャナまたはコードレスベースの動作を確認してください。

この機器はPCのUSBキーボード用に初期設定されています。その他のUSB端末との接続については、[パソコンもしくはマッキントッシュのUSBキーボード](#)のページを参照してください。

その他のUSBのプログラム設定と技術情報については、ウェブサイトwww.honeywellaidc.comの「USB Application Note」(USBアプリケーションノート)をご参照ください。

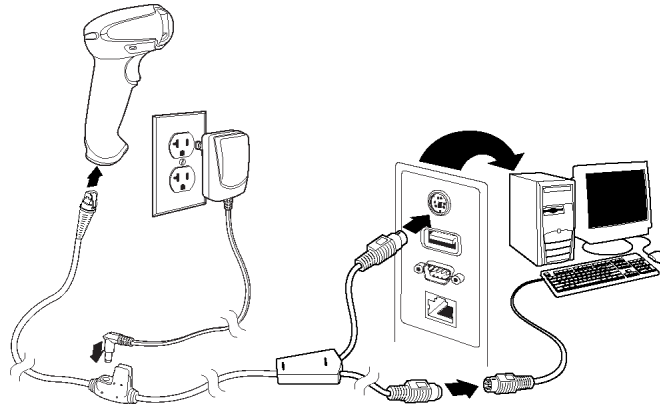
キーボードウェッジ接続

スキャナまたはコードレスベースは、キーボードとPC間をキーボードウェッジとして接続できます。キーボード入力と同様のデータ出力を提供します。

以下は、キーボードウェッジ接続の一例です。

1. ホストデバイスの電源をオフにし、裏側のキーボードケーブル接続をはずします。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナおよびホストデバイスに接続します。

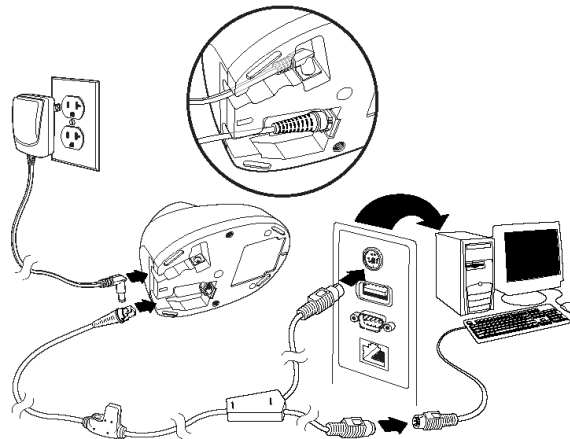
Xenonコード付きスキャナのキーボードウェッジ接続



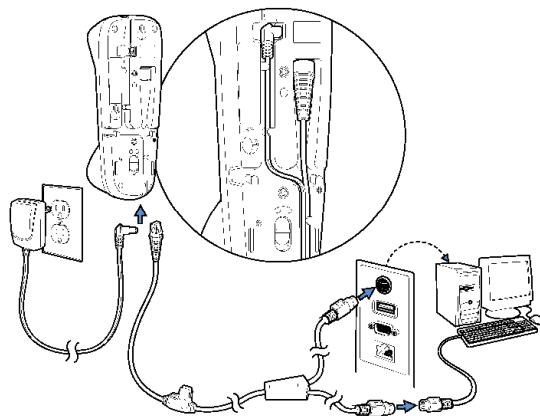
注意：必要な場合、電源を別途購入してください。

3. CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFまたはCCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BCCB01-010BTベースに接続する場合、ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上に乗っすぐ置かれているか確認します。

CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFベースのキーボードウェッジ接続



CCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BFベースのキーボードウェッジ接続



4. 端末/コンピュータの電源をオンにします。スキャナからピーツという起動音がします。
5. 本書の裏表紙に記載の[サンプルシンボル](#)からバーコードを読み取り、スキャナまたはコードレスベースの動作を確認してください。スキャナから1回ピーブ音が鳴ります。

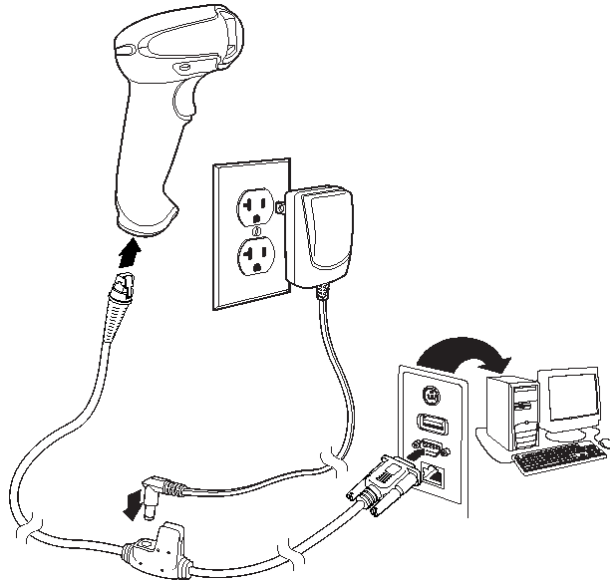
お使いのスキャナもしくはベースは、IBM PC ATでのUSキーボードウェッジインターフェース用に設定されています。バーコードデータにはキャリッジリターン（CR）サフィックスが追加されます。

RS232シリアルポート接続

1. 端末/コンピュータの電源をオフにします。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続します。

注意：スキャナもしくはコードレスベースが正常に動作するようにお使いのホストデバイスに適したケーブルをご用意ください。

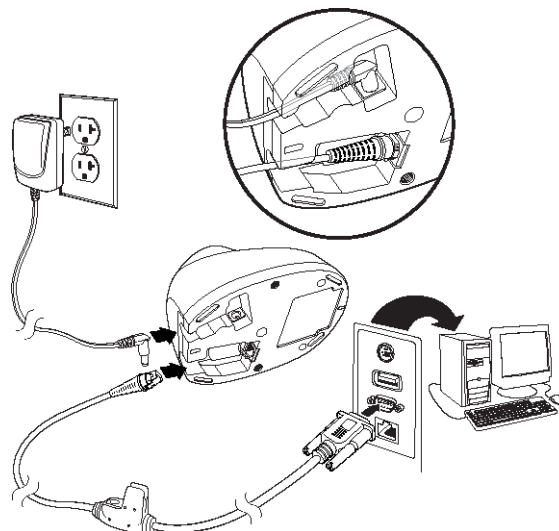
Xenonコード付きスキャナのRS232シリアルポート接続



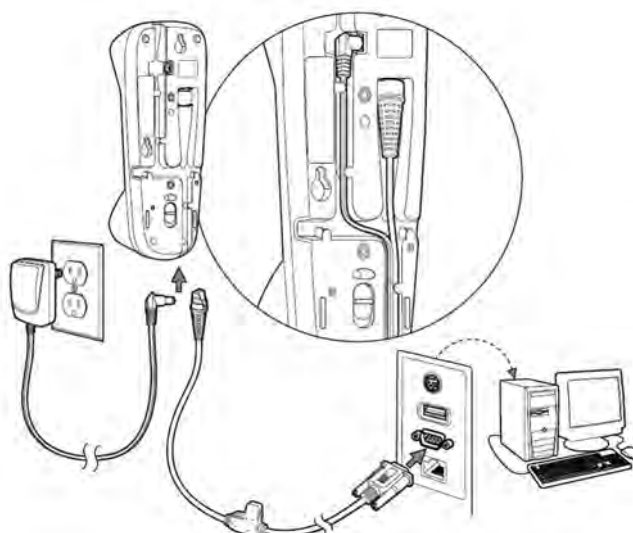
注意：必要な場合、電源を別途購入してください。

3. CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFまたはCCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BCCB01-010BTベースに接続する場合、ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上に乗っすぐ置かれているか確認します。

CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFベースRS232シリアルポート接続



CCB02-100BT/CCB05/100BTベースRS232シリアルポート接続



4. シリアルコネクタをコンピュータのシリアルポートに差し込みます。2本のネジを締めてコネクタをポートに固定します。
5. スキャナもしくはコードレスベースの接続が完了したら、コンピュータの電源を入れます。

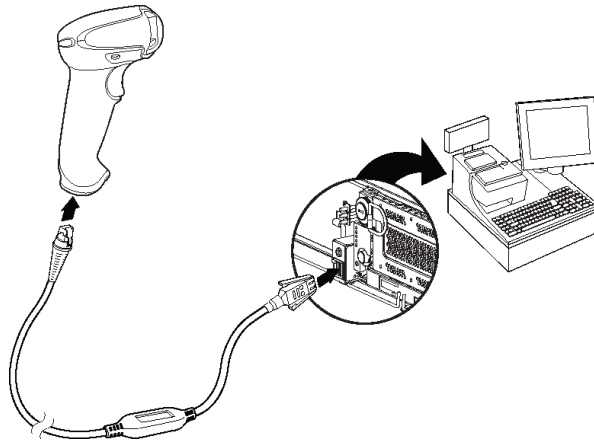
このインターフェースはボーレート115,200、8データバイト、パリティなし、1ストップビットに設定されています。

RS485接続

XenonスキャナまたはコードレスベースをIBM POS端末と接続します。

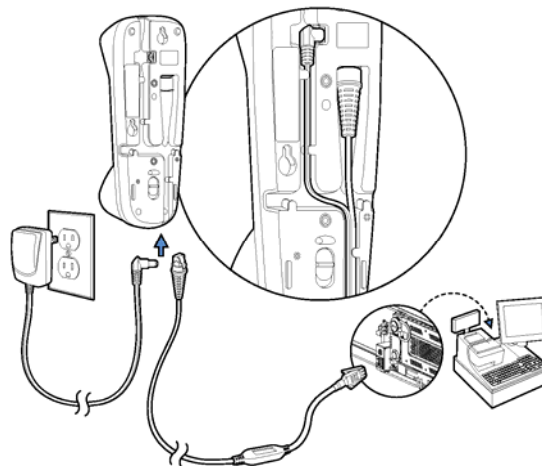
1. まず、適切なインターフェースケーブルをスキャナ/コードレスベースに接続した後、ホストデバイスに接続します。

Xenonコード付きスキャナのRS485接続

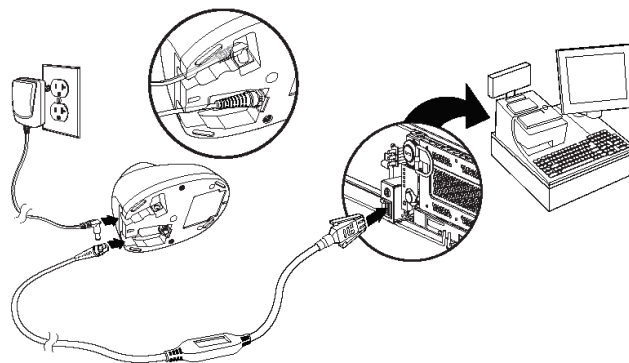


2. CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFまたはCCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BFベースに接続する場合、ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上に乗っすぐ置かれているか確認します。

CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFベースのRS485接続

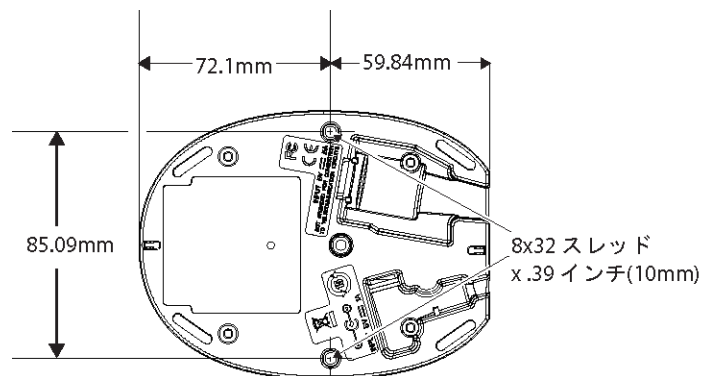


CCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BFベースのRS485接続



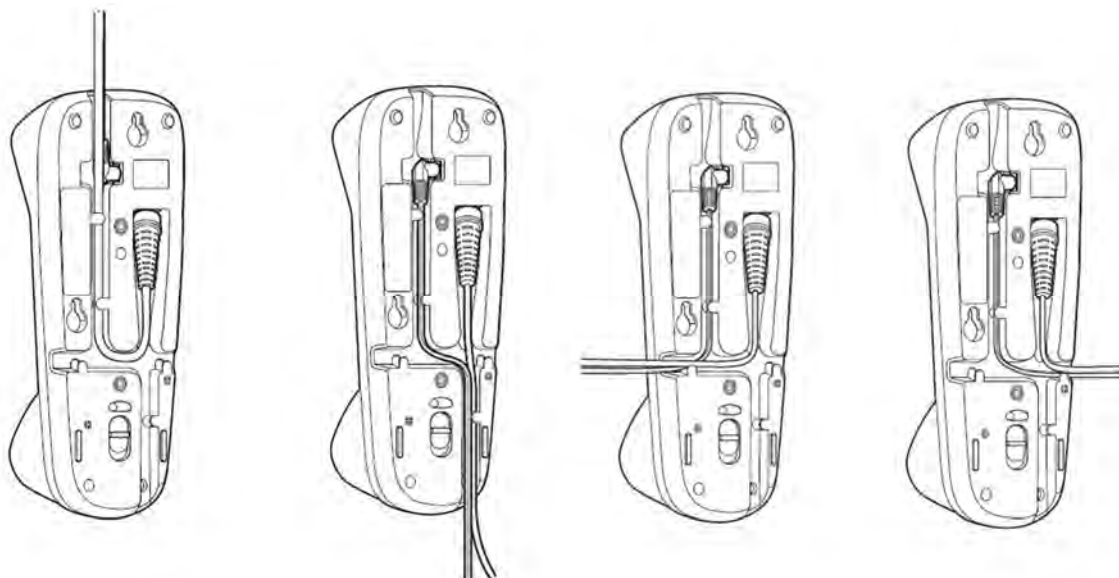
3. 端末/コンピュータの電源をオンにします。スキャナからピーツという起動音がします。
4. 本書の裏表紙に記載の**サンプルシンボル**からバーコードを読み取り、スキャナまたはコードレスベースの動作を確認してください。スキャナから1回ビーブ音が鳴ります。

CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFの設置

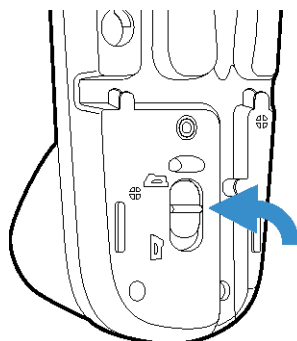


CCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BFの設置

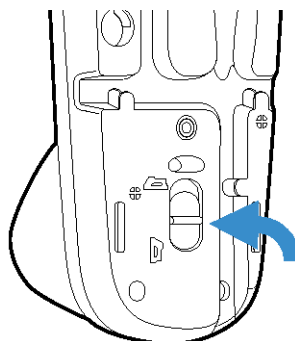
CCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BFベースは水平面または垂直面のどちらにでも設置できます。ケーブルはベースの上面または底面のどちらからでも配線可能です。



垂直面に設置する場合、ロックシステムでスタンドに置いたスキャナを保護します。水平面に取り付ける場合、ロック機構はロック解除（押し下げ）に設定する必要があります。垂直面に取り付ける場合、ロック機構はロック（押し上げ）に設定する必要があります。



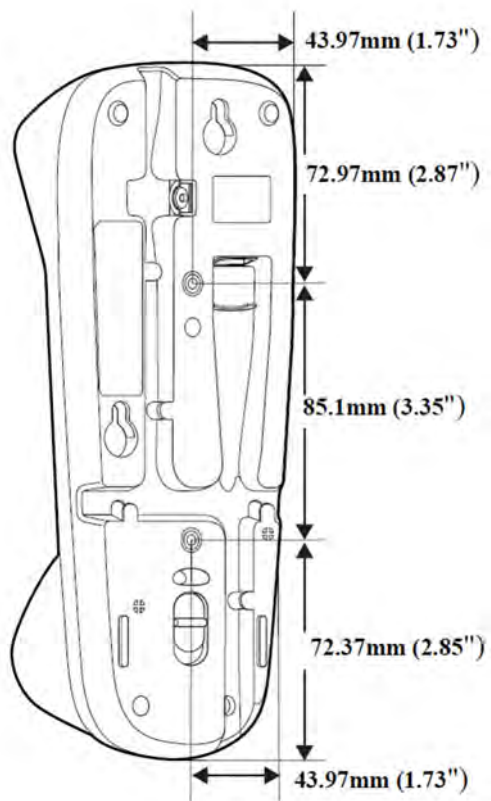
垂直面設置のロック



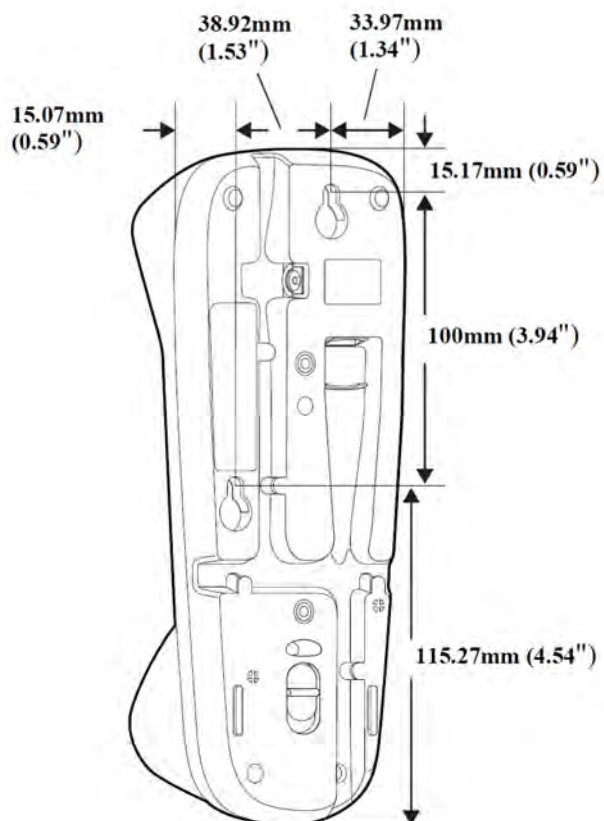
水平面設置のロック解除

取付面の素材に適した30mmのネジを使用し、ベースを安全に取り付けてください。

水平面設置



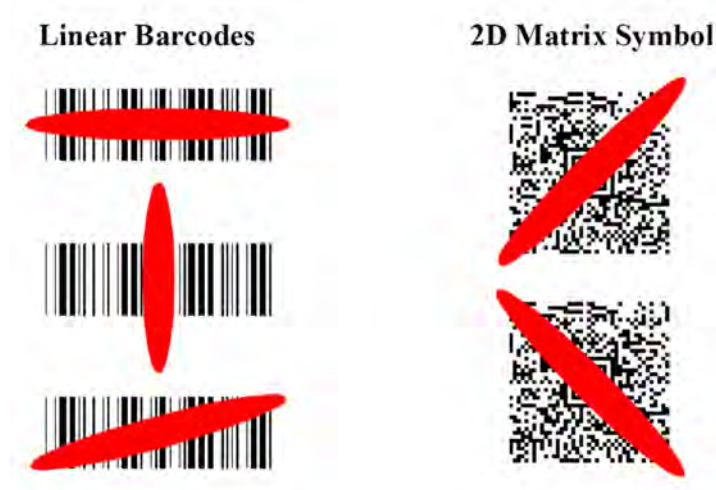
垂直面設置



読み取り方法

Xenon 1950/1952

Xenon1950/1952スキャナにはスキャナの横方向の視界に相当する明るい赤のエイミングビームを投射するビューファインダがあります。エイミングビームは、バーコードの中央に合わせてください。ただし、読み取りやすくするためにどの方向にしてもかまいません。



メニューバーコードセキュリティ設定

ハネウェル社のスキャナ製品はメニューバーコードを読み取るか、シリアルコマンドをスキャナに送るよう設計されています。メニューバーコード読み取りを規制したい場合は、メニューバーコードのセキュリティ設定を利用可能です。

カスタムデフォルトの設定

お客様独自のカスタムデフォルトのメニューコマンドを作成することができます。そのためには、以下の保存したいメニューコマンドもしくはシーケンスの前に**カスタムデフォルトの設定**バーコードを読み取ってください。コマンドで[プログラミングチャート](#)から数字コードを読み取る必要がある場合は、そのあとに保存のバーコードを読み取ればシーケンス全体がカスタムデフォルトとして保存されます。カスタムデフォルト用に保存するすべてのコマンドを入力したら、**カスタムデフォルトの保存**バーコードをスキャンします。



注意：コードレスシステムを使用する場合、カスタムデフォルト設定はすべてのワークグループに適用されます。コードレスシステムを使用している場合、**カスタムデフォルトの保存**バーコードをスキャンすることでスキャナとベースの両方、またはアクセスポイントにリセットを実行し、リンクが解除されてしまいます。リンクを再確立するには、セットアップコードが入力される前にスキャナをベースに置かれなければなりません。アクセスポイントを使用している場合、リンクバーコードを読み取ってください。

複数のカスタムデフォルトがあり、そのうち1つの設定を変えたい場合は、古い設定を上書きするだけです。例えば、ブザーの音量をカスタムデフォルトでは「低」に設定していて、「高」に変更しようとする場合、**カスタムデフォルトの設定**バーコードを読み取り、それからブザー音量大バーコードを読み取った後に**カスタムデフォルトの保存**を読み取るだけです。他のカスタムデフォルトは残りますが、ブザー音量の設定は更新されます。

カスタムデフォルトの再設定

ご使用のスキヤナでカスタムデフォルト設定を復元したい場合、以下の**カスタムデフォルトの起動**バーコードを読み取ってください。これは多くのユーザーに推奨するデフォルトバーコードです。スキヤナの設定をカスタムデフォルト設定に再設定するものです。カスタムデフォルトがない場合は、工場出荷時の初期設定値になります。カスタムデフォルトによって指定されていない設定はすべて工場出荷時設定になります。



DEFAULT.

カスタムデフォルトの起動

注意：コードレスシステムをご使用の場合、このバーコードを読み取ると、スキヤナとベースにもリセットを実行し、リンクが解除されてしまいます。リンクを再確立するには、セットアップコードが入力される前にスキヤナをベースに置かれなければなりません。コードを入力する前にリンクを再確立するために、スキヤナをベースに置いてください。アクセスポイントを使用している場合、リンクバーコードを読み取ってください。

インターフェースの設定

はじめに

この章では、目的のインターフェースに合わせてシステムを設定する方法について説明します。

インターフェースのプログラム設定 - プラグ&プレイ

プラグ&プレイのバーコードで、一般的に使用されているインターフェース用にスキャナを簡単に設定することができます。

注意：コードの1つを読み取った後、ホスト端末インターフェースを有効にするために再起動する必要があります。

キーボードウェッジ

ご使用のシステムをIBM PC AT互換機やUSキーボードと互換性のあるキーボードウェッジインターフェースで設定される場合は、以下のバーコードを読み取ってください。キーボードウェッジは初期設定のインターフェースです。

注意：Granit1980iはキーボードウェッジインターフェースに対応していません。

注意：以下のバーコードを読み取ると、キャリッジリターン（CR）サフィックスも有効になります。



ノート型PCとの直接接続

ほとんどのノート型PCの場合、ノート型PCとの直接接続のバーコードを読み取ることで、内蔵キーボードとの同時操作が可能になります。以下のノート型PCとの直接接続バーコードもまたキャリッジリターン（CR）サフィックスの設定を行い、外付けキーボードの使用を有効にします。



RS232シリアルポート

RS232インターフェースバーコードはパソコンもしくは端末のシリアルポートとの接続に用います。以下のRS232インターフェースバーコードもキャリッジリターン（CR）やラインフィード（LF）サフィックス、ならびに以下で示されるようなボーレートやデータフォーマット設定を行います。またトリガーモードもマニュアルに変換します。

オプション	設定
ボーレート	115,200bps
データフォーマット	8データビット、パリティビットなし、1ストップビット



RS485

IBM POSの端末インターフェースへスキャナを接続する場合は、以下のいずれかの設定バーコードを読み取ってください。

注意：このインターフェースはGraniデバイスではサポートしていません。

これらのバーコードの1つを読み取った後は、必ずキャッシュレジスタを再起動してください。



前述の各バーコードは以下のそれぞれのシンボルへのサフィックスを設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN 8	0C	Code39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC A	0D	Code128 *	00 0A 0B
UPC E	0A	Code128 **	00 18 0B
		MaxiCode	00 2F 0B

*サフィックスはIBM4683ポート5B、IBM4683ポート9B、HHBCR-1、ならびにIBM4683ポート17インターフェースでCode128用に設定されています。

**サフィックスはIBM4683ポートHHBCR-2インターフェースでCode128用に設定されています。

USB IBM SurePos

以下の「プラグ&プレイ」バーコードのうち1つを読み取り、IBM SurePos（USBハンドヘルドスキャナ）もしくはIBM SurePos（USB卓上スキャナ）インターフェースの設定を行ってください。

注意：設定バーコード読み取り後、キャッシュレジスタを再起動して、インターフェースを有効にしてください。



上記の各バーコードでは、シンボルごとに以下のサフィックスもプログラム設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN 8	0C	Code39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC A	0D	Code128	00 18 0B
UPC E	0A	Code39	00 0A 0B

パソコンもしくはマッキントッシュのUSBキーボード

以下のコードのうち1つを読み取り、パソコンのUSBキーボードもしくはマッキントッシュのUSBキーボードの設定を行ってください。これらのコードを読み取ると、CRも追加されます。



PAPER124.

USBキーボード (PC)



PAPER125.

USBキーボード (Mac)



TRMUSB134.

USB日本語キーボード (PC)

USB HID

以下のコードのうち1つを読み取り、USB HIDバーコードスキャナのスキャナ設定を行ってください。



PAPER131.

USB HIDバーコードスキャナ

USB シリアル

以下のコードを読み取り、標準のRS232ベースのCOMポートにエミュレートするようスキャナを設定してください。お客様がMicrosoft® Windows®のパソコンをお使いの場合は当社ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) からドライバをダウンロードしていただく必要があります。ドライバは次に空いているCOMポートに接続します。Apple®マッキントッシュコンピュータの場合は、スキャナをUSB CDCクラスデバイスとして認識し、自動でクラスドライバを使用します。



TRMUSB130.

USBシリアル

注意：他の設定（ポーレートなど）は不要です。

CTS/RTS エミュレーション



USBCTS1.

CTS/RTSエミュレーション有効



USBCTS0.

*CTS/RTSエミュレーション無効

ACK/NAKモード



Verifone® Ruby 端末の初期設定

Verifone Ruby 端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを1200bps、データフォーマットを8データビット、パリティビットなし、1ストップビットにします。また、ラインフィード（LF）サフィックスならびに各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定を行います。

シンボル	プレフィックス
UPC-A	A
UPC-E	A
EAN-8	FF
EAN-13	F



Gilbarco® 端末の初期設定

Gilbarco 端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを2400bpsに、データフォーマットを7データビット、偶数パリティビット、2ストップビットにします。また、キャリッジリターン（CR）サフィックスならびに各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定を行います。

シンボル	プレフィックス
UPC-A	A
UPC-E	A
EAN-8	FF
EAN-13	F



Honeywell2面式カウンタースキャナの補助ポート設定

Honeywell2面式カウンタースキャナの補助ポート構成の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを38400bps、データフォーマットを8データビット、パリティビットなし、1ストップビットにします。



Datalogic™ Magellan® 2面式カウンタースキャナの補助ポート設定

Datalogic Magellan2面式カウンタースキャナの補助ポート構成の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを9600bps、データフォーマットを8データビット、パリティビットなし、1ストップビットにします。



Datalogic Magellan2面式カウンタースキャナ設定

Wincor Nixdorf 端末の初期設定

Wincor Nixdorf 端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを9600bps、データフォーマットを8データビット、パリティビットなし、1ストップビットに設定します。



Wincor Nixdorf 端末設定

Wincor Nixdorf Beetle™ 端末の初期設定

Wincor Nixdorf Beetle 端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定も行います。

シンボル	プレフィックス	シンボル	プレフィックス
Aztec Code	V	Interleaved 2 of 5	I
Codabar	N	MaxiCode	T
Code93	L	MicroPDF417	S
Code128	K	PDF417	Q
Data Matrix	R	QR Code	U
EAN-8	B	Straight 2 of 5 IATA	H
EAN-13	A	UPC-A	A0
GS1 DataBar	E	UPC-E	C
GS1-128	P	その他すべてのバー コード	M



Wincor Nixdorf Beetle 設定

Wincor Nixdorf RS232 モードA

Wincor Nixdorf RS232モードA 端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを9600bps、データフォーマットを8データビット、パリティビットなし、1ストップビットに設定します。各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定も行います。

注意：このインターフェースはGranit デバイスではサポートしていません。

シンボル	プレフィックス	シンボル	プレフィックス
Code128	K	EAN-13	A
Code93	L	GS1-128	K
Codabar	N	Interleaved 2 of 5	I
UPC-A	A0	Plessey	O
UPC-E	C	Straight 2 of 5 IATA	H
EAN-8	B	GS1 DataBar	E
その他すべてのバー コード	M		



Wincor Nixdorf RS232モードA 設定

国別キーボード

インターフェースがUSBキーボードまたはキーボードウェッジの場合、キーボードはUSキーボードに初期設定されています。以下から該当する国コードを読み取り、自国もしくは自言語用のキーボードを設定します。原則として、以下の記号をサポートしますが、アメリカ以外の国では特別な留意が必要です。初期設定では「# \$ @ [\] ^ ' { | } ~」には国別文字置換が使用されます。各国のキャラクタ変換を見るには「[ISO 2022/ISO 646 キャラクタ変換](#)」ページを参照してください。



国別キーボード (つづき)



KBDCTY53.
ブルガリア (ラテン語)



KBDCTY18.
カナダ (フランス語)



KBDCTY32.
クロアチア



KBDCTY40.
チェコ (プログラマ)



KBDCTY38.
チェコ (QWERTZ)



KBDCTY11.
オランダ



KBDCTY54.
カナダ (フランス語レガシー)



KBDCTY55.
カナダ (多言語)



KBDCTY15.
チェコ



KBDCTY39.
チェコ (QWERTY)



KBDCTY8.
デンマーク



KBDCTY41.
エストニア

国別キーボード (つづき)



KBDCTY83.

フェロー語島



KBDCTY3.

フランス



KBDCTY4.

ドイツ



KBDCTY64.

ギリシャ (220ラテン語)



KBDCTY65.

ギリシャ (319ラテン語)



KBDCTY63.

ギリシャ (ラテン)



KBDCTY2.

フィンランド



KBDCTY84.

ゲール



KBDCTY17.

ギリシャ



KBDCTY61.

ギリシャ (220)



KBDCTY62.

ギリシャ (319)



KBDCTY66.

ギリシャ (MS)

国別キーボード (つづき)



KBDCTY60.

ギリシャ (ポルトニック)



KBDCTY50.

ハンガリー語 (101キー)



KBDCTY75.

アイスランド



KBDCTY56.

イタリア語 (142)



KBDCTY28.

日本語ASCII



KBDCTY79.

キリギリス語 (キリル)



KBDCTY12.

ヘブライ語



KBDCTY19.

ハンガリー



KBDCTY73.

アイルランド



KBDCTY5.

イタリア



KBDCTY78.

カザフスタン



KBDCTY14.

ラテンアメリカ

国別キーボード (つづき)



KBDCTY42.

ラトビア



KBDCTY44.

リトアニア



KBDCTY34.

マケドニア



KBDCTY86.

モンゴル (キリル)



KBDCTY20.

ポーランド



KBDCTY58.

ポーランド語 (プログラマ)



KBDCTY43.

ラトビア (QWERTY)



KBDCTY45.

リトアニア (IBM)



KBDCTY74.

マルタ



KBDCTY9.

ノルウェー



KBDCTY57.

ポーランド語 (214)



KBDCTY13.

ポルトガル語

国別キーボード (つづき)



KBDCTY25.

ルーマニア



KBDCTY67.

ロシア (MS)



KBDCTY21.

SCS



KBDCTY36.

セルビア (ラテン)



KBDCTY49.

スロヴァキア (QWERTY)



KBDCTY31.

スロヴェニア



KBDCTY26.

ロシア



KBDCTY68.

ロシア (タイプライター)



KBDCTY37.

セルビア (キリル)



KBDCTY22.

スロヴァキア



KBDCTY48.

スロヴァキア (QWERTZ)



KBDCTY10.

スペイン

国別キーボード (つづき)



KBDCTY51.
スペイン語 (バリエーション)



KBDCTY29.
スイス (フランス語)



KBDCTY85.
タタール語



KBDCTY24.
トルコQ



KBDCTY7.
イギリス



KBDCTY88.
アメリカ (左手用Dvorak)



KBDCTY30.
アメリカ (インターナショナル)



KBDCTY23.
スウェーデン



KBDCTY6.
スイス (ドイツ語)



KBDCTY27.
トルコF



KBDCTY76.
ウクライナ



KBDCTY87.
アメリカ (Dvorak)



KBDCTY89.
アメリカ (右手用Dvorak)



KBDCTY77.
ウズベク語 (キリル文字)

キーボードウェッジモディファイア

ALTモード

バーコードにASCIIチャートのスペシャルキャラクタがある場合は、ALTモードを使用します。例えばeの上にアクセントがあるè等が対象になります。

注意：ALTモードは通常のキーボードカントリーコードを読んだ後でスキャンしてください。

キーストローク（キー入力）の際に、ALTキーと3か4キャラクタが必要な時は、**3キャラクタ**または**4キャラクタ**バーコードを読み込んでください。データは00~255のスペシャルキャラクタが出力されます。初期設定はオフです。



KBDALTO.

*オフ



KBDALT6.

3キャラクタ



KBDALT7.

4キャラクタ

キーボードスタイル

Caps LockやShift Lockなどのキーボードスタイルを設定します。[キーボードの変換](#)設定を行った場合は、以下のキーボードスタイル設定すべてを上書きします。初期設定はレギュラーです。

通常、Caps Lockキーがオフの場合は、レギュラーを使用します。



KBDSTY0.

*レギュラー



KBDSTY1.

Caps Lock

通常、**Caps Lock**キーがオンの場合は、Caps Lockを使用します。

通常、**Shift Lock**キーがオンの場合は、Shift Lockを使用します。（USキーボードでは通常不使用。）



KBDSTY2.

Shift Lock

Caps Lockキーのオン/オフを切り換える場合に、**自動Caps Lock**を使用します。Caps Lockのオン/オフを追跡して自動で反映します。この設定を使用できるのは、Caps Lockステータスを通知するLEDがあるシステム（ATキーボード）の場合のみです。



KBDSTY6.

自動 Caps Lock

Caps Lockの切り換えにCaps Lockキーを使用できない国（ドイツ、フランスなど）では**Autocaps via NumLock**のバーコードを読み取ります。NumLockオプションは、通常のAutocapsと同じ働きをしますが、Caps Lockの現在の状態を確認するには、NumLockを使用します。



KBDSTY7.

Autocaps via NumLock

外付けキーボード（IBM ATまたは相当品）を使用していない場合は、**外付けキーボードのエミュレート**を読み取ります。



KBDSTY5.

外付けキーボードのエミュレート

注意：外付けキーボードのエミュレートのバーコードを読み取った後は、コンピュータを必ず再起動してください。

キーボードの変換

アルファベットのキーボード文字を強制的にすべて大文字またはすべて小文字にできます。例えば、「abc569GK」というバーコードの場合、**すべての文字を大文字に変換**バーコードを読み取ると、「ABC569GK」と出力させることができます。また、**すべての文字を小文字に変換**バーコードを読み取ると、「abc569gk」と出力します。

この設定は[キーボードスタイル](#)の設定を上書きします。

注意：お使いのインターフェースがキーボードウェッジの場合は、**自動Caps Lock**をまず読み取ってください。そうでない場合は出力が期待通りにならないことがあります。

初期設定はキーボードの変換無効です。



KBDENV0.

*キーボード変換無効



KBDENV1.

すべての文字を大文字に変換



KBDENV2.

すべての文字を小文字に変換

制御文字の出力

この機能を選択すると、制御文字の代わりにテキスト文字列を送信します。例えば、キャリッジリターンの制御文字が必要な場合、ASCIIコードの0Dの代わりに、「CR」と出力表示されます。[ASCII変換チャートページ](#)を参照してください。00から1Fまでが変換されます（チャートの最初の列）。初期設定は無効です。

注意：Control + X（Control + ASCII）モードはこのモードを上書きします。



KBDNPE1.

制御文字出力有効



KBDNPE0.

*制御文字出力無効

キーボードモディファイア

ここでは、CTRL+ASCIIコードやターボモードといった特別なキーボードの機能調節を行います。

Control + WindowsモードのControl + Xモード有効：00～1Fの値のASCII制御文字キーを組み合わせで送信します。

Windowsは推奨モードです。すべてのキーボードの国別コードがサポートされています。DOSモードはレガシーモードであ

り、すべてのキーボードの国別コードに対応しているわけではありません。新規ユーザーはWindowsモードをお使いください。

WindowsモードPrefix/Suffix無効：00～1Fの値のASCII制御文字キーを組み合わせで送信しますが、プレフィックスならびにサフィックスの情報転送は一切行いません。

初期設定はControl + Xモード無効です。



ターボモード：端末へのキャラクタ送信を高速化します。端末でキャラクタの読み落としがある場合は使用しないでください。初期設定は無効です。



数字キーパッドモード：テンキーで入力したように数字を送信します。初期設定は無効です。



自動直接接続モード：IBM AT型の端末を使用し、システムでキャラクタの読み落としがある場合に使用できます。初期設定は無効です。



RS232モディファイア

RS-232ボーレート

スキャナから端末に指定の速度でデータを送信します。ホスト端末は、スキャナと必ず同じボーレートに設定してください。初期設定は115,200です。



RS232ワード長：データビット、ストップビット、パリティ

データビットはワード長を1文字あたり7または8データビットに設定します。アプリケーションでASCII16進数文字の0~7Fの10進数（文字、数値、句読点）のみが必要な場合は、7データビットを選択してください。フルセットのASCII文字を使用するアプリケーションでは、1文字あたり8データビットを選択します。初期設定は8です。

ストップビットは1または2に設定します。初期設定は1です。

パリティはキャラクタビットパターンが適正かどうかをチェックします。

初期設定はパリティなしです。



7データビット、1ストップビット、パリティ偶数



7データビット、1ストップビット、パリティ奇数



7データビット、2ストップビット、パリティなし



8データビット、1ストップビット、パリティ偶数



8データビット、1ストップビット、パリティ奇数



7データビット、1ストップビット、パリティなし



7データビット、2ストップビット、パリティ偶数



7データビット、2ストップビット、パリティ奇数



*8データビット、1ストップビット、パリティなし



8データビット、1ストップビット、パリティあり

RS232レシーバタイムアウト

スキャナはRS232レシーバタイムアウトが切れるまで、データを受信するために待機しています。マニュアルまたはシリアルトリガーでタイムアウトをリセットします。RS232レシーバがスリープ中の場合、キャラクタを送信してレシーバを起動し、タイムアウトをリセットすることができます。CTSライン上のトランザクションでも、レシーバを起動します。レシーバが完全に起動するには300ミリ秒かかります。次のバーコードを読み取ってRS232レシーバタイムアウトを変更し、本書の[プログラミンググチャート](#)から数字を読み取り、次に**保存**を読み取ります。設定範囲は0~300秒です。初期設定は0秒（タイムアウトなし=常時オン）です。



RS232ハンドシェイク

RS232ハンドシェイクとは、ホストデバイスから送信されるソフトウェアコマンドを利用して、スキャナからのデータ送信を制御するものです。RTS/CTSを無効にすると、データのフロー制御はできません。

フロー制御、タイムアウトなし：送信するデータがある場合、スキャナはRTSをアサートし、無期限にホストからCTSが送信されるまで無期限に待機します。

二方向フロー制御：スキャナはホストへの送信が可能な場合、RTSをアサートし、ホストはデバイスへの送信が可能な場合、CTSをアサートします。

タイムアウトつきフロー制御：スキャナは送信するデータがある場合、RTSをアサートし、ホストにアサートされたCTSをディレイ（遅延）分（[RS232タイムアウト](#)を参照）待ちます。もしディレイタイムが過ぎてもCTSがアサートされていない場合、デバイスが送るパuffaは取り消され、読み取りを再開します。初期設定はRTS/CTS無効です。



RS232タイムアウト

タイムアウトつきのフロー制御を用いる場合は、ホストからのCTS待機時間の長さを設定しなければなりません。以下のバーコードを読み取り、タイムアウトの長さ（ミリ秒単位）を設定し、数字を読み取ってタイムアウト（1~5100ミリ秒）を設定し、**保存**を読み取ってください。



XON/XOFF

スキャナへデータ送信（XON/XOFF有効）や送信中止（XON/XOFF無効）を行わせる際には標準ASCII制御文字が用いられます。ホストデバイスがXOFFキャラクタ（DC3、16進数13）をスキャナに送信することで送信を一時中断します。送信を再開するには、ホストからXONキャラクタ（DC1、16進数11）を送信します。データ送信は、XOFF送信によって停止されたところから続行されます。初期設定はXON/XOFF無効です。



232XON1.

XON/XOFF有効



232XON0.

*XON/XOFF無効

ACK/NAK

データ送信の後、スキャナはホストからのACKキャラクタ（16進数の06）もしくはNAKキャラクタ（16進数の15）レスポンスを待ちます。ACKを受け取ると、通信は完成し、スキャナはさらなるバーコードを探します。NAKを受け取ると、最後のバーコードが送信され、スキャナはACKやNAKを再度待ち受けします。ACK/NAKプロトコルを有効にする場合は、以下の**ACK/NAK有効**バーコードを読み取ってください。ACK/NAKプロトコルをオフにする場合は**ACK/NAK無効**を読み取ります。初期設定は**ACK/NAK無効**です。



232ACK1.

ACK/NAK有効



232ACK0.

*ACK/NAK無効

スキャナから2面式カウンタースキャナへの通信

以下の設定はハネウェル社製スキャナと2面式カウンタースキャナとの通信の接続に用います。

注意：2面式カウンタースキャナとの通信には、ボーレートを38400に、RS232タイムアウトを3000に設定しなければなりません。

2面式カウンタースキャナパケットモード

パケットモード有効は2面式カウンタースキャナとの互換性のために、スキャナのフォーマットを設定するときに読み取ります。初期設定はパケットモード無効です。



232PKT0.

*パケットモード無効



232PKT2.

パケットモード有効

2面式カウンタースキャナACK/NAKモード

各パケットが送信された後、スキャナが2面式カウンタースキャナからのACKもしくはNAKを待つ場合には**2面式カウンタースキャナACK/NAK有効**を読み取ります。下記の2面式カウンタースキャナACK/NAKタイムアウトはスキャナがレスポンスに対してどの程度待つかを制御するものです。初期設定は**2面式スキャナACK/NAK無効**です。



232NAK0.

*2面式カウンタースキャナACK/NAK無効



232NAK1.

2面式カウンタースキャナACK/NAK有効

2面式カウンタースキャナACK/NAKタイムアウト

2面式カウンタースキャナからのACK/NAKレスポンスに対するタイムアウト時間（ミリ秒単位）を設定するものです。以下のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字を読み取り、タイムアウト時間（1～30,000ミリ秒）を設定した後、**保存**を読み取ります。初期設定は5100です。



コードレスシステムの操作

注意：本章はコードレススキャナのみを対象としています。コードつきスキャナには適用できませんのでご注意ください。

コードレスチャージベース/アクセスポイントの仕組み

コードレスチャージベースまたはアクセスポイントはコードレススキャナとホストシステム間の通信を行います。ベースまたはアクセスポイントはインターフェースアセンブリとRF通信モジュールが含まれています。RF通信モジュールは、コードレススキャナとインターフェースアセンブリ間のデータ交換を行います。制御アセンブリは中枢インターフェースの動作を調整します。それには、ホストシステムとの間で行われるコマンドやデータの送受信、ソフトウェアの実行（パラメータのメニュー化、ビジュアルインジケータのサポート、パワーオン診断）、ホストシステムのために必要なデータ変換を含みます。

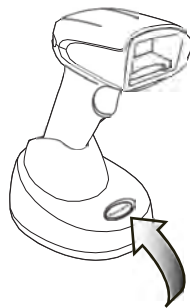
コードレスチャージベースはスキャナの充電器でもあります。

スキャナのチャージベースへの接続

ベースを接続する前に電源をオフにし、ベースが完全に接続された時点でホストデバイスを起動してください。ベースが接続され、ホストデバイスが起動してからスキャナをベースに差しこみ通信します。ベースの緑色LEDが点滅すると、スキャナのバッテリーが充電中であることを示します。

スキャナとベースが以前に通信していた場合は、反応はありません。スキャナとベースが今回初めて通信接続された場合、双方の無線が通信した時点でスキャナとベースの両方から音が鳴ります。これでこの一台のスキャナが一台のベースに接続されたこととなります。

Xenonスキャナ

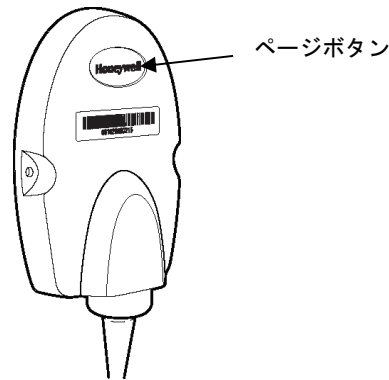


CCB01-010BTチャージベースユニット

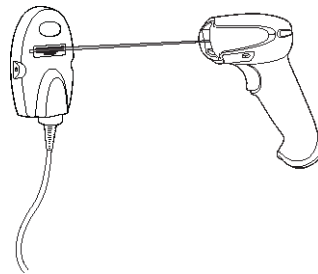
コードレスシステムが正しく設定されているか判断するには、本書の終わりにあるサンプルバーコードの1つを読み取ってみてください。スキャナから読み取り有効を示すピーツという音が一回発せられ、緑のLEDが点灯した場合、スキャナとベースは正常にリンクしています。Granitスキャナの場合は振動します。エラーブザーが鳴り赤いLEDが点灯した場合、スキャナはベースに接続されていません。

スキャナとアクセスポイントの接続

コンピュータ（ノートPC/デスクトップ）を起動します。はじめにインターフェースケーブルをアクセスポイントに接続し、次にコンピュータのポートへ接続します。ホストへの接続が確立するとページボタンが点灯します。



アクセスポイントの上部にあるリンクバーコードを読み取り、アクセスポイントとスキャナ間の接続を確立します。スキャナは短いピープ音を発し、緑のLEDが点滅してアクセスポイントの接続が確認できます。アクセスポイントのページボタンは青色のままです。



リンクされたスキャナの交換

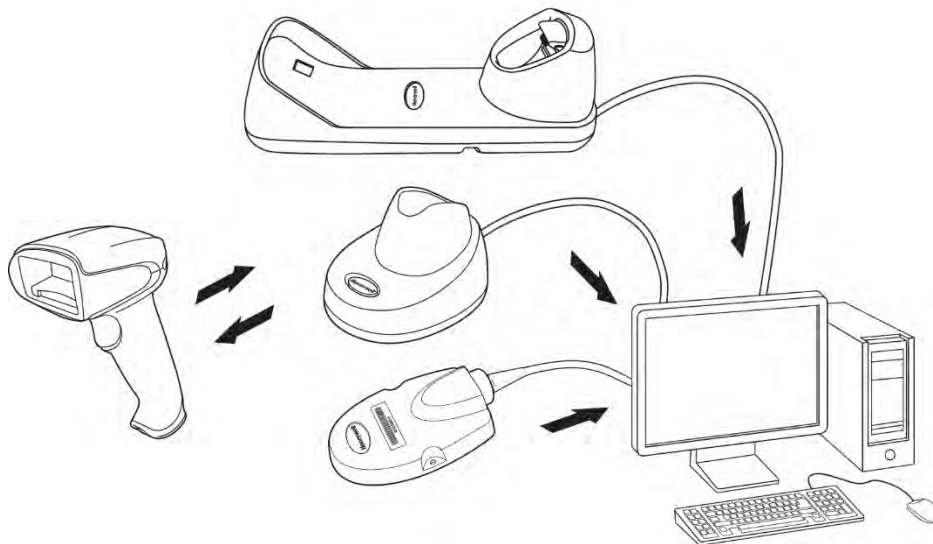
チャージベースまたはアクセスポイントにリンクされた故障または紛失したスキャナを交換する必要がある場合、新しいスキャナで以下のロックスキャナの上書きバーコードを読み取り、スキャナをベースユニットに置くか、アクセスポイントのリンクバーコードを読み取ります。ロックされたリンクは上書きされ、故障または紛失したスキャナのベースユニットまたはアクセスポイントとのリンクが削除され、新しいスキャナがリンクされます。



コードレスシステムとホストデバイス間の通信

バーコードが正しく読み取られてベースがデータの受信を認知すると、コードレススキャナは「読取成功」を視覚的かつ聴覚的（スキャナ上部の緑色LEDが点灯し、ピーツという音が鳴る）に表示します。Granitスキャナの場合は振動します。バーコードが正しくスキャンされ、ベースユニットまたはアクセスポイントからデータ受信確認がされたことを示します。コードレスシステムはスキャナとベースまたはアクセスポイントの間で双方向通信するため、このようなことが可能になります。

データが読み取られると、データはベースまたはアクセスポイントを介してホストシステムへ送られます。コードレススキャナはベースまたはアクセスポイントからのデータの認知（ACK）を認識します。データがベースまたはアクセスポイントへ正しく送信されたか否か判定できない場合は、スキャナはエラーを表示します。その際には、スキャンされたデータがホストシステムによって受信されたかをチェックしなければなりません。



1. 読取が成功するとベースユニットまたはアクセスポイントからACKを受信します。
2. ベースユニットまたはアクセスポイントがホストシステムへデータを送信します。

スキャナとベースユニットまたはアクセスポイントのプログラム

システムとしてスキャナとベースまたはアクセスポイントと一緒に使用する場合、メニューパラメータと設定がチャージベースまたはアクセスポイントに保存されます。それゆえ、メニュー設定をプログラムする場合、スキャナはチャージベースまたはアクセスポイントにリンクしている必要があります。

注意：スキャナがチャージベースまたはアクセスポイントにリンクされている場合のみ適用されます。スキャナがノンベースモードの場合、設定はスキャナに保存されます。

RF（無線周波数）モジュールの操作

コードレスシステムは二方向Bluetooth®無線を利用して、スキャナおよびベースまたはアクセスポイント間におけるデータの送受信を行いません。ライセンス不要なISM帯域を使用することで、周波数がランダムに変化する無線信号に比較的小さいデータパケットを載せて高速なデータレートで送信しています。それゆえに、当コードレスシステムを多様なデータ収集アプリケーションに対応でき、かつノイズの多い無線周波数環境に対して強い耐性のある製品にしています。CCB01-010BT（Bluetoothクラス2）は環境によりませんが、スキャナとベースまたはアクセスポイント間の通信距離はおよそ10m程度になります。CCB02-100BT/CCB05-100BT（Bluetoothクラス1）は環境によりませんが、スキャナとベースまたはアクセスポイント間の通信距離はおよそ100m程度になります。この範囲のコントロールについては[出力管理](#)の項目をご覧ください。

システム条件

スキャナをベースまたはアクセスポイントに連動させたり、スキャナを通信可能範囲外へ持ち出したり、再び範囲内へ持ち込んだり、2つのコードレスシステムの間でスキャナを交換したりする際、コードレスシステムの構成部分は、特定の相互作用を起こします。下記はコードレスシステムの動作条件について説明したものです。

通信プロセス

スキャナがコードレスチャージベースに差し込まれると、スキャナのバッテリー残量がチェックされ、ソフトウェアは自動的にスキャナを検知します。選択された接続モードに合わせてスキャナをベースに接続します。

スキャナが通信可能範囲外にあるとき

コードレススキャナはバーコードデータを送信していないときも、ベースまたはアクセスポイントと通信しています。スキャナが数秒にわたってベースまたはアクセスポイントと通信できないときは、スキャナが通信可能範囲外にあることとなります。スキャナが通信可能範囲外にあるときにバーコードを読み取ると、スキャナはエラーブザーを発してベースまたはアクセスポイン

トと通信していないことを示します。コードレスチャージベースもアラーム音を鳴らすことができます。

スキャナが通信可能範囲内へ戻ったとき

スキャナ、ベースまたはアクセスポイントがリセットされたか、スキャナが通信可能範囲内に戻ったとき、スキャナは再度通信を開始します。スキャナが通信を再度確立する際、通信再確立プロセス（パラメータテーブルのアップロード）が完了すると、音が一回鳴ります。

バッチモード有効時での通信可能範囲への出入り

スキャナは通信可能範囲外において多くのシンボル（UPCシンボル約500個、その他のシンボルは異なる場合があります）を保存し、通信可能範囲内に戻った時点でベースへ送信することができます。

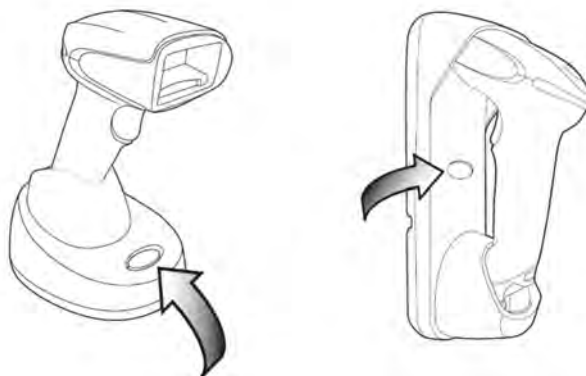
このモードでは、通信エラーブザーは聞こえませんが、無線通信が機能していない場合、トリガーを引いたときに短いブザー音が聞こえます。無線接続が確率されてデータがベースまたはアクセスポイントに送信されている間、スキャナは一連のビーブ音を発します。

ページ（呼出し）ボタン

ベースまたはアクセスポイントのページボタンを押すと、そのベースまたはアクセスポイントに接続しているスキャナがピーッという音（短いビーブ音3回と長いビーブ音1回）を鳴らし始めます。呼び出しに応じて鳴っているスキャナのトリガーを引くか、ベースまたはアクセスポイントのページボタンをもう一回押すと、接続しているすべてのスキャナが鳴り止みます。

注意：Xenon1950HCモデルをお使いの場合、ページボタンとプレゼンテーションモードページの追加ページングボタン設定をご参照ください。

ページ（呼出し）ボタンとプレゼンテーションモード



ベースまたはアクセスポイントのページボタンを押すと、そのベースまたはアクセスポイントに接続しているスキャナがストリーミングプレゼンテーションモードに設定されている時は、スキャナのエイマーは直ぐに消えますが、スキャナの光は点灯を続け、何時でもバーコードを読取れる状態をキープしています。テンポラリストリーミングプレゼンテーションモードの時は、ベースのページボタンを押すとスキャナはタイムアウトするまで、ストリーミングプレゼンテーションモードになります。タイムアウトになる前にバーコードを読取ると、タイマーはリセットされます。

スキャナがベースに設置されている時は、ページボタンを一度押す事でテンポラリストリーミングプレゼンテーションモードになります。電源に繋がっているベースにスキャナが設置されている状態で、ページボタンを2回押すとスキャナはストリーミングプレゼンテーションモードになり、その状態で2回押すとストリーミングプレゼンテーションモードが終了します。

ベースが電源に繋がっていない時はページボタンを2回押してもストリーミングプレゼンテーションモードにはなりません。又、スキャナがベースに設置されていない時は、ページボタンは通常の動作になります。初期設定はテンポラリストリーミングプレゼンテーションモード有効です。



*テンポラリプレゼンテーションモード有効

テンポラリストリーミングプレゼンテーションモードを終了させたい時は、ページモード有効のバーコードを読取ります。



BEPPGE1.

ページモード有効

テンポラリストリーミングプレゼンテーションモードタイムアウト

テンポラリストリーミングプレゼンテーションモードでスキャナの点灯時間を設定する事が出来ます。点灯時間は10秒間か30秒間の設定を行う事が出来、その後スキャナはタイムアウトになります。



TRGTPM10000.

*10秒タイムアウト



TRGTPM30000.

30秒タイムアウト

ベース設置時のプレゼンテーションモード設定



BT_PIB0.

*無効



BT_PIB1.

有効

バッテリーについて



バッテリー交換を誤ると、爆発する危険があります。ハネウエルが推奨するバッテリーのみに交換してください。使用済みバッテリーは、それを廃棄する国の所轄省庁が指定したリサイクル方法に従って処分してください。

コードレススキャナの電源は、スキャナハンドル内に組み込まれた充電式バッテリーから供給されます。出荷時には、約30%から60%程度バッテリーを充電してありますが、充電容量最大限まで完全に充電することを推奨致します。最初に使用する際、最適な性能を確保する為に最低4時間の充電を行なってください。

充電について

バッテリーは、スキャナがコードレスチャージベースに差し込まれている間に充電される設計になっています。充電状態を現すインジケーターの説明については、ベースのLEDシーケンスに関する項目をご参照ください。スキャナをベースに接続することなく充電する必要がある場合は、充電限定モードページの[充電限定モード](#)の項目をご覧ください。

適切な電源がベースに接続されていることを確認し、スキャナをベースに差し込んでください。定格出力5~5.2Vdc、1Aの Limited Power Source (LPS) かクラス2タイプの電源のみをご使用ください。

注意：外部電源をチャージベースの補助ポートに差し込まず、インターフェースケーブル（例えばUSBケーブル）を介してホストデバイスからベースへ電力を供給する場合、充電に使える電力が減ってしまいますので、充電時間がより長くなります。

バッテリーについての推奨事項

- バッテリーはリチウムイオン電池で、完全に充電せずに使用でき、耐用寿命に悪影響を及ぼすことなく、完全に放電せずに充電できます。この種のバッテリーについては、充電/放電調整をする必要がありません。
- ホストデバイスを使用していないときは、ベースを電源に接続しておいてください。
- 欠陥のあるバッテリーはスキャナ破損の原因になりますので、直ちに交換してください。

- ・ バッテリーは何回も充電できますが、最終的には消耗してしまいます。十分に充電できなくなった場合、バッテリーを交換してください。
- ・ バッテリーや充電器が正常に機能しているか判らないときには、ハネウェルが正規サービスセンターへ送って点検してください。



注意：当装置にはBAT-SCN05、定格3.7Vdc、7.4Whrのハネウェル社製リチウムイオン電池パックのみをご使用ください。ハネウェル社提供以外のバッテリーを使用して故障した場合、保証の対象外です。

リチウム電池の安全に関する注意事項

- ・ バッテリーを燃やしたり、加熱したりしないこと。
- ・ 火気・高温の場所を避けて保管すること。
- ・ 金属製品とともにバッテリーを保管したり、所持したりしないこと。
- ・ 水気を避け、バッテリーを濡らさないようにすること。
- ・ 金属製品を使ってバッテリーの陽極と陰極を接続（ショート）しないこと。
- ・ バッテリーに穴を開けたり、たたいたり、踏んだり、強い衝撃を与えたりしないこと。
- ・ バッテリーを解体・改造しないこと。



注意：バッテリー交換を誤ると、爆発するおそれがあります。使用済みバッテリーは、それを廃棄する国の所轄省庁が指定したリサイクル方法に従って処分してください。

バッテリーの適切な処分



バッテリーが耐用年数の終わりに達したときは、資格を持つリサイクル業者ないし危険物取扱業者によって処分してください。バッテリーを一般廃棄物と一緒に焼却したり、処分したりしないでください。スキャナのバッテリーを弊社に返却いただくことも可能です。（送料ご負担いただきます。）使用済みバッテリーの梱包、表示、明細書作成、輸送に関するすべての国・連邦・州・自治体法規の遵守は輸送業者の責任です。リサイクル・処分に関しては、製品サービス部門にお問い合わせください。

バッテリーをご返送いただく費用が高額な場合、地元のリサイクル処理業者にて処分された方が経費を抑えられる場合もありますので、まずは御問い合わせください。

Xenon XP 1952g-BF/Xenon XP 1952h-BFインスタントチャージパックベース情報

注意：Xenon XP 1952g-BF/Xenon XP 1952h-BFはCCB01-010BT-BFかCCB-H-010BT-BFでしか充電が出来ません。それ以外の機器で充電を行い故障しても、保証の対象とならないため注意してください。

コードレススキャナはスキャナハンドルにある、リチャージ可能なインスタントチャージパックを通じて充電され動作します。インスタントチャージパックは購入後初めて使用する前に充電する必要があります。スキャナを使用していない時はベースに設置して充電しててください。

ブザーLEDのシーケンスと意味

スキャナ上部にはLEDが組み込まれており、通電・通信・電池残量を表示します。ベース上部にLEDがあり、起動・通信・充電状態を表示します。赤色LEDはエラー、緑色LEDはあらゆる種類の正常な完了を意味します。スキャナとベースユニットにも音による表示もあります。エラーブザー1回はエラー、2回ピーツはメニュー変更、1回ピーツはそれ以外のすべての正常な完了です。

下記の表にスキャナのLED点灯・ブザーによる表示とその原因をまとめてあります。

スキャナのLEDシーケンスと意味

LED表示	ブザー表示	振動表示	原因
正常な操作			
赤色点灯	なし	なし	バッテリー残量少
緑色点灯	1回ビーブ音	なし	通信またはリンクに成功
赤色点滅	エラーブザー	なし	通信失敗

メニュー操作			
緑色点灯	2回ビープ音	2回振動	メニュー変更成功
赤色点滅	エラーブザー	1回長い振動	メニュー変更失敗

スキャナーチャージパックステータス

スキャナがベースから離れている時にアイドル状態が5秒以上続いた時に、スキャナはLEDの点滅・ビープ音で充電残量をお知らせします。

スキャナLED	スキャナビープ音	充電残量	残りのスキャン回数 (参考値)
黄色点滅3回	点滅時ビープ音2回	30%	100
赤色点滅3回	点滅時ビープ音2回	10%	50

注意：残りのスキャン回数は参考値であり、各種条件によりスキャン回数は変わります。

ベースユニット/アクセスポイントのLEDシーケンスと意味

ベースについている赤色LEDとアクセスポイントについている青いLEDが本体の状態を表し、ホストシステムとの通信状態を確認することができます。またベースユニットの緑色LEDはスキャナのバッテリー充電状況を表します。

赤色もしくは青色LED：ホストとの通信	
赤色もしくは青色LED	通信状態
オフ	USB保留
継続してオン	電源オン、システムアイドル
複数回にわたり短く点滅。無線モジュールまたはホストポートとの間のデータ通信中点滅	データ受信

ベースパワー通信インジケータ

ベースのパワーインジケータを表示するには、**ベースパワー通信インジケータ有効**バーコードを読み取ってください。パワーインジケータを無効にするには、**無効**バーコードを読み取ってください。**初期設定は有効です。**



BASRED1.

*ベースパワー通信インジケータ有効



BASRED0.

ベースパワー通信インジケータ無効

ベースチャージステータス

スキャナをベースに設置している時に充電状況をLEDで表示します。

LED	充電残量	残りのスキャン回数 (参考値)
緑色点灯	100%	450
緑色ゆっくり点滅	50-99%	200
緑色早く点滅	30-50%	100
黄色早く点滅	0-30%	充電中 (スキャン不可)

注意：残りのスキャン回数は参考値であり、各種条件によりスキャン回数は変わります。

Low Power (低充電残量) アラート

注意：低充電残量アラートはバッテリーフリースキャナXenon XP 1952g-BFおよびXenon XP 1952h-BFだけが対象となります。

充電残量が少なくなってきた時に点滅するLEDの設定を変更する事が可能です。

低充電残量アラート充電残量設定

低充電残量のアラートを発信する充電の残量を設定する事が出来ます。初期設定は10-30%です。



LPIRAG0.

*低充電残量アラート10-30%



LPIRAG1.

低充電残量アラート10-50%

低充電残量アラートLED点滅回数設定

バッテリーフリースキャナが低充電アラートを発信するLED点滅回数を設定する事が出来ます。点滅回数は最大9回であり、設定には以下のバーコードをスキャンした後で、[プログラミングチャート](#)にある数値（1-9）をスキャンしてください。初期設定は3回点滅です。



LPIFNO.

低充電アラートLED点滅回数

低充電残量アラートLED点滅インターバル設定

バッテリーフリースキャナが低充電残量アラートを発信するLED点滅のインターバル（点滅間の秒数）を設定する事が出来ます。秒数は1から9秒の間で設定可能であり、設定には以下のバーコードをスキャンした後で、[プログラミングチャート](#)にある数値（1-9）をスキャンしてください。初期設定は2秒です。



LPIFDL.

点滅インターバル設定

低充電残量アラートリポート回数設定

バッテリーフリースキャナが低充電残量アラートを発信するLED発信回数（設定した点滅回数とインターバル）を設定する事が出来ます。最大5回まで設定が可能であり、設定には以下のバーコードをスキャンした後で、[プログラミングチャート](#)にある数値（1-5）をスキャンしてください。初期設定は1です。



LPI_NO.

低充電残量アラートリポート設定

低充電残量アラートリポート設定時のインターバル

バッテリーフリースキャナでアラート発信のリポートを設定した時に、次のリポートが始まるまでの秒数を設定する事が出来ます。秒数は10から120秒の間で設定可能であり、設定には以下のバーコードをスキャンした後で、[プログラミングチャート](#)にある数値（10-120）をスキャンしてください。初期設定は10秒です。



LPI_DL.

低充電残量アラートリポートのインターバル設定

低充電残量アラートビープ音設定

バッテリーフリースキャナで低充電残量時にピープ音を鳴らさない設定が可能です。（但しLEDは点滅します。）設定には以下のバーコードをスキャンしてください。初期設定は低充電残量アラートピープ音有効です。



LPIBEP0.

低充電残量アラートピープ音無効



LPIBEP1.

*低充電残量アラートピープ音有効

スキャナのリセット

下のバーコードを読み取ることによって、スキャナは再起動され、ベースまたはアクセスポイントと再接続します。



RESET

スキャナのリセット

スキャナをベースに置いた状態での読み取り

注意：CCB01-010BTベースユニットのみの機能です。

スキャナをベースに置いた状態でバーコードを読み取ることができるようにしたい場合は、下記のベースに置いた状態で読み取り有効バーコードを読み取ってください。スキャナがベースに置かれていない状態でのみ読み取りを行うようにしたい場合は、ベースに置いた状態での読み取り無効を読み取ってください。スキャナをベースに置いてシャットダウンしたい場合は、ベースに置いてスキャナをシャットダウンを読み取ってください。初期設定はベースに置いた状態での読み取り有効です。



BT_SIC0.

ベースに置いた状態での読み取り無効



BT_SIC1.

*ベースに置いた状態での読み取り有効



BT_SIC2.

ベースに置いてスキャナをシャットダウン

ベースチャージモード

ベースが外部電源（補助電源ポートに接続）とホストインターフェースケーブルの両方に接続されている場合、外部電源から電源を取ります。ベースに外部電源がない場合、インターフェースケーブルから電源が供給されます。しかし、スキャナのバッテリーは補助外部電源よりホストインターフェースケーブルからのほうがゆっくり充電されます。以下を使用し、スキャナを電源またはホストインターフェースケーブルから充電するか選択できます。

ベースチャージオフが選択されると、スキャナバッテリーはベースに置かれている場合も充電されません。

外部またはインターフェースケーブル電源が選択されている場合、スキャナバッテリーはベースの外部電源から充電されます。外部電源が接続されていない場合、スキャナバッテリーはインターフェースケーブルから充電されます。

外部電源のみの場合、スキャナバッテリーは外部電源からのみ充電されます。外部電源が接続されていない場合、スキャナバッテリーは充電されません。

注意：[プレゼンテーションモード](#)でコードレスチャージベースを使用している場合、**外部電源のみ**の設定だけが利用可能です。



BASCHG0.
ベースチャージオフ



BASCHG1.
外部またはインターフェースケーブル電源



BASCHG2.
外部電源のみ

ページング (スキャナの呼び出し)

ページングモード (スキャナの呼び出し)

初期設定では、ベースのページングボタンを押すと、そのベースと通信を確立しているスキャナを呼び出します。ベースのページングボタンを無効にしたい場合は、下記のページングモード無効バーコードを読み取ってください。ページングモードが無効のときは、ボタンを押してもベースまたはアクセスポイントはスキャナを呼び出さなくなります。ベースの赤色LEDは点灯したままになり、ページングモードが無効であることを示します。(LEDはボタンを押すと消え、ボタンが解除されると再度点灯します) 初期設定はページングモード有効です。

注意 : Xenon1952HC モデルをお使いの場合、ページボタンとプレゼンテーションモードページのページボタン設定をご参照ください。



BEPPGE1.
*ページングモード有効



BEPPGE0.
ページングモード無効

ページング (呼び出し) 音の音程

ベースのページングボタンを押すと、そのベースと通信しているスキャナがピーツと鳴り始めます。([ページ \(呼び出し\) ボタン参照](#)) 下記のバーコードの1つを読み取ることによってスキャナのページング音の高さを設定することができます。初期設定は低 (1000Hz) です。



BEPPFQ1000.
*低 (1000Hz)



BEPPFQ3250.
中 (3250Hz)



BEPPFQ4200.
高 (4200Hz)

エラーインジケータ

ブザー音の音程 : ベースのエラー発生時

注意：CCB01-010BTベースユニットのみの機能です。

CCB01-010BTベースをホストシステムへの通信上の問題などエラーが発生した際に特定のピッチでピーツと鳴るように設定することができます。以下のバーコードによって、エラー発生時にベースが発するエラーブザー音の音程を変更できます。初期設定は低です。



BASFQ2250.

*低 (250Hz)



BASFQ23250.

中 (3250Hz)



BASFQ24200.

高 (4200Hz)

ブザー音の回数：ベースのエラー発生時

注意：CCB01-010BTベースユニットのみの機能です。

エラー発生時にCCB01-010BTベースから発せられるブザー音やLEDの点滅回数を1~9回まで設定することができます。例えば、このオプションをエラーブザー音5回と設定すると、エラーに反応してエラーブザーが5回鳴り、LEDが5回点滅します。エラーブザーの回数を変更するには、下記のバーコードを読み取ったのち、本書の[プログラミングチャート](#)から数値（1~9）バーコードを読み取り、次に**保存**バーコードを読み取ります。初期設定は1です。



BASERR.

ベース：エラー発生時のブザー回数およびLED点滅

スキャナレポート

下記のバーコードを読み取ることで、接続されたスキャナについてのレポートを生成することができます。レポートには、ポート、ワークグループ、スキャナ名、アドレスが表示されます。スキャナに名前を割り当てるには[メニューコマンドシナックス](#)ページを参照してください。



RPTSCN.

スキャナレポート

スキャナのアドレス

下記のバーコードを読み取ることによって、ご使用のスキャナのアドレスを決定することができます。



BT_LDA.

スキャナのアドレス

ベースまたはアクセスポイントのアドレス

下記のバーコードを読み取ることによって、ご使用のベースまたはアクセスポイントのアドレスを決定することができます。



BASLDA.

ベースアドレス

スキャナモード

Xenonはスキャナ1台または複数台のモードや、チャージベースやアクセスポイント以外のBluetooth対応機器とあわせて機能することができます。

充電限定モード

スキャナを充電したいが、ベースと通信させたくない場合があるかもしれません。例えば、スキャナがアクセスポイントや他のBluetooth対応機器と通信しており、スキャナを充電する必要があるが、既存の通信を維持したい場合などです。

ベースを充電限定モードに設定するには、そのベースにスキャナを1台接続しなければなりません。ベースにスキャナを接続したら、**充電限定モード**バーコードを読み取ってください。その後、そのベースに置かれたスキャナはベースと通信せずに充電できます。設定のために使用したスキャナは、ベースに接続したままとなります。そのスキャナとの通信を切断するには、スキャナとの解除を読み取ってください。



注意：充電限定モード時、スキャナは定期的に起動し、ピーツとブザーを鳴らします。この設定を変更するには、[起動ブザー](#)を参照してください。

スキャナを充電し、ベースと通信を接続したい場合は、**充電および通信モード**を使用してください。ベースが充電限定モードに設定されている場合、充電および通信モードに設定しなおすためには、まずスキャナ1台をそのベースと接続しなければなりません。ベースのバーコードを読み取って、スキャナを接続してから**充電および通信モード**を読み取ります。初期設定は充電および通信モードです。



通信モード

通信固定モードと通信オープンモードは、各々異なるアプリケーションに対応するモードです。これらモードを切り換えるには、下記の説明にある該当バーコードを読み取ってください。初期設定は通信オープンモードです。

通信固定モード：スキャナ1台の場合

通信固定モードを使うと、スキャナをベース1台と通信させている時に誤って他のスキャナをそのベースと通信を確立しないように阻止できます。他のスキャナをベースに差し込んだ場合、スキャナは充電されますが通信はできません。



異なるスキャナを使用する場合は、スキャナとの通信解除のバーコードを読み取って元のスキャナとの通信を切断します。

通信オープンモード

納品されたばかりのときや初期設定に戻された場合、スキャナはベースまたはアクセスポイントと接続していません。スキャナをベースまたはアクセスポイントに置くと通信が確立されます。通信オープンモードの場合、新しいスキャナをベースに置くかアクセスポイント通信バーコードを読み取ると新しい通信を確立します。スキャナを1台ベースに置くかアクセスポイント通信バーコードをスキャンするたびにそのスキャナはベースまたはアクセスポイントに接続し、以前に接続していたスキャナとの通信は解除されます。



スキャナとの通信解除

ベースまたはアクセスポイントとスキャナが通信している場合、まずスキャナの通信を解除しなければ次の新しいスキャナと接続することができません。元のスキャナとの通信解除を行うと、ベースまたはアクセスポイントは通信を切断します。ベースまたはアクセスポイントとスキャナの通信を解除するには、下記のスキャナとの解除バーコードを読み取ってください。



通信固定されたの上書き

チャージベースまたはアクセスポイントにリンクされた故障または紛失したスキャナを交換する必要がある場合、新しいスキャナで以下の通信固定されたスキャナの上書きバーコードを読み取り、スキャナをベースユニットに置くか、アクセスポイントのリンクバーコードを読み取ります。ロックされたリンクが無効化され、故障または紛失したスキャナのベースユニットまたはアクセスポイントとのリンクが削除され、新しいスキャナがリンクされます。



通信範囲外アラーム

ベースの通信可能範囲外にスキャナがあるとき、ベースとスキャナの両方からアラーム音が鳴ります。アクセスポイントの通信可能範囲外にスキャナがあるとき、スキャナからアラーム音が鳴ります。そのスキャナがベースまたはアクセスポイントに近づくか、ベースまたはアクセスポイントが別のスキャナと接続するか、もしくはアラーム音継続の設定時間が経過すると、アラームは止まります。スキャナまたはベースのアラームを有効にし、アラームが鳴る時間を設定するには下記の該当するバーコードを読み取り、その後、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数値を読み取り、タイムアウト時間（0～3000秒の間）を設定し、保存を読み取ります。初期設定は0秒（アラームなし）です。



注意：アクセスポイントにはベースアラームがありません。



注意：バーコード読み取り時に通信範囲外にいる場合、アラームを設定していなくても、エラーブザーが鳴ります。ベース、アクセスポイントまたはホストヘデータを送信することができない場合でも、同じくエラーブザーが鳴るようになっています。

アラーム音の種類

下記から該当するバーコードを読み取り、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数値（0～7）のバーコードと保存を読み取ることで、スキャナやCCB01-010BTベースのアラーム音の種類を変更することができます。初期設定は0です。

アラーム音の種類：

設定	音
0	3回長くピーツという音、音程 - 中
1	3回長くピーツという音、音程 - 高
2	4回短くピーツという音、音程 - 中
3	4回短くピーツという音、音程 - 高
4	1回鳥のさえずりのような音、音程 - 中
5	鳥のさえずりのような音が2回 + 1回、音程 - 中
6	1回鳥のさえずりのような音、音程 - 高



注意：CCB01-010BTのみアラームがあります。



スキャナパワータイムアウトタイマー

注意：スキャナパワータイムアウトタイマーは、コードレスシステムのみ適用されます。有線スキャナには適用できませんので、ご注意ください。コードつきスキャナには適用できませんので、ご注意ください。

指定時間内に動作がない場合、スキャナは低電力モードに入ります。適切なスキャナパワータイムアウトバーコードを読み取って、タイムアウトの長さを秒単位で変更してください。

注意：タイムアウトの長さを「0」にすると、タイムアウトがない状態になります。

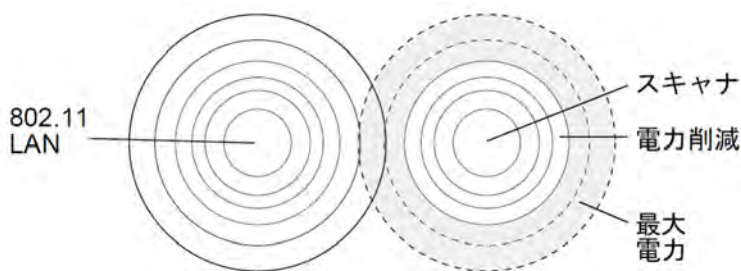
タイムアウト時間内にスキャナのトリガーを引かなかった場合、スキャナはパワーダウンモードに入ります。トリガーが有効・無効に関わらず、タイマーはリセットされます。スキャナがベースユニットに置かれていて、かつバッテリーが充電中の場合は、パワーダウンモードにはなりません。初期設定は3,600秒です。



注意：スキャナがパワーダウンモードに入っている時にトリガーを引くと、電力が戻ります。起動ブザーが鳴り、無線通信に入るまで数秒の遅れが発生します。その後、スキャナを使用できます。

出力管理

ネットワーク性能に問題があり、スキャナが他の装置と混線していると思われる場合は、スキャナの出力を下げるすることができます。これにより、下記の図に示されるとおり、スキャナまたはアクセスポイントとベース間の通信可能範囲が狭くなります。



Xenon XP 1952g/1852h出力管理

下記のバーコードの1つを読み込むことで、以下のいずれかの出力を選択して設定することができます。フルパワー（100%）、出力-中（35%）、出力-中低（5%）、出力-低（1%）初期設定はフルパワーです。



Xenon XP 1952g-BF/1852h-BF出力管理

下記のバーコードの1つを読み込むことで、以下のいずれかの出力を選択して設定することができます。フルパワー（100%）、出力-高（87%）、出力-高中（50%）出力-低（1%）初期設定はフルパワーです。



バッチモード

バッチモードは、スキャナがベースまたはアクセスポイントの通信範囲外にあるとき、または棚卸をするときのバーコードデータ保存に使用します。スキャナが通信範囲内に戻ったとき、あるいは記録が手作業で送信されたとき、データはベースまたはアクセスポイントへ送信されます。

注意：バッチモードはハネウェルチャージ通信ベース（CCB）およびハネウェルアクセスポイント（AP）のみサポートしています。1台のベースまたはアクセスポイントに対して複数のスキャナを使用する際、バッチモードには制限があります。マルチリンクモードを使用すれば、最大3台のスキャナを1台のベースまたはアクセスポイントに接続することが可能です。ただし、スキャナが通信範囲エリアを常に出入りしている場合、蓄積されたデータ、もしくはバッチ処理された読み取りデータが失われる可能性があります。

自動バッチモードは、スキャナがベースまたはアクセスポイントの通信範囲外にあるとき、バーコードデータを保存します。スキャナが通信範囲内に戻ると、データはベースへ自動的に送信されます。スキャナのバッファスペースがいっぱいになると、バーコード読み取り時にエラーブザーを鳴らします。バーコードを再度読み取るには、スキャナをベースまたはアクセスポイントの通信範囲内に戻し、データが送信できるようにする必要があります。

インベントリバッチモードは、ベースまたはアクセスポイントの通信範囲内にいるかどうかに関わらず、バーコードデータを保存しません。保存されたデータをベースへ送信するには、スキャナをベースに置くか、**インベントリレコードの送信**を読み取ります。スキャナのバッファスペースがいっぱいになると、バーコード読み取り時にエラーブザーを鳴らします。バーコードを再度読み取るには、データをベースまたはアクセスポイントへ送信しなければなりません。一旦データを送信すると、スキャナ内のデータはクリアされます。

持続バッチモードは、データがベースまたはアクセスポイントに送信してもスキャナに保持されること以外、インベントリバッチモードと同じです。複数回送信したい場合は、このモードを使用してください。スキャナのバッファをクリアするには、**すべてのコードを削除**のバーコードをスキャンしてください。

初期設定はバッチモード無効です。



バッチモード：ブザー音

バッチモード使用時にインベントリバッチモード（バッチモードブザー有効）を読み取ると、各バーコードを読み、そして保存するたびにスキャナがカチッと鳴るように設定できます。Granitスキャナの場合は振動します。**バッチモードブザー**が有効の場合、各バーコードがホストに送信されるとクリック音が鳴ります。この音を無効にするには、**バッチモードブザー無効**をスキャンしてください。初期設定はバッチモードブザー有効です。



バッチモード：保存形式

バッチモードにおいて、スキャナがデータを保存する際、フラッシュメモリに保存するかRAMに保存するかを選択できます。

フラッシュ保存：スキャナが低出力になる前に、まだ送信していないデータをすべてフラッシュメモリに書き込みます。スキャナが再起動した際もデータはまだ残っています。しかし、スキャナのパワーダウタイムアウトに達した場合やバッテリー残量が非常に少なくなると、未送信のデータがあってもスキャナは低出力になります。

RAM保存：未送信データがスキャナに入っているとき、スキャナはパワーダウタイムアウトに達しても低出力になりません。しかし、バッテリー切れになった場合、スキャナは低出力になりデータは失われます。

初期設定はフラッシュメモリに保存です。



バッチモード：個数

バッチモードにおいて、同一のバーコードを何個も送信するのではなく、読み取った複数のバーコードを送信したいことがあるかもしれません。例えば、**バッチモードの個数無効**の状態ではXYZという3つのバーコードを読み取ったとすると、そのデータを送信したときには、XYZが3個表示されます。**バッチモードの個数有効**と**個数コード**を使えば代わりに「XYZ、00003」と出力することができます。

注意：出力した内容をフォーマットしたい場合、例えばバーコードデータと数量の間にCRやTabを挿入したいときは、[データフォーマット](#)ページのデータフォーマットの項を参照してください。

初期設定はバッチモードの個数無効です。



個数の入力

個数コードを用いれば、最後に読み取ったバーコードについて、最大9999の個数（初期設定は1）を入力できます。個数の数字は右から左へ移動しますので、5桁目の数字が読み込まれると既に読み込んだ1桁目の数字は破棄され、2・3・4桁目の数字が左へずれて、新たな1桁を迎え入れます。

例えば、個数が1234に設定されたあとで、個数5のバーコードを読み取ると、1が脱落し、個数は2345になります。

例：最後に読み取ったアイテムに5という個数を付与する場合

1. 当該アイテムのバーコードを読み取ります。
2. 個数5のバーコードを読み取ってください。

例：最後に読み取ったアイテムに1,500という個数を付与する場合

1. 当該アイテムのバーコードを読み取ります。
2. 個数1のバーコードを読み取ってください。
3. 個数5のバーコードを読み取ってください。
4. 個数0のバーコードを読み取ってください。
5. 個数0のバーコードを読み取ってください。

例：個数を103から10に変更する場合

間違った個数を訂正するには、個数0のバーコードを読み取り、間違った数字を置き換えます。その後、正しい数量コードを読み取ります。

1. 個数0バーコードを読み取って個数を1030に変更します。
2. 個数0バーコードを読み取って個数を0300に変更します。
3. 個数1バーコードを読み取って個数を3001に変更します。
4. 個数0バーコードを読み取って個数を0010に変更します。

初期設定は1です。

個数コード



バッチモード：出力順序

バッチモードでデータを送信する際には、データをFIFO（先入先出）で送信するか、LIFO（後入先出）で送信するかを選択してください。初期設定は先入先出です。



BATLIFO
*バッチモード先入先出



BATLIF1
バッチモード後入先出

レコードの合計件数

バッチモードの間に読み取ったバーコードの数量を出力したい場合は、**レコードの合計件数**を読み取ってください。



BATNRC
レコードの合計件数

最後のコードを削除

バッチモードにおいて、最後に読み取ったバーコードを削除したい場合は**最後のコード削除**を読み取ってください。



BATUND
最後のコード削除

すべてのコードを削除

スキャナのバッファからバッチモードで蓄積されたすべてのデータを消去したい場合は、**すべてのコード削除**を読み取ってください。



BATCLR
すべてのコード削除

保存したデータをホストシステムへ送信

インベントリバッチモード（インベントリバッチモードページ参照）において、保存されたすべてのデータをホストシステムへ送信するには、下記のバーコードを読み取ってください。



BAT_TX
インベントリのレコードを送信

バッチモード：送信ディレイ（間隔）

蓄積されたスキャンデータをホストシステムへ送信する際、送信が速すぎてアプリケーションが処理しきれないことがあります。蓄積されたスキャンデータ間にディレイ（間隔）を設定するには、下記のディレイのいずれかを読み取ってください。**初期設定は無効です。**

注意：ほとんどの場合、ディレイは短い（250ミリ秒）ことが理想です。しかし、より長いディレイを設定することもできます。詳細については、テクニカルサポートにご連絡ください。



BATDLY0
*バッチモードの送信ディレイ無効

(ディレイなし)



複数スキャナでの操作

注意：複数スキャナ操作モードでは、1台のベースまたはアクセスポイントにスキャナを最多7台まで接続することができます。その7台のスキャナのうち、1台の通信を解除するか、通信可能範囲の外へ持ち出さなければ、8番目のスキャナを追加することはできません。

スキャナを複数スキャナ操作モードに追加するには、以下のバーコードを読み取ってください。このバーコードを読み取ると、スキャナはベースまたはアクセスポイントとの通信から解除されるため、再度接続するには、そのスキャナをベースに置か、アクセスポイント通信バーコードをスキャンしなければなりません。



スキャナ名

ご使用の各スキャナを識別できるように、それぞれに名前をつけることができます。例えば、ベースまたはアクセスポイントから送信された画像コマンドを受信するスキャナに独自の識別名称をつけたいときなどです。

初期設定名は「ScannerName_Model_SN_XXXXXXXXXX」です。ベースに複数のスキャナが接続されており、それらすべてに同一の初期設定名が付いている場合、ベースに最初に接続されたスキャナがコマンドを受信します。同一の初期設定名が付いている一連のスキャナの名前を変更する場合は、1台を残してすべてのスキャナをベースとの通信からリンク解除してください。

名称変更操作はスキャナ名のセクションにあるバーコードを読み取るか、シリアルコマンド

「ScannerName:BT_NAMNEWname」を送信します。（NewNameは新しいスキャナの名前）他のスキャナの名前も変更したい場合は、1台ずつ接続し、各スキャナに「ScannerName:BT_NAMname」（Xenonの場合、「Xenon:BT_NAMname」）というコマンドを繰り返します。

スキャナに順序だった番号で名称変更するには、下記のバーコードを読み取ってください。名称を変更するたびに、リセットコードを読み取り、スキャナがベースまたはアクセスポイントと再度接続するまで待ってから、次のスキャナを名称変更するためのバーコードを読み取ってください。





BT_NAM0005.

0005



BT_NAM0006.

0006



BT_NAM0007.

0007



RESET_

リセット

下記のスキャナ名バーコードを読み取り、その後スキャナ名として数字を読み取ることも可能です。例えば、通信済のスキャナを「312」と名称変更したい場合、下記のバーコードを読み取り、本書の[プログラミングチャート](#)から3、1、2のバーコードを読み取り、**保存**を読み取ってください。リセットバーコードを読み取り、スキャナがベースに再度接続されるまで待ってください。



BT_NAM.

スキャナ名

アプリケーションワークグループ

ご使用のコードレスシステムでは、1台のベースに対し最多7台までスキャナを接続することができます。また、最高7つまでワークグループを設定できます。すべてのスキャナを同一の設定にしたい場合は、複数のワークグループを使用する必要はありません。一方、各スキャナに独特な設定（ブザー音量、プレフィックス/サフィックス、データフォーマットなど）を設定する場合は、各スキャナが独自のワークグループを持つように設定し、各スキャナを独立させることができます。例えば、小売/倉庫のアプリケーションでは、倉庫と小売店舗内でそれぞれ異なったデータをバーコードに付して使用したいことがあるかもしれません。その場合、小売店舗内のスキャナをすべて1つのワークグループに割り当て、倉庫内のスキャナをすべてもう1つのワークグループに割り当てるのが可能です。これにより、小売店舗内であれ倉庫であれ、変更点は該当するワークグループ内のスキャナすべてに適用されます。ハネウエルの設定ツール、EZConfigでは、複数のスキャナ、複数のワークグループへの設定変更が容易にできるようになっています。

スキャナは、自らが使用しているメニュー設定を保存しています。スキャナがベースまたはアクセスポイントに接続または再接続するたびにベースまたはアクセスポイントからスキャナにそのワークグループの最新設定が送信され、そして更新されます。また、スキャナはベースまたはアクセスポイントによって処理されたメニュー設定変更も受信します。スキャナがベースまたはアクセスポイントから外されて別のベースまたはアクセスポイントに差し込まれたりすると、そのスキャナに元々割り当てられていたワークグループの新しい設定で更新されます。例えば、最初にベースと接続した際はワークグループ1だったスキャナは、2台目のベースでもワークグループ1となり、関連の設定が付与されます。

アプリケーションワークグループセレクション

ここでは、下記のバーコードを読み取ることによってスキャナを特定のワークグループに割り当てることができます。その後、ご使用のアプリケーションが必要とする設定（ブザー音量、プレフィックス/サフィックス、データフォーマットなど）を設定することができます。初期設定はグループ0です。



GRPSEL0.

*グループ0



GRPSEL1.

グループ1



GRPSEL2.
グループ2



GRPSEL3.
グループ3



GRPSEL4.
グループ4



GRPSEL5.
グループ5



GRPSEL6.
グループ6

初期設定へのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ

下記のバーコードを読み取ると、すべてのワークグループを工場出荷時設定に戻します。



PAPDFT&

工場出荷時設定にリセット：すべてのワークグループ

工場出荷時設定の詳細については、[メニューコマンド](#)ページのメニューコマンドの表を参照してください。標準製品の各コマンド初期設定は「*」で示されています。

注意：このバーコードを読み取ると、スキャナとベースの設定がリセットされ、通信が解除されます。通信を再確立するためには、スキャナをベースに置かなければなりません。詳細は、スキャナモードページの[スキャナモード](#)を参照してください。

ご使用のスキャナが複数スキャナ操作モードになっている場合は、すべてのスキャナがベースに再接続されて、設定が変更されるまで、30秒間ブザー音が鳴り続けます。

カスタムデフォルトへのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ

すべてのワークグループをカスタムデフォルト設定に戻したい場合は、下記の**カスタムデフォルト設定**バーコードを読み取ってください。カスタムデフォルトがない場合は、初期設定へリセットされます。カスタムデフォルトについての詳細は、[カスタムデフォルトの設定](#)を参照してください。



PAPDFT.

カスタムデフォルト設定：すべてのワークグループ

注意：このバーコードを読み取ると、スキャナとベースの設定がリセットされ、通信が解除されます。通信を再確立するためには、スキャナをベースに置かなければなりません。詳細は、スキャナモードページの[スキャナモード](#)を参照してください。

ご使用のスキャナが複数スキャナ操作モードになっている場合は、すべてのスキャナがベースに再接続されて、設定が変更されるまで、30秒間ブザー音が鳴り続けます。

Bluetooth対応機器との併用

スキャナはチャージベースまたはアクセスポイントや他のBluetooth対応機器とも併せて使用することが可能です。他のBluetooth対応機器には、PC、ノート型PC、PDA/ハンディターミナルなどを含みます。

Bluetooth Secure Simple Pairing (SSP)

Secure Simple Pairing (SSPモード) はPINコードを入力せずに他のBluetooth機器と簡単に安全に接続できます (以下でBluetooth HIDキーボード接続手順で説明されています)。SSPモードはBluetoothバージョン2.1以降で利用できます。SSPモードではPINコードはペアリングに必要ありません。互換性のあるBluetoothバージョンを使用していない場合、SPPモードを無効にしてください。初期設定はBluetooth SSP有効です。

注意 : SSPモードはGranit1981iでのみ利用できます。



BT_SSP1.

*BluetoothSPP有効



BT_SSP0.

BluetoothSPP無効

Bluetooth HIDキーボード接続

お使いのスキャナは、iPadやスマートフォン、ノート型PCなどBluetooth対応機器と接続することが可能です。キーボードによるデータ入力と同じように、読み取ったデータが画面に表示されます。Bluetooth機器と通信を確立するには、以下の手順に沿ってください。

1. Bluetooth HIDキーボード接続を読み取ります。



PAPBTH.

Bluetooth HIDキーボード接続



PAPJKB.

Bluetooth HID日本語キーボード接続

2. Bluetooth対応ホストデバイスを立ち上げて、他のBluetooth機器を検索します。(ホストデバイスのユーザーズガイドを参照してください)
3. ホストデバイスがスキャナを検知したら、スキャナ名を選択してください。Bluetooth Secure Simple Pairing (SSP) デバイスを使用している場合、自動的に接続されます。使用していない場合、60秒以内に入力するPINコードをランダムに表示します。下記のBluetooth PINコードを素早く読み取って、下からページの番号バーコードを読み取ってください。最後に保存を読み取ってください。



BT_PIN.

Bluetooth PINコード



K0K

0



K1K

1



バーチャルキーボード

スキャナがiPadやスマートフォン、ノート型PCなど接続されると、スキャナのトリガーを2回素早く引くことでバーチャルキーボード入力ができます。

Bluetooth HID キーボード通信切断

お使いのスキャナが、Bluetooth HIDキーボード接続によってiPadやスマートフォン、ノート型PCのようなホストデバイスに直接接続されている場合、ベースユニットに再接続するためにはBluetooth接続を一旦切断する必要があります。**Bluetooth HIDキーボード通信切断**を読み取って、ホストデバイスとスキャナ間の通信を切断してください。ベースユニットまたはアクセスポイント上の接続バーコードを読み取って、スキャナを再接続してください。



Bluetooth Low Energy (BLE) デバイス接続

BLE機器との接続を行う時は以下のバーコードをスキャンします。スキャナを接続する時はHID BLE接続を、スキャナと相互にコミュニケーションを行う時はシリアルBLE接続をスキャンします。



PABLEH.
HID BLE接続



PAPTIO.
シリアルBLE接続

Bluetooth シリアルポート：デスクトップ型PC/ノート型PC

下記のベースなしBT接続バーコードを読み取ると、スキャナを他のBluetooth対応機器（PC/ノート型PCなど）と併せて使用できるようになります。この設定を有効にすると、スキャナはRS232Cインターフェースのスキャナと同様の動作を行い、読み取ったデータを出力する為にPC上のCOMポートを開く必要があります。

下記のバーコードを読み取った後、ご使用のBluetooth対応機器添付の取扱説明書に従い、スキャナを認識し接続してください。スキャナを持って通信可能範囲の外に出て、通信可能範囲内に戻ってきたとしてもBluetooth対応機器に接続しませんので、ご注意ください。チャージベースに再接続したい場合は、通信固定された上書きページを参照してください。

注意：スキャナをチャージベースまたはアクセスポイント以外のBluetooth対応機器と併せて使用している場合、複数のワークグループのオプションは使用できません。



BT_TRMD;BT_DNG5.
ベースなしBT接続

PDA やモバイルデバイスとのベースなしBT接続

スキャナをPDAやハネウエルのハンディターミナルと併せて使用することもできます。下記のバーコードを読み取り、ご使用のBluetooth対応機器に添付されていた取扱説明に従って、スキャナを認識し接続してください。



BT_TRMD;BT_DNG1.
PDA/ハンディターミナル

スキャナのBluetooth暗証コード変更

一部の機器には、Bluetoothセキュリティ機能の一環として暗証コードが必要です。スキャナの初期設定の暗証記号は1234で、ご使用のPDAまたはPCに初めて接続する際、入力が必要かもしれません。暗証コードは1～16文字である必要があります。暗証コードを変更するには下記のバーコードを読み取り、その後本書の[プログラミングチャート](#)から該当の数値バーコードを読み取ります。保存を読み取って設定した内容を保存してください。



BT_PIN.
Bluetooth暗証コード

Bluetooth/ISM帯域ネットワーク干渉の最小化

この設定は、コードレスエリアイメージングシステムの再接続時の動作をカスタマイズし、利便性を確保しながら、干渉を低く抑えるための最適な妥協点を見出すのに役立ちます。

注意：ISM帯域とは、無線ネットワーク、コードレス電話、Bluetoothが使用する2.4GHzから2.48GHzの周波数帯域を指します。

自動再接続モード

自動再接続は、接続の切断が検出されたときにスキャナが自動的に再接続のプロセスを開始するか否かを制御するものです。自動再接続有効のバーコードを読み取ると、スキャナはユーザーの介入なしにただちに再接続のプロセスを開始します。初期設定は自動再接続有効です。



注意：Bluetoothのインターフェースモジュールに接続している場合には、自動再接続無効に設定してください。

下の表は、自動再接続が有効および無効設定時の結果です。

事象	自動再接続有効	自動再接続無効
スキャナが通信範囲外にあるとき	自動的に再接続されます。再接続を最高限度回数まで試行しても成功しない場合は、トリガーを引くか、スキャナをベースまたはアクセスポイントに置くか、接続バーコードを読み取るかのいずれかによってスキャナの再接続を行ってください。再接続試行最高限度回数を参照	スキャナはトリガーを引くか、アクセスポイント接続バーコードを読み取ることによって再度接続されます。
(ファームウェアのアップグレードもしくは電源再起動により) ベースまたはアクセスポイントがリセットされたとき	スキャナは通信範囲外にあるかのように動作します。	ベースまたはアクセスポイントがオフの間は、再接続を試行しません。再接続を始めるためには、トリガーを引いてください。
スキャナのパワータイムアウトタイマーの設定によりスキャナの電源がオフのとき参照	再接続を行うには、トリガーを引くか、接続バーコードを読み込むか、スキャナをベースに置くかのいずれかを行います。 (注意：スキャナは起動時に再接続しますが、起動するには上記の操作いずれかを行なう必要があります。)	
ファームウェアのアップグレードによりスキャナがリセットされたとき	自動的に再接続されます。	
バッテリー交換により、スキャナがリセットされたとき	自動的に再接続されます。	
スキャナが別のベースユニットに置かれたとき	自動的に新しいベースと接続します。	

再接続試行最高限度回数

再接続試行最高限度回数は、スキャナがベースまたはアクセスポイントとの接続を試みる回数を制御します。接続セットアッププロセスの間、スキャナはベースまたはアクセスポイントを探索し、接続するために発信を行います。発信をし続けることによって、ISM帯域の他のユーザーに影響するのを避けるため、この設定によって接続試行回数が制限されています。再接続試行最高限度回数に達すると、スキャナはベースまたはアクセスポイントへの再接続を断念します。トリガーを引くか、接続バーコードを読み込むか、スキャナをベースまたはアクセスポイントに置くかのいずれかを行うことで試行回数がリセットされ、スキャナは再度接続を試みるようになります。

再接続試行最高回数バーコードを読み取り、その後[プログラミングチャート](#)から設定試行回数（0～100）を読み取ってください。保存を読み取って、設定を保存します。初期設定は0です。



注意：自動再接続モードが有効のとき、再接続試行最高限度回数を0に設定すると、スキャナはパワータイムアウトタイマー設定時間が経過するまで通信を試みます。自動再接続モードが無効のとき、再接続試行最高限度回数を0に設定すると、スキャナはトリガーが引かれたあと1回だけ再接続を試みます。

再接続タイムアウト

再接続タイムアウトは、再接続試行中のアイドル時間を制御します。ベースまたはアクセスポイントとの接続を再試行するには、一般に最大5秒ほどかかります。これはスキャナが実際にコンタクトしようと試みている時間です。再接続タイムアウト

トは1回接続を試み終わってから次に試み始めるまでの経過時間を秒単位で制御します。

注意：試行時の所要時間は、1台のベースユニットまたはアクセスポイントに接続されているスキャナの台数によって異なります。接続に成功したときには、さらに7秒かかることもあります。

再接続タイムアウトバーコードを読み取り、その後[プログラミングチャート](#)から設定秒数（0～100）を読み取ってください。**保存**を読み取って設定を保存します。初期設定は3秒です。



Bluetooth/ISMネットワークアクティビティの例

初期設定

スキャナが通信範囲外に出ると、ベースユニットまたはアクセスポイントへの接続を繰り返し試みます。1回の試行にはアクティブタイム約5秒と、それに続くアイドルタイム約3秒がかかります。1時間経つとスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

例：再接続試行最高限度回数15、他の値は初期設定値の場合

スキャナが通信範囲外に出ると、ベースユニットまたはアクセスポイントへの接続を15回試みます。1回の試行には、アクティブタイム約5秒と、アイドルタイム約3秒がかかります。15サイクル（ $8 \times 15 = 120$ ）すなわち、約2分後に、スキャナはベースユニットまたはアクセスポイントへの接続試行を止めますが、バッチモードで保存されたバーコードは保存されています。1時間経つとスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

例：自動再接続モードを0に設定、再接続試行最高限度回数15、他の値は初期設定値の場合

スキャナが通信範囲外に出ても、再接続を一切試みません。トリガーを引くと、ベースユニットまたはアクセスポイントへのリンクを15回試みます。1回の試行には、アクティブタイム約5秒と、アイドルタイム約3秒がかかります。15サイクル（ $8 \times 15 = 120$ ）すなわち、約2分後に、スキャナはベースユニットまたはアクセスポイントへの接続試行を止めますが、バッチモードで保存されたバーコードは保存されています。1時間経つとスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。他にどのような事象によって再接続プロセスが始まるか、自動再接続モードページの自動再接続モードを参照してください。

例：自動再接続モードを1に設定、再接続試行最高限度回数0、再接続タイムアウトを10、スキャナパワータイムアウトを1800に設定した場合

注意：スキャナパワータイムアウトタイマーページを参照してください。

スキャナは1回の試行開始から次の試行開始まで、15秒の間隔でベースユニットまたはアクセスポイントへの接続を試みます。30分経過すると、スキャナの電源がオフになります。

ホストコマンドの認知

一部のアプリケーションでは、送信されてきたバーコードをホスト端末（ないしサーバー）が承認するか、または却下することを要求し、この処理をユーザーに知らせるよう要求します。ホストACKモードでは、スキャナは各スキャン後に応答を待ちます。視覚的および聴覚的レスポンスでオペレーターはフィードバックを得られます。ホストACKを有効にすることによってスキャナはホストシステムからのコマンドに反応する状態になります。

注意：ホストACKを9600未満のボーレートで使用すると、システム性能が低下しますのでご注意ください。

ホストACKを正常に動作させるためには、下記の条件を満たす必要があります。

- コードレスシステムはホストのポートRS232（端末ID=000）もしくはUSB COMエミュレーション（端末ID=130）に設定してください。
- RTS/CTSの初期設定は無効です。ホストシステムがRTS/CTSを必要としている場合は、有効にしなければなりません。
- ホストACKを有効にしてください。
- 区切り文字にはカンマが必要です。
- ホスト端末のソフトウェアには、バーコードデータを解釈し、かつデータの内容によって決定を行い、スキャナへ適切な

エスケープコマンドを送信する能力が必要です。

エスケープコマンドは「アプリケーションワークグループ」を介してスキャナへ送信されます。コマンドが送信されると、そのグループ内のスキャナすべてがコマンドに応答します。そのため、各スキャナにホストACKモードで自分専用のグループを割り当てることを推奨します。

[ESC]は16進数での1Bです。典型的なコマンドストリングはy<ESC>xで、「y」はアプリケーションワークグループ番号、「<ESC>x」はエスケープコマンド、コンマは終止符が必要です。（「y」を指定していない場合、コマンドは初期設定のアプリケーションワークグループ0に送信されます。）

例：コマンドを組み合わせて、カスタム応答シーケンスを作成することもできます。以下はコマンドストリングの一例です。

0[ESC]4,[ESC]5,[ESC]6,

上記の例では、アプリケーションワークグループにあるスキャナのピープ音が、始めは小さい音でピーッと、その後中位の音でピーッと、さらにその後大きな音でピーッと鳴ります。

例：ファイルのどのアイテムにもピープ音が必要ですが、ファイルにアイテムがない場合、エラーブザーが必要です。この場合、オンファイル製品用に[ESC]7がホストからスキャナへ送信されます。

非オンファイル製品用に[ESC]8、[ESC]8がホストからスキャナへ送信されます。

バーコードがスキャンされると、スキャナはホストACKシーケンスまたはタイムアウト（初期設定10秒）になるまでのタイムアウト期間に入ります。

ホストACKが有効なとき、システムは次のように機能します。

- スキャナはバーコードを読み、ホストシステムに送信すべく、ベースユニットまたはアクセスポイントにデータを送ります。スキャナがエスケープコマンドを受信するまで音や視覚表示は送信されません。読み取りに成功すると、スキャナの読み取り用ライトが消えます。
- 以下のいずれかになるまで、スキャナの操作は中止されます。1) ベースユニットを介して、ホストシステムからの有効なエスケープ文字を受信するか、2) スキャナがタイムアウトになる。
- 上記の1) ないし2) の条件が満たされると、スキャナは再び読み取る準備が整い、プロセスが繰り返されます。

スキャナが10秒以内に有効なエスケープコマンドを受信しなければ、タイムアウトが発生します。タイムアウトはエラーブザーで示されます。タイムアウトが発生した場合、ユーザーはホストシステムをチェックしてスキャナへの応答がなぜ受信されなかったのかを確認してください。

ホストACK



ホストACKタイムアウト

ホストACK使用時、スキャナが有効なエスケープコマンドを待機する時間の長さにタイムアウトを設定する事が出来ます。以下のバーコードをスキャンして、何秒待ってタイムアウトするかを設定します。



ホストACKのレスポンス

コマンド	動作
[ESC] a,	2回ピーッと鳴り、設定変更に成功したことを示します。
[ESC] b,	エラーブザーが鳴り、設定変更が成功しなかったことを示します。
[ESC] 1,	緑のLEDが135秒間点灯し、その後小休止します。
[ESC] 2,	緑のLEDが2秒間点灯し、その後小休止します。
[ESC] 3,	緑のLEDが5秒間点灯し、その後小休止します。

[ESC] 4,	小さい音で1回ピーツと鳴ります。
[ESC] 5,	中位の音で1回ピーツと鳴ります。
[ESC] 6,	大きい音で1回ピーツと鳴ります。
[ESC] 7,	連続音で、デコードとホストへの通信が成功したことを示します。
ESC 8, ESC J	ホストへのデコードまたは通信が失敗したことを表すエラーブザーが鳴ります。

入力・出力設定

起動ブザー

注意：本機能はCCB02-100BT/CCB05-100BTベースにはございません。

スキャナは、電源が入るとブザーが鳴るようになっています。コードレスシステムをご使用の場合は、電源を入れるとベースが鳴るようになっています。起動ブザーをお使いにならない場合は、**無効**バーコードを読み取ってください。初期設定はスキャナ、起動ブザー有効です。



BEPPWR0.

スキャナ、起動ブザー無効



BASPPWR0.

コードレスベース、起動ブザー無効



BEPPWR1.

*スキャナ、起動ブザー有効



BASPPWR1.

コードレスベース、起動ブザー有効

BEL ブザー

ホストからのコマンドに対してブザーを鳴らしたい場合は、下の**BELブザー有効**バーコードを読み取ってください。スキャナがホストからBELキャラクタを受信するたびにブザーが鳴ります。初期設定はBELブザー無効です。



BELBEP0.

*BELブザー無効



BELBEP1.

BELブザー有効

トリガークリック音

トリガーを引くたびにクリック音が聞こえるようにしたい場合は、下の**トリガークリック音有効**バーコードを読み取ってください。クリック音が聞こえないようにするには、**トリガークリック音無効**コードを読み取ります。（シリアルトリガーモードもしくは自動読み取りモードには影響しません。）初期設定はトリガークリック音無効です。



BEPTRG0.

*トリガークリック音無効



BEPTRG1.

トリガークリック音有効

読取成功インジケータ

ブザー：読取成功時

読み取りに成功した場合のブザーを**有効**または**無効**に設定できます。この設定を無効にすると、読取成功時のインジケータの中でもブザーだけを無効にします。エラー発生時や設定変更時のブザーはすべて鳴動します。*初期設定は読取成功のブザー有効*です。



ブザーの音量：読取成功時

読取成功時にスキャナが鳴らすブザーの音量を変更します。*初期設定はGranit/Xenonは大、XenonHCは小*です。



ブザーの音程：読取成功時

読取成功時にスキャナが鳴らすブザー音の音程（周波数）を変更します。中音程はXenonとGranitスキャナで異なります。*初期設定は中*です。



振動：読取成功時

バーコードの読取に成功するとスキャナは1回振動し、設定バーコードの読取に成功すると2回振動します。設定バーコードの読取に失敗すると、スキャナは1回長く振動します（2回分の長さ）。振動を使用しない場合は、**読取成功時の振動無効**を読み取ってください。*初期設定は読取成功の振動有効*です。



振動時間

読取成功時の振動の長さを設定したい場合、以下のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)から数字を読み取って（100～2,000ミリ秒）の長さを設定し**保存**を読み取ります。初期設定は100msです。



ブザーの音程：読み取り失敗時およびエラー発生時

エラー発生時にスキャナが発するエラーブザー音の音程を変更できます。初期設定は**低 (Razz)** です。



ブザーの長さ：読取成功時

読取成功時にスキャナが鳴らすブザー音の長さを変更します。初期設定は**通常**です。



LED：読取成功時

読取成功時に点灯するLEDを有効または無効に設定できます。初期設定は**有効**です。



ブザーの回数：読取成功時

読取成功時のブザー回数を1～9に設定できます。読取成功時のブザー回数を設定すると、その回数が読取成功時のブザーとLEDの回数として適用されます。例えば、この設定をブザー5回に設定すると、読取成功に反応してブザーが5回鳴り、LEDが5回点滅します。ブザーとLEDの点滅は互いに同期しています。ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、次に[プログラミングチャート](#)の数字（1～9）バーコードと**保存**バーコードを読み取ります。初期設定は1です。



ブザーの回数：読み取り失敗時およびエラー発生時

読み取り失敗時およびエラー発生時にスキャナが鳴らすブザーやLEDの点滅回数を1～9に設定できます。例えば、この設定をブザー5回に設定すると、エラーに反応してブザーが5回鳴り、LEDが5回点滅します。ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、次に[プログラミングチャート](#)の数字（1～9）バーコードを読み取り、次に**保存**バーコードを読み取ります。初期設定は1です。



読取成功ディレイ

読み取り成功後、次のバーコードを読み取るまでの最短時間を設定します。初期設定は0ミリ秒（ディレイなし）です。



ユーザー定義の読取成功ディレイ

読取成功ディレイに独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字を読み取ってディレイ（0～30,000ミリ秒）を設定し、最後に**保存**を読み取ります。



トリガーモード

マニュアルトリガーモード

マニュアルトリガーモードの場合、バーコードが読み取られるまで、もしくはトリガーを放すまで読み取りを行います。標準と

強化の二つのモードから選択できます。ノーマルモードでは、高速で広い読取範囲（読取深度）で読み取ります。強化モードでは、最速の読み取りを行います。強化モードは広い読取範囲を必要とせず、高速処理を行いたいときに適しています。初期設定はマニュアルトリガーモード標準です。



トリガートグルモード

トリガートグルモードはトリガーをすばやく2回または3回押すことで、簡単にスキャナをイメージングモードまたはセンタリングモードに切替え、またスキャンに戻る事が出来ます。コンピュータのマウスをダブルクリックするのと同じような感覚で次のスキャンにあわせる事が出来ます。したがって、トリガーをすばやく2回押すことで、イメージングモードになり、次にトリガーを押す事で画像のスキャンが出来ます。その後スキャナは通常のスキャンモードに戻ります。以下のバーコードをスキャンすることで、このようなトリガートグルモードの設定が行えます。



トリガートグルモード有効化の回数設定

何回トリガーを連続で押すとトリガートグルモードが有効になるかの設定を行います。



トリガートグルモード設定のタイミング

通常のスキャンでトリガーを押す時と、トリガートグルモードでトリガーを押す時の違いを、連続でトリガーを押すタイミング（時間）で設定します。以下のバーコードをスキャンした後にタイムアウトの時間（50～2,000ミリ秒）を設定する事で、それ以上の間隔でトリガーを押す時は通常のスキャンになり、その時間内に連続で押した時にトリガートグルモードになります。タイムアウトの時間は[プログラミングチャート](#)を参照してください。初期設定は400msです。



トリガートグルモード設定タイムアウト

スキャナがトリガートグルモードに設定された後、何秒でタイムアウトとなり、通常のスキャナモードに戻るかの時間を設定します。以下のバーコードをスキャンした後で、0から65秒以内でタイムアウトの時間を設定します。タイムアウトの時間は[プログラミングチャート](#)を参照してください。初期設定は5秒です。

注意：このタイムアウト時間を0秒にセットすると、トリガートグルモード設定の繰り返しが必要となります。例えば、2連続でトリガーを押す事でセンタリングモードになった時は、その後でまた2連続でトリガーを押す事でスキャンモードに戻る事になります。



TRGTGT.

トリガートグルモードタイムアウト

シリアルトリガーモード

トリガーを引くか、シリアルトリガーコマンドを用いることで、スキャナを動作させることができます。[トリガーコマンド](#)ページを参照。シリアルトリガーモードでは、バーコードを読み取るか、停止コマンドが送信されるまで読み取り動作を続けます。指定時間が過ぎた後に自動的にオフになるようにスキャナを設定することもできます（次の読み取りタイムアウトを参照）。

読み取りタイムアウト

スキャナをシリアルコマンドで動作させる場合、この設定でトリガーのタイムアウト（ミリ秒単位）を設定します。スキャナがタイムアウトになった後はトリガーを引くかシリアルトリガーコマンドを用いて動作させることができます。[読み取りタイムアウト](#)のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字を読み取って、タイムアウト時間（0～300,000ミリ秒）を設定し、次に**保存**を読み取ります。初期設定は30,000ms（ミリ秒）です。



TRGSTO.

読み取りタイムアウト

プレゼンテーションモード

プレゼンテーションモードでは、周囲の照明を使ってバーコードを検知します。プレゼンテーションモードで動作するように設定すると、LEDはバーコードがスキャナに提示されるまで消灯されており、バーコードが提示されると、自動的に点灯して読み取ります。室内の照明が暗いと正常に機能しないことがありますので、ご注意ください。

注意：プレゼンテーションモードでコードレスチャージベースユニットをご使用の場合、ベースユニットの補助電源ポートに電源がつながれるまでは、バッテリーは充電を行いません。



PAPTPR.

プレゼンテーションモード

トリガープレゼンテーションモード

このモードはスキャン対象になるものがあるかどうかの識別を行うのに使うライトを選定します。

初期設定は自然光+スキャナライトです。



PDCLED0.

自然光のみ



PDCLED1.

*自然光+スキャナライト

デコード後のプレゼンテーションLEDの動作

スキャナがプレゼンテーションモードの場合、バーコードをデコードした後の短い間、LEDは点灯したまま読み取りを続けます。バーコードをデコードした後、直ちにLEDを消灯したい場合は、次の**LED無効**バーコードを読み取ってください。初期設定は**LED有効**です。



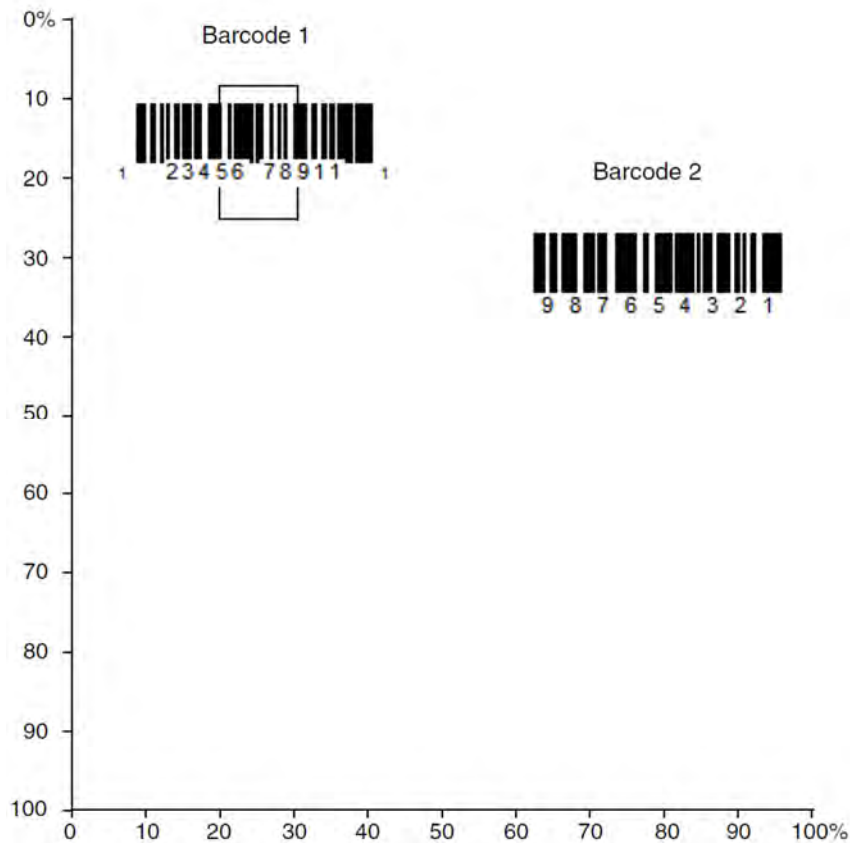
プレゼンテーションセンタリング

ここでは、スキャナがスタンドに設置された際にスキャナの視野を狭め、ユーザーが読み取りを意図したバーコードだけをスキャナに読み込ませる設定です。例えば、複数のバーコードが密接して印刷されている場合、特定のバーコードだけが読み取られるようになります。

注意：スタンドを使用せず、スキャナを手で持った状態でセンタリングを調節したい場合は、[センタリング](#)のページを参照してください。

事前に設定されたウィンドウにバーコードが触れられなかった場合、バーコードのデコードも出力を行われません。プレゼンテーションセンタリング有効を読み取って設定を有効にすると、プレゼンテーションウィンドウ上下、プレゼンテーションセンタリングウィンドウの左右によってユーザーが指定したセンタリングウィンドウを通過するバーコードだけを読み取ります。

次の例では、白いボックスがセンタリングウィンドウを示します。センタリングウィンドウは20%左、30%右、8%上、25%下に設定されています。バーコード1は、センタリングウィンドウを通過したので、正常に読み取られます。一方、バーコード2はセンタリングウィンドウを通過していないので、読み取られていません。



注意：バーコードはある程度センタリングウィンドウを通過しなければなりません。バーコード全体が完全にセンタリングウィンドウに入るように読み取る必要はありません。

プレゼンテーションセンタリング有効を読み取った後、以下のバーコードを読み取ってセンタリングウィンドウの上、下、左、右を変更してください。本書裏面にある[プログラミングチャート](#)を読み取って、センタリングウィンドウを移動する割合の数字を読み取り、その後**保存**を読み取ります。初期設定は上および左に40%、下および右に60%です。



PDCWIN1.

プレゼンテーションセンタリング有効



PDCWIND.

*プレゼンテーションセンタリング無効



PDCTOP.

プレゼンテーションセンタリングウィンドウ上



PDCBOT.

プレゼンテーションセンタリングウィンドウ下



PDCLFT.

プレゼンテーションセンタリングウィンドウ左



PDCRGT.

プレゼンテーションセンタリングウィンドウ右

スタンド使用時のセンサーモード

注意：スタンド使用時のセンサーモードはXenon XP 1950g、1950h、1952gと1952hにのみ適応され、Xenon XP 1952-BFは対象外となります。

この機能は、スキャナがスタンドから離れた場合にマニュアルトリガーによって読み取り実行をスキャナへ指示するものです。センサーが有効なとき、スタンド使用時のスキャナはストリーミングプレゼンテーションモードをデフォルトとし、スタンド不使用時の場合は、マニュアルトリガーモードをデフォルトとします。初期設定はセンサー有効です。



注意：画像取り込み（[イメージングコマンド](#)参照）の場合は、スタンド使用時センサーモードを無効にしてください。

スタンド使用時にはストリーミングプレゼンテーションモード（標準、強化、または携帯端末）を設定し、スタンド不使用時にはマニュアルトリガーモード（標準、強化、または携帯端末）で設定します。まず始めにお好みのストリーミングプレゼンテーションモード（下記）をまず読み取ります。その後ご使用希望のマニュアルトリガーモードを読み取ります。

低品質コード

低品質1Dコード

この設定により、画像の劣化などにより品質の低いバーコードの読み取りを向上させます。低品質1D読み取り有効を読み取ると、低品質1Dバーコードの読み取りは向上しますが、読み取り速度は低下します。この設定は2Dコードの読み取りには影響しません。初期設定は低品質1D読み取り無効です。



低品質PDFコード

この設定により、画像の劣化などにより品質の低いPDFコードの読み取りを複数の画像を読み取る事で向上させます。バーコードが1つの画像でカバー出来ない時に有効となります。この設定は1Dコードの読み取りには影響しません。初期設定は低品質PDF読み取り有効です。



低解像度PDFコード

この設定により、解像度の低いPDFコードの読み取りを向上させます。低解像度PDFコード有効を読み取ると、解像度の低いPDFコードの読み取りは向上しますが、読み取り速度は低下します。この設定は1Dコードの読み取りには影響しません。初期設定は低解像度PDFコード無効です。



PDFDMI1.

低解像度PDFコード有効



PDFDMI0.

*低解像度PDFコード無効

CodeGate®

CodeGateを有効にすると、デコードされたデータをホストシステムへ送信させるためにトリガーを使用します。スキャナは読み取りもデコードも行いますが、トリガーが引かれるまでデコードされたデータを送信しません。CodeGateが無効になっていると、バーコードのデータはデコードされて直ぐにホストシステムに送信されます。初期設定はスタンド不使用時CodeGate無効です。



AOSCGD0.

*スタンド不使用時CodeGate無効



AOSCGD1.

スタンド不使用時CodeGate有効

ストリーミングプレゼンテーション™モード

ストリーミングプレゼンテーションモードを設定すると、スキャナのエイマーは短時間で消えますが、スキャナの照明はバーコードを探すために継続して常時点灯します。標準と強化の2つのモードから選択できます。標準モードは、高速で広い読取範囲で読取を行います。強化モードでは、最速の読み取りを行いますが、標準モードより読取範囲が少し狭くなります。強化モードは広い読取範囲を必要とせず、高速処理を行いたいときに適しています。



PAPSPN.

ストリーミングプレゼンテーションモード標準



PAPSPE.

ストリーミングプレゼンテーションモード強化

優先シンボルを使用しているとき、優先順位の低いシンボルはエイミングパターンの中央に置かれ、ストリーミングプレゼンテーションモードで読み取られます。

注意：コードレススキャナのベースユニットをご使用の場合、ストリーミングプレゼンテーションモードを正常に動作させるには、外部電源を補助ポートに接続する必要があります。

スタンド使用時のストリーミングプレゼンテーション設定

この機能は、スタンド使用時センサーモードが有効の際にお使いいただけます。スタンド内での読み取りに対し、特定のストリーミングプレゼンテーションモードを設定いただけます。まず、ご希望のストリーミングプレゼンテーションモード（標準、強化、携帯端末）を読み取り、その後ご希望のマニュアルトリガーモード（標準、強化、携帯端末）を読み取ってください。

ハンズフリータイムアウト

スキャンスタンド、またはプレゼンテーションモードは「ハンズフリー」モードと呼ばれます。ハンズフリーモードを使用中にトリガーを引くと、マニュアルトリガーモードに変わります。ハンズフリータイムアウトを設定することで、スキャナがマニュアルトリガーモードのままにしておく時間を設定できます。タイムアウト値に達すると（さらにトリガーが引かれなければ）元のハンズフリーモードに戻ります。

以下のハンズフリータイムアウトのバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)からタイムアウト時間（0～300,000ミリ秒）を読み取り、次に**保存**を読み取ります。初期設定は5,000ms（ミリ秒）です。



再読取ディレイ

同一バーコードを2回目に読み取るまでの間隔を秒単位で設定します。再読取ディレイを設定することで、同一バーコードを誤って再読み取りするのを防ぎます。ディレイを長くすると、再読み取りエラーを最小限にするのに効果的です。バーコードの繰り返し読み取りが必要な場合は、ディレイを短くします。再読取ディレイが動作するのは、[プレゼンテーションモード](#)のときだけです。初期設定は中です。



ユーザー定義の再読取ディレイ

再読取ディレイに独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字を再読取ディレイ（0～30,000ミリ秒）を設定し、最後に**保存**を読み取ります。



2D読取ディレイ

2次元シンボルは他のバーコードと比べて、読み取りに時間が掛かることがあります。2次元シンボルに再読取ディレイを設定したい場合、以下の設定バーコードを読み取ってください。2D再読取ディレイ無効は再読取ディレイが設定された1次元・2次元バーコードの両方に使用できません。初期設定は2D再読取ディレイ無効です。





キャラクタ有効化モード

ホストからキャラクタを送信してスキヤナの読取を開始します。有効キャラクタを受信すると、スキヤナはキャラクタ有効化タイムアウトになるか、無効キャラクタを受信するか、またはバーコードを送信するまでスキャンし続けます。キャラクタ有効化を使用するには、以下の**有効**バーコードを読み取り、ホストから送信してスキャンを始めるキャラクタを以下のアクティベーションキャラクタを使用します。**初期設定は無効**です。



キャラクタ有効化

キャラクタ有効化モードを使用している場合、読み取りに使用するキャラクタを設定します。スキャンを開始するための文字を、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#)にある16進数から選択してください。以下のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)のASCIIキャラクタに対応した英数字を使用してください。**保存**を読取終了します。**初期設定は12[DC2]**です。



読取成功後の終端文字のアクティベーション (有効化)

スキヤナがバーコードの検出・読取に成功後、スキャンするために照明をそのままにするか消灯するか設定できます。**読取成功後の終端文字アクティベーション**を有効にすると、読み取り成功後に照明を消灯し、読取を停止します。**読取成功後の終端文字アクティベーション無効**をスキャンすると、読み取り成功後も照明はそのままになります。**初期設定は読取成功後の終端文字アクティベーション無効**です。



*読取成功後の終端文字アクティベーション無効



読取成功後の終端文字アクティベーション有効

キャラクタ有効化タイムアウト

キャラクタ有効化モードを使用している場合、照明が点灯している時間の長さとしてバーコードのデコード試行する時間を設定できます。以下のバーコードを読み取ってタイムアウトの時間 (ミリ秒) を設定し、[プログラミングチャート](#)にある数字を読み取って保存タイムアウト時間 (1~300,000ミリ秒) を設定してください。**初期設定は30,000ms (ミリ秒)**です。



HSTCDT.

キャラクタ有効化タイムアウト

キャラクタ無効化モード

スキャン開始のためのキャラクタをホストから送信する場合、スキャン停止のためのキャラクタを送ることも出来ます。

キャラクタ無効化を使用するには、以下の有効バーコードを読み取り、ホストから送信してスキャンを始めるキャラクタを以下の無効化文字を使用します。初期設定は無効です。



HSTDEN0.

*無効



HSTDEN1.

有効

キャラクタ無効化

キャラクタ無効化モードを使用している場合、読み取りに使用するキャラクタを設定します。スキャンを停止するための文字を、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#)にある16進数から選択してください。以下のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)のASCIIキャラクタに対応した英数字を使用してください。初期設定は14[DC4]です。



HSTDCH.

キャラクタ無効化

照明ライト

バーコードの読み取り中に照明ライトをオンにしたい場合は、次の**ライトオン**のバーコードを読み取ります。逆にライトをオフにしたい場合は、**ライトオフ**のバーコードを読み取ります。初期設定はライトオンです。

注意：この設定は、エイマーライトには無効です。エイミングライトは、[エイマーモード](#)で設定できます。



SCNLED1.

*ライトオン



SCNLED0.

ライトオフ

エイマーディレイ

ユーザーがスキヤナの狙いを定めて画像を取り込むまでのディレイ（間隔）を設定します。これらのコードで、トリガーを引いてから画像を取り込むまでの時間を設定します。ディレイ時間の間はエイミングライトが照射されますが、ディレイ時間を過ぎるまでLEDは点灯しません。初期設定はエイマーディレイ無効です。



SCNDLY1.

1ミリ秒



SCNDLY200.

200ミリ秒



ユーザー定義のエイマーディレイ

ディレイ時間に独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字（0～4,000ミリ秒）を読み取ってタイムアウト時間を設定し、**保存**を読み取ります。



エイマーモード

この機能はエイマーの切り替えを行うものです。**非同時**のバーコードを読み取ると、エイマーと照明LEDは同時に点灯できません。**初期設定は非同時**です。



センタリング

希望のバーコードだけを確実に読み取るようにするには、センタリングを使用してスキヤナの視界を狭めます。例えば、複数のバーコードが接近している場合は、センタリングで希望のバーコードだけを確実に読み取ります（センタリングは、複数のバーコードが接近して配置されている作業環境でエラーをできるだけ発生しないように、[エイマーディレイ](#)と一緒に使用できます。エイマーディレイ機能とセンタリング機能を併用すると、リニアレーザーバーコードスキヤナなどの旧式システムの動作をエミュレーションできます。）

注意：スタンドを使用せず、スキヤナを手で持った状態でセンタリングを調節したい場合は、[プレゼンテーションセンタリング](#)ページの「センタリング」を参照してください。

シングルコードセンタリング

シングルコードセンタリングをスキヤンすると、一番センターにあるバーコードを読み取ります。複数のバーコードがある時に、この設定を使うとよりスキヤン速度を速める事が出来ます。

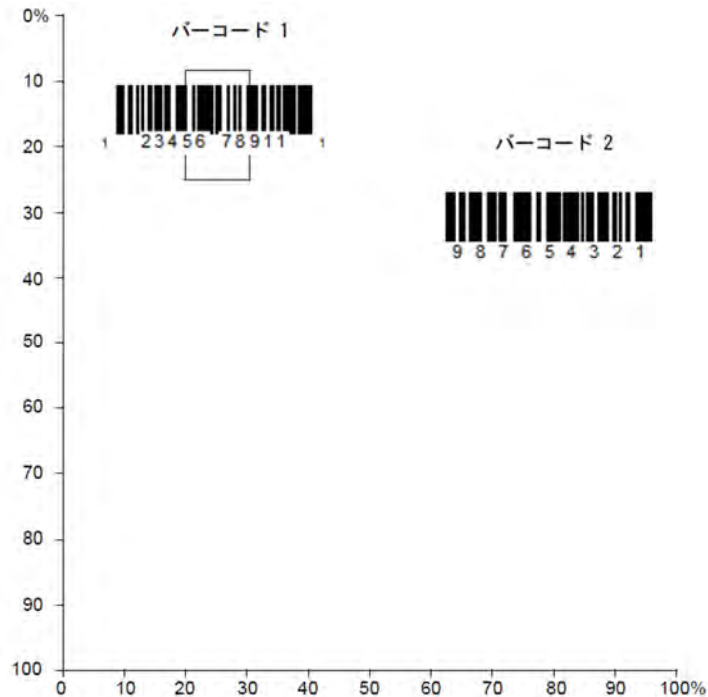


カスタムセンタリング

事前に設定されたウィンドウにバーコードが触れられなかった場合、バーコードのデコードも出力を行われません。[プレゼンテーションセンタリング有効](#)を読み取って設定を有効にすると、[センタリングウィンドウ上](#)、[プレゼンテーションウィンドウ下](#)、

プレゼンテーションセンタリングウィンドウの左右によってユーザーが指定したセンタリングウィンドウを通ったバーコードだけを読み取ります。

次の例では、白いボックスがセンタリングウィンドウを示します。センタリングウィンドウは20%左、30%右、8%上、25%下に設定されています。バーコード1は、センタリングウィンドウを通過したので、正常に読み取られます。一方、バーコード2はセンタリングウィンドウを通過していないので、読み取られていません。



注意：バーコードはある程度センタリングウィンドウを通過しなければなりません。バーコード全体が完全にセンタリングウィンドウに入るように読み取る必要はありません。

センタリング有効を読み取り、次のバーコードをどれか読み取ってセンタリングウィンドウの上下左右いずれかを変更します。次に数字を用いて、センタリングウィンドウを移動するパーセンテージを読み取ります。その後**保存**を読み取ります。初期設定センタリング=上と左が40%、下と右が60%です。



優先シンボル

複数のシンボルが1枚のシートに印刷されているものの、優先順位の低い方のシンボルの読み取りを無効にできない場合、ある1つのシンボルを他のシンボルよりも優先順位が高いものとして指定することができます。例えば、UPCシンボルを小売店舗で読み取るよう設定を施したスキャナを使用している場合に、運転免許証のバーコードを読み取らなければならない場合があります。一部の免許証にはCode39シンボルのほかにPDF417シンボルもありますが、優先シンボルを使用すると、Code39ではなくPDF417を先に読み取るよう指定することができます。優先シンボルは、各シンボルを優先度高、優先度低、または指定なしタイプに分類されます。優先度低のシンボルが現れたとき、スキャナは設定した時間の間、このシンボルを無視し優先度高のシンボルを検索します。この時間内に優先度高のシンボルが見つかったら、即座にデータが読み取られます。

優先度の高いシンボルを読み取る前にタイムアウト時間が過ぎてしまうと、スキャナは視界内のバーコード（優先度低または指定なし）を読み取るようになります。タイムアウト時間が過ぎてもスキャナの視界内にバーコードが見つからない場合、データは報告されません。

注意：優先度低のシンボルは、読み取るエイミングパターンの中央に置く必要があります。

次のバーコードを読み取って、優先シンボルを有効または無効にします。初期設定は優先シンボル無効です。



高優先度シンボル

優先度の高いシンボルを指定するには、次の高優先度シンボルバーコードを読み取ります。[シンボルチャート](#)ページのシンボルチャートで、高優先度に設定するシンボルを確認します。そのシンボルの16進数値を確認して、[プログラミングチャート](#)から2桁の16進数値を読み取ります。保存を読み取り、設定を保存します。初期設定はなしです。



低優先度シンボル

優先度の低いシンボルを指定するには、次の低優先度シンボルバーコードを読み取ります。[シンボルチャート](#)ページのシンボルチャートで、低優先度に設定するシンボルを探します。そのシンボルの16進数値を確認して、[プログラミングチャート](#)から2桁の16進数値を読み取ります。

優先度の低いシンボルをさらに設定したい場合は、FFを読み取った後、次のシンボルに対応する2桁の16進数値を[プログラミングチャート](#)から読み取ります。最大5つの優先度低シンボルを設定できます。保存を読み取り、設定を保存します。初期設定はなしです。



優先シンボルのタイムアウト

優先シンボルを有効にし、高優先度および低優先度のシンボルを入力したら、タイムアウト時間を設定する必要があります。これは、低優先度のバーコードが現れた後、スキャナが高優先度のバーコードをサーチする時間です。次のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字を読み取ってディレイ（0~3,000ミリ秒）を設定し、保存を読み取ります。初期設定は500ms（ミリ秒）です。



優先シンボルデフォルト

次のバーコードを読み取ると、すべての優先シンボル設定がデフォルトに戻されます。



優先シンボルのデフォルト

アウトプットシーケンスの概要

アウトプットシーケンスエディタ

この設定では、バーコードが読み取られる順序には関係無く、アプリケーションに必要な任意の順序でデータを出力するように（複数のシンボルを読み取るとき）スキャナを設定できます。シーケンスのデフォルトのシンボルを読み取ると、下記の汎用値にスキャナを設定します。これが初期設定になっています。シーケンスのデフォルトのシンボルを読み取る前に必ずフォーマットをすべて削除するかクリアしてください。

注意：アウトプットシーケンスエディタを設定するときは、アプリケーションに必要なコードID、コード長、および合致させるキャラクタを事前に確認する必要があります。英数字シンボルを用いてこれらの設定値を読み取ってください。また、シーケンスで各バーコードを読み取る間は、トリガーを引いたままにしておく必要があります。

アウトプットシーケンスの追加

アウトプットシーケンスはシリアルコマンドのストリングをスキャナに送る事で行います。ストリングはソフトウェアツールEZ Configで送信する事が出来ます。又は、[プログラミングチャート](#)にあるアルファベット・数字をスキャンする事でも対応出来ます。

1. シーケンスの入力のバーコードを読み取ります。
2. コードID。

[シンボルチャート](#)でアウトプットシーケンスフォーマットを適用するシンボルの種類を確認します。シンボルの16進数値を確認し、[プログラミングチャート](#)から2桁の16進数値を読み取ります。

3. コード長

シンボルの長さ（最大9,999キャラクタ）を指定します。[プログラミングチャート](#)から4桁のデータ桁数を読み取ってください。（注：50桁は0050と入力します。9999は汎用の数字で、すべての長さ/桁数を示します。）データ桁数を計算するときには、設定したプレフィックス、サフィックス、またはフォーマットしたキャラクタをデータ桁数の一部として数える必要があります。（9999を使用しない場合。）

4. 合致キャラクタの指定

[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#)の「印刷バーコードのコードページマッピング」で合致させたいキャラクタを表す16進数値を確認します。その後、[プログラミングチャート](#)を使用し、ASCIIキャラクタを表す英数字の組合せを読み取ります。（99は汎用の数字で、すべてのキャラクタを示します。）

5. アウトプットシーケンスの終了

追加シンボル用にアウトプットシーケンスを入力するときはFFを読み取ります。または保存を読み取って入力を保存します。

他のプログラム設定

バーコードを使用してアウトプットシーケンスを作成する場合は、破棄をスキャンしてアウトプットシーケンスの変更を保存しないで終了します。

アウトプットシーケンスエディタコマンド

- SEQBLK シーケンスエディタスタートコマンド。
- SEQPRE プレフィックスをアウトプットシーケンスに追加。
- SEQSUF サフィックスをアウトプットシーケンスに追加。
- SEQSEP セパレータをアウトプットシーケンスに追加。

- SEQTTS1** パーシャルシーケンス送信。
- SEQSAT** アウトプットシーケンス全体の一部（サブセット）を定義。
- SEQTIM** SEQSAT使用時にタイムアウトの設定。
- SEQIPR** 一部のアウトプットシーケンスにプレフィックスを追加。
- SEQISU** 一部のアウトプットシーケンスにサフィックスを追加。
- SEQISE** 一部のアウトプットシーケンスにセパレータを追加。
- TRGSTO** 一部のアウトプットシーケンスにタイムアウト設定。
- FF** ターミネーションストリング。

上記コマンドの使用例を以下に記載。

アウトプットシーケンス 設定例1 - 3つのシンボル



この例では、PDF417、Code128、およびCode39のバーコード読み取りに際し、下記のようにCode39をはじめに、次にCode128を、PDF417を三番目に出力するよう読み取りたいとします。

コマンド行の内容は次のとおりです。

- SEQBLK** シーケンスエディタのスタートコマンド
- 62** Code39のコードID
- 9999** Code39の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
- 43** Code39先頭キャラクタを指定、43h="C"
- FF** 最初のコードの終了ストリング
- 6A** Code128コードID
- 9999** Code128の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
- 54** Code128先頭キャラクタを指定、54h="T"
- FF** 2番目のコードの終了ストリング
- 72** PDF417のコードID
- 9999** PDF417の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
- 4D** PDF417先頭キャラクタを指定、4Dh="M"
- FF** 3番目のコードの終了ストリング

全てのコマンドラインは以下ようになります。

SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF

データアウトプットは以下ようになります。

CODE39SMPLTSTMSGCODE128MSGPDF417

アウトプットシーケンス 設定例2 - 3つのシンボルで<>セパレータの使用

この例では、同じ3種類のバーコードを読み取りながら、<>、キャリッジリターンを使いながらアウトプットを分けて行きます。



SEQBLK	シーケンスエディタのスタートコマンド
62	Code39のコードID
9999	Code39の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
43	Code39先頭キャラクタを指定、43h="C"
FF	最初のコードの終了ストリング
6A	Code128のコードID
9999	Code128の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
54	Code128先頭キャラクタを指定、54h="T"
FF	2番目のコードの終了ストリング
72	PDF417のコードID
9999	PDF417の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
4D	PDF417先頭キャラクタを指定、4Dh="M"
FF	3番目のコード終了ストリング

ここでそれぞれのシーケンスに<>を追加します。

SEQSEP99	それぞれのサフィックスのセパレータ、99は全てのシンボル
3C	左のブラケット (<)
3E	右のブラケット (>)

そしてキャリッジリターンとラインフィードをサフィックスとして追加します。

SEQSUF99	サフィックスのセパレータ、99は全てのシンボル
0D	キャリッジリターン
0A	ラインフィード

コマンドライン全体は以下ようになります。

SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFFSEQSEP993C3ESEQSUF990D0 A

データアウトプットは以下ようになります。

<CODE39SMPL>

<TSTMSGCODE128>

<MSGPDF417>

エンターアウトプットシーケンス

バーコードを使って独自のアウトプットシーケンスを作る時は、以下のエンターアウトプットシーケンスをスキャンしてください。



パーシャルシーケンス

全てのアウトプットシーケンスが完了する前にアウトプットシーケンスのオペレーションが終了する場合は、パーシャルシーケンスが必要になります。上記同様のコマンドにより、パーシャルシーケンスの定義が行えます。

パーシャルシーケンス例 - 破損したバーコードに<>セパレータの使用

この例では、PDF417、Code128、およびCode39のバーコード読み取りに際し、下記のようにCode39をはじめに、次にCode128を、PDF417を三番目に出力するよう読み取りたいとします。但し、Code39のバーコードは破損しており、アウトプットが出せません。



上記の設定例 2 - <>セパレータの使用と同様のコマンドを使います。

SEQBLK	シーケンスエディタのスタートコマンド
62	Code39のコードID
9999	Code39の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
43	Code39先頭キャラクタを指定、43h="C"
FF	最初のコードの終了ストリング
6A	Code128のコードID
9999	Code128の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
54	Code128先頭キャラクタを指定、54h="T"
FF	2番目のコードの終了ストリング
72	PDF417のコードID
9999	PDF417の場合に対応しなければならないコード長、9999：すべての長さ
4D	PDF417先頭キャラクタを指定、4Dh="M"
FF	3番目のコードの終了ストリング
SEQSEP99	それぞれのシーケンスのセパレータ、99は全てのシンボル
3C	左のブラケット (<)
3E	右のブラケット (>)
SEQSUF99	サフィックスのセパレータ、99は全てのシンボル

0D キャリッジリターン

0A ラインフィード

ここにプレフィックスとして >パーシャル< を追加します。

SEQTTS1 パーシャルシーケンス送信

SEQISU99 パーシャルシーケンスプレフィックス追加、99は全てのシンボル

3E 右のブラケット (>)

50 P

41 A

52 R

54 T

49 I

41 A

4C L

3C 左のブラケット (<)

コマンドライン全体は以下ようになります。

**SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFFSEQSEP993C3ESEQSUF990D0
ASEQTTS1SEQISU993E5041525449414C3C**

データアウトプットは以下ようになります。

>PARTIAL<

<TSTMSGCODE128>

<MSGPDF417>

パーシャルアウトプットシーケンスの破棄

以下のバーコードをスキャンする事でパーシャルシーケンスを破棄する事が出来ます。



*パーティシャルシーケンスの破棄

アウトプットシーケンスタイムアウト

SEQBLKコマンドにより、アウトプットシーケンスの全てのコードにタイムアウトの設定を行う事が出来ます。各トリガーのセッションで、スキャナは最も短いタイムアウトを適用します。タイムアウトの時間が切れると、スキャナは読み込まれた全てのコードをSEQBLKで定義された順番に送信します。

タイムアウトの設定はSEQTIMコマンドを使い、このコマンドの後ろに時間をミリ秒単位で設定します。それぞれのタイムアウトは4桁で定義され、FFで終了します。タイムアウト値9999は特別の意味を持ち、タイムアウト値は無限となります。

タイムアウトの数は、SEQBLKで定義されたコードの数に相当する必要があります。1つタイムアウトを追加する事で、シーケンスに当てはまらないコードを対象にする事が出来ます。この設定はアウトプットシーケンスが**有効**、**要求しない**の時には有効です。何も追加のタイムアウトを設定していない時は、SEQTIMで定義された最後のタイムアウトが有効になります。

アウトプットシーケンスタイムアウト 例

例えば、SEQBLKが4コードシーケンスを定義した際は、5、6、7、8秒のタイムアウトを設定する事が可能となり、以下のコマ

ンドを使います。

SEQTIM5000FF6000FF7000FF8000FF

コードが設定されていないシーケンスの場合は、このコマンドの最後に定義されている8秒が適用されます。但しこのようなケースでタイムアウトを設定する必要がある場合は、タイムアウトをもう1つ追加する事で対応が可能になります。例えば1秒をシーケンスでないコードに入れるには、以下のコマンドになります。

SEQTIM5000FF6000FF7000FF8000FF1000FF.

フルシーケンスのサブセット

SEQBLKで定義されたシーケンス全体から、1つ以上のバーコードのサブセットを定義する事が出来ます。スキャナでサブセットのコードを読取ると、SEQBLKで定義された順番にデータを送信します。

フルシーケンスのサブセット例

サブセットの定義にはSEQSATを使い、終了する時はFFを用います。それぞれのサブセットは一桁の16進数で定義され、フルシーケンスのインデックスに適用し、1が最初の数値となります。例えば、2つのサブセットを設定するのに、最初のコードが1つ目の対象となり、次のコードが2番目に対応となり、以下のようになります。

SEQSAT12FF23FF

奇数のコードをサブセットの対象とする時は、最後のファイナルコードの前に0を付け加えます。例えば、1番目、2番目、3番目のサブセットがある3コードサブセットを定義するには、次のコマンドを使います。

SEQSAT1203FF.

アウトプットシーケンスデフォルト（初期設定）

デフォルトシーケンスを適用すると、全ての値を初期設定に戻します。以下のバーコードを読み込んでデフォルトにする前に、全てのフォーマットを削除するかクリアしてください。



アウトプットシーケンスの要求

アウトプットシーケンスが**要求する**の場合、出力データはすべて設定シーケンスどおりでなければなりません。合致していなければ、スキャナは出力データをホストデバイスに送信しません。**有効、要求しない**のときは、編集されたシーケンスに合うように出力データを取得しようとします。取得できなければ、すべての出力データをそのままホスト機器に送信します。

無効の場合は、バーコードデータはスキャナがデコードしたままホストに出力されます。**初期設定は無効**です。

注意：この設定は、マルチプルシンボル選択がオンになっているときは使用できません。



良好読取トーン- アウトプットシーケンス

スキャナは正しくスキャンが出来た時に、アウトプットシーケンスでそれぞれのバーコード読み取り時にビーブ音またはクリッ

ク音を出すようにプログラムが出来ます。また、パーシャルシーケンスでエラー音を出す事も出来ます。

初期設定は良好読取クリック音-各コードのシーケンスとエラートーン-パーシャルシーケンスアウトプットです。



BEPSIN0.

良好読取ビープ音-各コードのシーケンス



BEPSIN1.

*良好読取クリック音-各コードのシーケンス



BEPISE0.

良好読取ビープ音-パーシャルシーケースエンジニアリングアウトプット



BEPISE1.

*エラートーン-パーシャルシーケースエンジニアリングアウトプット

複数シンボル

このプログラミングの選択を有効にするとスキャナのトリガーを1回引くだけで複数のシンボルを読み取ることができます。読み取るバーコードの最大値は21個になります。トリガーを引いたまま複数のシンボルに照準を合わせると、各シンボルを1回ずつ読み取り、その都度ブザーを鳴らすか、バイブレーションで振動します（バイブレーション機能が有効時）。この機能を無効にすると、エイミングビームに最も近いシンボルだけを読み取ります。初期設定は無効です。



SHOTGNI1.

有効



SHOTGND.

*無効

No Read

No Readを有効にすると、スキャナはコードを読み取れない場合に通知します。EZConfig Tool Scan Data Windowを使用すると、コードを読み取れないNo Readの時に「NR」を表示します。無効にすると「NR」は表示されません。初期設定は無効です。



SHWNRD1.

有効



SHWNRD0.

*無効

「Error」や「Bad Code」など「NR」以外を表示したい場合は、[データフォーマット](#)で出力メッセージを編集できます。No Readシンボルの16進数値は9Cです。

ビデオリバーズ（反転コード）

ビデオリバーズを使用すると、反転したバーコードを読み取ることができます。反転コード無効はこのバーコードの例です。色が反転したバーコードのみを読み込む際には、反転コードのみ有効を読み取ってください。どちらのタイプのコードも読み込む場合は、反転および標準コード有効を読み取ってください。

注意：反転コードのみ有効を読み取った後は、メニューバーコードの読み取りができません。メニューバーコードを読み取るには、反転コード無効もしくは反転および標準バーコードを読み込んでください。

注意：画像は反転されません。これは、バーコードのデコード専用設定です。



ワーキングオリエンテーション

バーコードによっては、方向に敏感なものがあります。例えば、KIXコードやOCRフロントのように横から、または上下逆さに読み取ると誤読してしまうものもあります。このようなコードが常にスキャナの正面で読み取られない場合、この機能を使用してください。初期設定は正面です。



ヘルスケア設定

医療環境での拡張読み取りの設定を行えます。この設定は Xenon 1950h、Xenon 1952h、Xenon 1952h-BF スキャナとベースのみ対応しています。ストリーミングプレゼンテーションの迅速な設定や、患者さんの邪魔をせずに読取のサイレントモードに設定したりできます。

クワイエットオペレーション・コンビネーションコード

1つのプログラムバーコードを使用して、サイレント・クワイエット設定をXenon healthcareスキャナとベースにプログラムを行います。個別に設定を行いたい場合は、[クワイエットオペレーション-LEDとボリューム設定](#)ページを参照してください。

LED点滅消音モード

次のバーコードを読み取ってベースとスキャナを完全消音に設定します。スキャナのビーブ音、ベースのビーブ音、スキャナの起動音、スキャナの接続音がすべて消音になります。バーコードを読み取ると、LEDとエイマーが5回点滅します。緑色は読み取り成功、赤色は読み取り失敗を表します。



LED点滅消音モード-コードレススキャナおよびベース



LED点滅消音モード-コード付きスキャナ

長いLED消音モード

次のバーコードを読み取ってベースとスキャナを完全消音に設定します。スキャナのビーブ音、ベースのビーブ音、スキャナの起動音、スキャナの接続音がすべて消音になります。バーコードを読み取ると、LEDとエイマーが1秒間点灯します。緑色は読み取り成功、赤色は読み取り失敗を表します。



長いLED消音モード-コードレススキャナおよびベース



長いLED消音モード-コード付きスキャナ

超小音量（夜間モード）

次のバーコードはベースを消音に、バーコードを読み取った際のスキャナの音を非常に低いビーブ音に設定します。バーコードを読み取ると、ベースのビーブ音、ベースとスキャナの起動音、そしてスキャナの接続音がすべて消音になります。バーコードが読み取られると、スキャナが非常に小さいビーブ音が鳴ります。



夜間モード-コードレススキャナおよびベース



夜間モード-コード付きスキャナ

小音量（昼間モード）

次のバーコードはすべての音を有効にしますが、小音量に設定します。スキャナのピープ音、ベースのピープ音、ベースとスキャナの起動音、スキャナの接続音がすべて小音量になります。



昼間モード-コードレススキャナおよびベース



昼間モード-コード付きスキャナ

スキャナとベースを初期設定に再設定するには、[標準の製品初期設定へのリセット](#)のページを参照してください。

クワイエットオペレーション-LEDとボリューム設定

スキャナとベースの音をサイレントまたは消音にしている場合、Bluetooth接続音、読取音、呼び出し音、接続範囲外アラーム音を、LED表示で調整できます。

LEDの色と音のリンク

通常作業時、ベースまたは接続時にスキャナは高い音が鳴り、ベースとスキャナの両方のLEDが緑色に点滅します。すべての音を消音にし、両方の機器の接続状態表示を赤色LEDで点滅させたい場合、次の**赤色LED点滅/消音**バーコードを読み取ります。接続中にLEDは赤く点滅し、ベースとスキャナが接続されると緑色になります。初期設定のLED色と音に戻す場合は、**緑色LED点滅/音**を読み取ります。初期設定は**緑色LED点滅/音**です。



BEPPAR1.

*緑色LED点滅/音



BEPPAR0.

赤色LED点滅/消音

LED点滅回数

スキャナのピープ音を消音にした場合、バーコードを読み取った際のLEDの点滅回数を設定します。初期設定は**1回LED点滅**です。

注意：LED固定、点滅無を無効以外に設定した場合、LED点滅設定が上書きされます。この場合、**LED固定無効**バーコードを読み取りこの機能を無効にし、使用したい**LED点滅**バーコードを読み取ります。



BEPLFN0.

*1回LED点滅



BEPLFN5.

5回LED点滅



BEPLFN10.

10回LED点滅



BEPLFN25.

25回LED点滅

LED点滅間隔

スキャナのピープ音を消音にした場合、バーコードを読み取った際のLEDの点灯速度を設定します。初期設定は高速点滅です。



BEPLFR50.

*高速点滅



BEPLFR250.

中速点滅



BEPLFR500.

低速点滅

LED固定、点滅無

スキャナのピープ音を消音にした場合、バーコードを読み取った際のLEDを点滅ではなく点灯に設定します。初期設定はLED固定無効です。



BEPLOT0.

*LED固定無効



BEPLOT1.

LED固定1秒



BEPLOT3.

LED固定3秒



BEPLOT5.

LED固定5秒

呼び出し音制御

ベースまたはアクセスポイントのページングボタンを押すと、そのベースまたはアクセスポイントと通信しているスキャナがピーツと鳴り始めます。呼び出しに応じて鳴っているスキャナのトリガーを引くか、ベースまたはアクセスポイントのページボタンをもう一回押すと、接続しているすべてのスキャナが鳴り止みます。次のバーコードで呼び出し音量、スキャナがバーコード読み取った際の音量を設定します。初期設定は低です。



BEPPGV0.

呼び出し音量無効



BEPPGV1.

*呼び出し音量低



BEPPGV2.

呼び出し音量中



BEPPGV3.

呼び出し音量高

通信範囲外アラーム

ベースの通信可能範囲外にスキャナがあるとき、ベースとスキャナの両方からアラーム音が鳴ります。アクセスポイントの通信可能範囲外にスキャナがあるとき、スキャナからアラーム音が鳴ります。そのスキャナがベースまたはアクセスポイントに近づくか、ベースまたはアクセスポイントが別のスキャナと接続するか、もしくはアラーム音継続の設定時間が経過すると、アラームは止まります。次のバーコードでベースとスキャナ通信範囲外アラームでのそれぞれの音量を設定します。初期設定はベースアラーム音量低、スキャナアラーム音量低です。



BASORV0.

ベースアラーム音量無効



BT_ORV0.

スキャナアラーム音量無効



BASORV1.

*ベースアラーム音量低



BT_ORV1.

*スキャナアラーム音量低



BASORV2.

ベースアラーム音量中



BT_ORV2.

スキャナアラーム音量中



BASORV3.

ベースアラーム音量高



BT_ORV3.

スキャナアラーム音量高

範囲外アラームディレイ

範囲外アラーム設定を使用する場合、範囲外アラームディレイでアラームのディレイ長を設定します。スキャナがベースまたはアクセスポイントの範囲外にある場合、設定した時間が経過するとアラームが止まります。次のバーコードを読み取って、タイ

ムアウトする時間（秒）を設定し、その後、[プログラミングチャート](#)から数値を読み取って、タイムアウト時間（0～3000秒の間）を設定し**保存**をスキャンしてください。初期設定はディレイなしです。



BT_ORY.

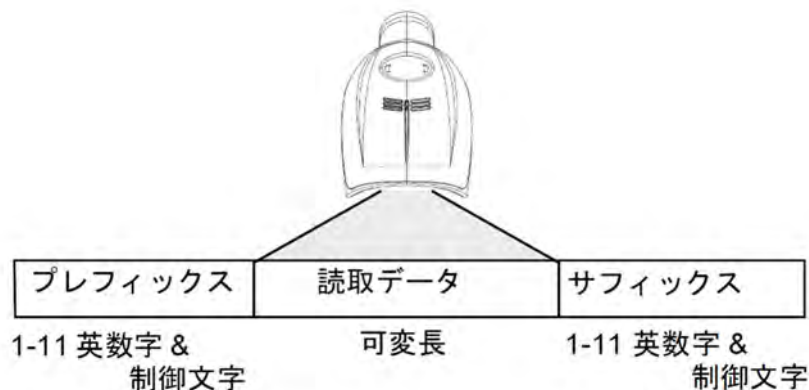
範囲外アラームディレイ

データ編集

プレフィックス/サフィックスについて

バーコードを読み取ると、追加情報がバーコードデータと一緒にホストコンピュータに送信されます。バーコードデータと追加のユーザー定義データを合わせて「メッセージストリング」と呼びます。この章の設定は、ユーザー定義データをメッセージストリングに組み込むときに使用します。

プレフィックスとサフィックスのキャラクタは、読み取ったデータの前後に送信できるデータキャラクタです。全シンボルに適用するか、特定シンボルにだけ適用するかを指定できます。次の図は、メッセージストリングの中身を示します。



補足

- ・ 常にメッセージストリングを作る必要はありません。この章の設定を使用するのは、初期設定を変更したいときだけです。初期設定プレフィックスはなし、初期設定サフィックスはなしです。
- ・ プレフィックスやサフィックスは、1シンボルまたは全シンボルに追加/削除できます。
- ・ [ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページで、プレフィックスやサフィックスは、どれでもコードIDやAIM IDと一緒に追加できます。
- ・ 1回の動作で複数のシンボルに対して複数の設定を結合できます。
- ・ 出力で表示したい順にプレフィックスとサフィックスを入力してください。
- ・ すべてのシンボルではなく、特定のシンボルを設定するとき、そのコードID値は、追加されたプレフィックスまたはサフィックス文字としてカウントされます。
- ・ プレフィックス/サフィックスは、ヘッダ情報を含めて最大200文字（桁）まで追加可能です。

プレフィックスまたはサフィックスの追加手順

Step 1. プレフィックスの追加またはサフィックスの追加のバーコードを読み取ります。

Step 2. [シンボルチャート](#)からプレフィックスまたはサフィックスを適用したいシンボルの2桁の16進数値を確認します。例えば、Code128の場合、コードIDは「j」、16進数IDは「6A」です。

Step 3. [プログラミングチャート](#)から2桁の数字を読み取ります。全シンボルの場合は9、9と読み取ります。

Step 4. [ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページから、入力したいプレフィックスまたはサフィックスの16進数値を確認します。

Step 5. [プログラミングチャート](#)から、確認した2桁の16進数値を読み取ります。

Step 6. プレフィックスまたはサフィックスのキャラクタごとにStep 4とStep 5を繰り返します。

Step 7. コードIDを追加するときは、5、C、8、0を読み取ります。

AIM IDを追加するときは、5、C、8、1を読み取ります。

バックslash (\) を追加するときは、5、C、5、Cを読み取ります。

注意：Step 7でバックslash (\) を追加するときは、5Cを2回読み取ってください。1回目で先行バックslashを作成し、次にバックslash自体を作成します。

Step 8. 保存を読み取って保存して終了するか、破棄を読み取って保存せずに終了します。

別のシンボルにプレフィックスまたはサフィックスを追加するときは、Step1~6を繰り返します。

例：タブサフィックスをすべてのシンボルに追加する

Step 1. サフィックス追加を読み取ります。

Step 2. [プログラミングチャート](#)すべてのシンボルに適用するために9、9を読み取ります。

Step 3. [プログラミングチャート](#)から0、9を読み取ります。これは[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#) ページの水平タブの16進数値と一致します。

保存を読み取って保存して終了するか、破棄を読み取って保存せずに終了します。

1つまたはすべてのプレフィックスまたはサフィックスの削除

シンボルのプレフィックスまたはサフィックスを1つまたはすべて削除できます。1つのシンボルにプレフィックスやサフィックスを追加したことがある場合、**プレフィックス1つ削除**または**サフィックス1つ削除**で特定のキャラクタをシンボルから消去します。また、**すべてのプレフィックス削除**または**すべてのサフィックスを削除**を選択すると、すべてのプレフィックスまたはサフィックスが削除されます。

Step 1. プレフィックス1つ削除またはサフィックス1つ削除のバーコードを読み取ります。

Step 2. [シンボルチャート](#)から、プレフィックスまたはサフィックスを削除したいシンボルの2桁の16進数値を確認します。

Step 3. [プログラミングチャート](#)から2桁の16進数値を読み取ります。全シンボルの場合は9、9を読み取ります。

変更内容は自動的に保存されます。

キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに追加する

キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに一度に追加したい場合は、次のバーコードを読み取ります。この操作では、まず現在のサフィックスをすべて削除し、次にすべてのシンボルに対してキャリッジリターンサフィックスを設定します。



キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに追加

プレフィックスの設定



プレフィックス追加



プレフィックス1つ削除



PRECA2.

すべてのプレフィックス削除

サフィックスの設定



SUFBK2.

サフィックス追加



SUFCL2.

サフィックス1つ削除



SUFCA2.

すべてのサフィックス削除

ファンクションコード送信

この設定を有効にすると、読み取ったデータにファンクションコードが含まれている場合、スキヤナがそのファンクションコードをホストシステムに送信します。これらのファンクションコードは、「サポートされているインターフェースキー」に記載されています。キーボードウェッジモードのとき、読み取りコードはキーコードに変換されてから送信されます。初期設定は有効です。



RMVFNC0.

*有効



RMVFNC1.

無効

キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間ディレイ

データ送信が速すぎると、端末によっては情報（キャラクタ）を読み落とすことがあります。キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間ディレイはデータ送信を遅くすることで、より確実にデータを送信します。

キャラクタ間ディレイ

読み取ったデータの各キャラクタを送信する間に最大5000ミリ秒（5ms単位）のキャラクタ間ディレイを設定できます。次のキャラクタ間ディレイのバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)で5ミリ秒単位の数字（0～99）と保存のバーコードを読み取ります。



DLYCHR.

キャラクタ間ディレイ

このディレイを削除するときは、**キャラクタ間ディレイ**のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。[プログラミングチャート](#)から、**保存**のバーコードを読み取ります。

注意：キャラクタ間ディレイは、USBのシリアルエミュレーションではサポートされていません。

ユーザー指定のキャラクタ間ディレイ（間隔）

読み取ったデータの特定のキャラクタを送信した後に、最大5000ミリ秒（5ms単位）のキャラクタ間ディレイを設定できます。次の**ディレイ長**のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)で5ミリ秒単位の数字（0～99）と**保存**のバーコードを読み取ってから**保存**のバーコードを読み取ります。

次に、**ディレイトリガー文字**のバーコードを読み取り、[下位ASCIIリファレンステーブル](#)で、ディレイをトリガーするASCIIキャラクタの2桁の16進数値を読み取ります。



このディレイを削除するときは、**ディレイ長**のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。[プログラミングチャート](#)から、**保存**のバーコードを読み取ります。

ファンクション間ディレイ（間隔）

メッセージストリングの各セグメントを送信する間に最大5000ミリ秒（5ms単位）のファンクション間ディレイを設定できます。次の**ファンクション間ディレイ**のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)で5ミリ秒単位の数字（0～99）と**保存**のバーコードを読み取ります。



このディレイを削除するときは、**ファンクション間ディレイ**のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。[プログラミングチャート](#)から、**保存**のバーコードを読み取ります。

メッセージ間ディレイ（間隔）

読み取り送信の間に最大5000ミリ秒（5ms単位）のメッセージ間ディレイを設定できます。次の**メッセージ間ディレイ**のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)で5ミリ秒単位の数字（0～99）と**保存**のバーコードを読み取ります。



このディレイを削除するときは、**メッセージ間ディレイ**のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。[プログラミングチャート](#)から、**保存**のバーコードを読み取ります。

データフォーマット

データフォーマットエディタについて

データフォーマットエディタを使ってスキヤナの出力を変更できます。例えば、バーコードデータを読み取りながら特定個所にキャラクタを挿入できます。この後のページに記載された設定は、出力を変更したい場合だけに使用してください。データフォーマットの初期設定はなしです。

通常、バーコードを読み取ると自動的にデータが出力されますが、フォーマットを使用する場合は、フォーマットプログラムの中で「送信」コマンドでデータを出力する必要があります。

スキヤナには複数のフォーマットのプログラム設定が可能です。入力された順にスタックされます。ただし、次の一覧はフォーマットが適用される順序を示しています。

1. 特定の端末ID、実際のコードID、実際の長さ
2. 特定の端末ID、実際のコードID、汎用の長さ
3. 特定の端末ID、汎用のコードID、実際の長さ
4. 特定の端末ID、汎用のコードID、汎用の長さ
5. 汎用の端末ID、実際のコードID、実際の長さ
6. 汎用の端末ID、実際のコードID、汎用の長さ
7. 汎用の端末ID、汎用のコードID、実際の長さ
8. 汎用の端末ID、汎用のコードID、汎用の長さ

データフォーマットの構成はヘッダー情報を含め、2000バイトが最大サイズです。

最初のデータフォーマットに失敗し、次にデータフォーマットがある場合、そちらがバーコードデータに使用されます。他のデータフォーマットがない場合、そのままのデータが出力されます。

データフォーマットの設定の変更を行ったものの、フォーマットをすべて削除して工場初期設定に戻りたい場合は、下のデータフォーマット初期設定コードを読み取ってください。



データフォーマット表示

以下のバーコードを読み取ると現在のデータフォーマット設定が表示されます。



データフォーマットの追加

Step 1. データフォーマットの入力のシンボルを読み取ります。

Step 2. 基準/代用フォーマットを選択します。

基準のデータフォーマットにするか、または3つある代用フォーマットの1つにするかを決定します。全部で4つの異なるデータフォーマットの方法を保存することができます。基準フォーマットを設定するときは、[プログラミングチャート](#)で0を読み取ります。代用フォーマットをプログラム設定する場合は、設定する代用フォーマットによって1、2、または3を読み取ります。

Step 3. 端末の種類

端末IDテーブルを参照し、お使いのコンピュータの端末IDナンバーを確認します。プログラムにある3つの数字バーコードを

読み取り、その端末IDでスキャナをプログラム設定します。（数字を3つ入力してください。）例えば、ATウェッジの場合は0、0、3を読み取ります。

注意：すべての端末に適用する場合は、099と入力してください。

Step 4. コードID

[シンボルチャート](#)でデータフォーマットを適用するシンボルを確認します。そのシンボルの16進数値を確認し、[プログラミングチャート](#)から2桁の16進数を読み取ります。

バッチモード数量のデータフォーマットを作成するには、コードIDの35を使用します。

注意：例えば、ATウェッジの場合は0、0、3を読み取ります。

Step 5. コードの長さ

このシンボルで可能なデータの長さ（最大9,999キャラクタ）を指定します。[プログラミングチャート](#)から4桁のデータ長を読み取ります。例えば、50キャラクタ（桁）は0050と入力します。

注意：コードの長さを問わず設定を適用したい場合は、9999と入力してください。

Step 6. 編集コマンド

データフォーマットエディタコマンド（編集コマンド）を参照してください。入力したいコマンドを表すシンボルを読み取ります。

Step 7. データフォーマットの保存には、**保存**を読み取ってください。保存しない場合は**破棄**を読み取ります。



他のプログラミング設定

データフォーマット1つ削除

1つのシンボルに対してデータフォーマットを1つ削除します。基準フォーマットを削除する場合は、[プログラミングチャート](#)から0を読み取ります。代用フォーマットを削除する場合は、削除する代用フォーマットによって1、2、または3を読み取ります。その後、削除したい特定のデータフォーマットの端末の種類、コードID、およびバーコードデータ桁数を読み取ります。他のフォーマットは全く影響を受けません。

データフォーマットすべて削除

すべてのデータフォーマットを削除します。

保存

データフォーマットを保存します。

破棄

データフォーマットの設定を中止し、破棄します。





MNUSAV

保存



MNUABT

データフォーマットすべて削除



DFMCA3

破棄

端末IDテーブル

モデル		端末ID
USB	PC キーボード	124
	Mac キーボード	125
	PC 日本語キーボード	134
	シリアル (COM ドライバ必要)	130
	HID POS	131
	USB SurePOS ハンドヘルドスキャナ	128
	USB SurePOSテーブルトップスキャナ	129
シリアル	RS232 TTL	000
	RS232 True	000
	RS485 (IBM-HHBCR 1+2, 46xx)	051
キーボード	PS2 互換機	003
	AT 互換機	002

データフォーマットエディタコマンド (編集コマンド)

データフォーマットエディタを行う場合、カーソルが入力データにそって移動します。次のコマンドを使用して、カーソルを違う位置に移動し、最終出力にデータの選択、変換、そして挿入を行います。

送信コマンド

すべてのキャラクタを送信する

F1 入力メッセージ (読み取ったデータ) のすべてのキャラクタが出力メッセージに含まれます。現在のカーソル位置から始まり、最後にキャラクタを挿入します。Syntax=F1xx (xxは、挿入するキャラクタのASCIIコードに対する16進数を示しています。) 10進数値、16進数、キャラクタコードについては、ASCII変換チャートページを参照してください。

複数のキャラクタを送信する

F2 入力メッセージ (読み取ったデータ) から指定した桁数のデータだけを送信します。現在のカーソル位置から「nn」個のキャラクタまで、もしくは入力メッセージの最後のキャラクタまで、最後にキャラクタを挿入して送信します。Syntax=F2nnxx (nnはキャラクタの数を示す数字 (00~99) で、xxは、挿入するキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示しています。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

F2の例 : 複数のキャラクタを送信する



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードから最初の10キャラクタにキャリッジリターンを挿入して送信します。

コマンド : F2100D

F2は「複数のキャラクタを送信する」コマンドです。

10は送信するキャラクタ数です。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：**1234567890**

F2とF1の例：キャラクタを2行に分割

上記のバーコードから最初の10キャラクタにキャリッジリターンを挿入し、残りのキャラクタを送信します。

コマンド：**F2100DF10D**

F2は「複数のキャラクタを送信する」コマンドです。

10は最初の行に送信するキャラクタ数です。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

1234567890
ABCDEFGHIJ
<CR>

特定のキャラクタまでのキャラクタすべてを送信する

F3 現在のカーソル位置のキャラクタから始まり、検索キャラクタ「ss」の手前までのデータを送信します。続いて、指定したキャラクタを挿入します。カーソルは「ss」キャラクタへと移動します。Syntax=F3ssxx（nnは検索するキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示し、xxは、挿入したいキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示しています。

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#)を参照してください。

F3の例：特定のキャラクタまでのキャラクタすべてを送信する



上記のバーコードを使用して、「D」までのすべての文字とキャリッジリターンを送信します。

コマンド：**F3440D**

F3は「特定のキャラクタまでのキャラクタすべてを送信する」コマンドです。

44は「D」の16進数値です。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

1234567890ABC
<CR>

特定の文字列までのキャラクタすべてを送信する

B9 現在のカーソル位置のキャラクタから始まり、検索文字列「s...s」の手前までのデータを送信します。カーソルは「s...s」キャラクタへと移動します。Syntax=B9nnns...s（nnnnは検索する文字列のASCIIコードに対する16進数値を示し、s...sは、指定した文字列のASCIIコードに対する16進数値を示しています。文字列は文字列にある文字の16進数値です。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#)を参照してください。

B9の例：特定の文字列までのキャラクタすべてを送信する



上記のバーコードを使用して、「AB」までのすべての文字を送信します。

コマンド：B900024142

B9は「特定の文字列までのキャラクタすべてを送信する」コマンドです。

0002は文字列の長さです。（2文字）

41は「A」の16進数値です。

42は「B」の16進数値です。

データ出力は：1234567890

最後のキャラクタ以外を送信する

E9 現在のカーソル位置から、最後の「nn」キャラクタを除くすべてを出力メッセージに含めて送信します。カーソルは最後の入力メッセージキャラクタが含まれる位置を過ぎたところへ移動します。Syntax=E9nn（nnは、メッセージの最後で送られないキャラクタの数の数値（00～99）を示しています）。

キャラクタを複数回挿入する

F4 現在のカーソル位置はそのまま、「xx」キャラクタを「nn」回、出力メッセージで送信します。Syntax=F4xxnn（xxは、挿入したいキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示し、nnは、送信する回数の数値（00～99）を示しています。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#)を参照してください）。

E9とF4の例：最後のキャラクタ以外にタブを2つ付加し送信する



上記のバーコードから最後の8桁を除いたすべてのキャラクタにタブを2つ追加して送信します。

コマンド：E908F40902

E9は「最後のキャラクタ以外にタブを2つ付加し送信する」コマンドです。

08は無視するキャラクタ数です。

F4は「キャラクタを複数回挿入する」コマンドです。

09は「水平タブ」の16進数値です。

02は挿入するタブの数です。

データ出力は：1234567890AB<tab><tab>

文字列の挿入

BA 現在のカーソル位置はそのまま、「nn」の長さの「ss」キャラクタを送信します。Syntax=BAⁿⁿss（nnは文字列の長さ、s...sは文字列を示しています。）文字列は文字列にある文字の16進数値です。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#)を参照してください）。

B9とBAの例：「AB」を検索し、アスタリスク（**）を2つ挿入する。



上記のバーコードを使用して、「AB」までのすべての文字を送信します。2つのアスタリスクを挿入し、それ以降の文字にキャリッジリターンを付加して送信します。

コマンド：B900024142BA00022A2AF10D

B9は「特定の文字列までのキャラクタすべてを送信する」です。

0002は文字列の長さです。(2文字)

41は「A」の16進数値です。

42は「B」の16進数値です。

BAは「文字列の挿入」コマンドです。

0002は追加する文字列の長さです。(2文字)

2Aはアスタリスク(*)の16進数値です。

2Aはアスタリスク(*)の16進数値です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

```
1234567890**ABCDEFGHIJ  
<CR>
```

シンボル名を挿入する

B3 カーソルを動かすことなく、出力メッセージにバーコードシンボル名を挿入します。含まれるのは、ハネウエルIDのあるシンボルのみです。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート\(コードページ1252\)](#)を参照してください。

バーコード長を挿入する

B4 カーソルを動かすことなく、出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。バーコードの長さは数字のストリングによって示され、リード部の0は含まれません。

B3とB4の例：シンボル名とシンボル長を挿入する



上記のバーコードにバーコードデータの前にシンボル名と長さを挿入し送信します。その挿入をスペースで分けます。キャリッジリターンで終わります。

コマンド：**B3F42001B4F42001F10D**

B3は「シンボル名を挿入する」コマンドです。

F4は「キャラクタを複数回挿入する」コマンドです。

20はスペースの16進数値です。

01は挿入するタスペースの数です。

B4は「バーコード長を挿入する」コマンドです。

F4は「キャラクタを複数回挿入する」コマンドです。

20はスペースの16進数値です。

01は挿入するタスペースの数です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ
<CR>

キーストロークを挿入する

B5 キーストローク、またはキーストロークの組み合わせを挿入します。キーストロークは、お使いのキーボードにより異なります。矢印やファンクションを含め、どんなキーも挿入できます。Syntax=B5xxssnn ssは下表のキーモディファイアであり、nnはユニコードキーマップのキー番号です。

キーモディファイア	
キーモディファイアなし	00
Shift Left (左シフト)	01
Shift Right (右シフト)	02
Alt Left (左 Alt)	04
Alt Right (右 Alt)	08
Control Left (左 Ctrl)	10
Control Right (右 Ctrl)	20

例えば、B501021Fというコマンドを作成するとUSキーボード104キーにAを追加します。B5はキーストロークを挿入するコマンド、01はキーモディファイアなしに押されたキーの数、02はShift Right (右シフト) のキーモディファイア、1Fは小文字の「a」です。もし小文字の「a」が挿入されたら、B50121Fの設定は成功です。

キーストロークが3つある場合、B5xxssnnをもう1つ追加し、Syntax=B5xxssnnssnnssnnに変わります。「abc」を入力する場合は、以下のとおりです。

B503001F00320030F833

注意：必要であれば、キーモディファイアは組み合わせて一緒に付加することが可能です。

例えば：Control Left (右Ctrl) + Shift Left (右シフト) は17で、16進数に変換すると11になります。

移動コマンド

前方キャラクタへ移動する

F5 カーソルを現在の位置から「nn」キャラクタ分、先へと移動させます。

Syntax=F5nn (nnは、カーソルを前に移動させるキャラクタ数 (00~99) を示しています。)

F5の例：カーソルを前に移動し、データを送信します。



上記のバーコードのカーソルを3文字前に移動し、それ以降のバーコードデータを送信します。キャリッジリターンで終わります。

コマンド：**F503F10D**

F5は「前方キャラクタへ移動する」コマンドです。

03はカーソルを移動するキャラクタ数です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

4567890ABCDEFGHIJ
<CR>

後方キャラクタへ移動する

F6 カーソルを現在の位置から「nn」キャラクタ分、後ろへ移動させます。

Syntax=F6nn (nnは、カーソルを後ろに移動させるキャラクタ数 (00~99) を示しています。)

カーソルを先頭に移動する

F7 カーソルを入力メッセージの先頭キャラクタに移動させます。Syntax=F7

FEとF7の例：1で始まるバーコードを処理します。



1で始まるバーコードを検索します。バーコードが一致した場合、カーソルはデータの先頭に移動し、6文字にキャリッジリターンを付加し送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド：**FE31F7F2060D**

FEは「キャラクタの比較」コマンドです。

31は1の16進数値です。

F7は「カーソルを先頭に移動する」コマンドです。

F2は「複数のキャラクタを送信する」コマンドです。

06は送信するキャラクタ数です。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

123456

<CR>

カーソルを末尾に移動する

EA カーソルを入力メッセージの最終キャラクタに移動します。Syntax=EA

検索コマンド

前方のキャラクタを検索する

F8 現在のカーソル位置より前方にある「xx」キャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルは「xx」キャラクタに移動します。Syntax =F8xx (xxは、検索するキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示しています。)

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

F8の例：特定のキャラクタの後に始まるバーコードデータを送信する



バーコードにある「D」を検索し、「D」を含むその後のすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド：**F844F10D**

F8は「前方のキャラクタを検索する」コマンドです。

44は「D」の16進数値です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。データ出力は：

DEFGHIJ
<CR>

後方のキャラクタを検索する

F9 現在のカーソル位置より後方にある「xx」キャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルは「xx」キャラクタに移動します。Syntax=F9xx(xxは、検索するキャラクタのASCIIコードにコードに対する16進数値を示しています)。

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

前方のストリングを検索する

B0 現在のカーソル位置より前方にある「s」ストリングを検索し、カーソルは「s」ストリングに移動します。Syntax=B0nnnnS。nnnnはストリングの長さ (最大9999) で、sは対応するストリングの各キャラクタのASCII16進数値からなっています。例えば、B0000454657374 では初めて4桁のキャラクタのストリングが登場する「Test」を前方検索します。

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

B0の例：特定のストリングの後に始まるバーコードデータを送信する



バーコードにある「FGH」を検索し、「FGH」を含むその後のすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド：**B00003464748F10D**

B0は「前方のストリングを検索する」コマンドです。

0003はストリング長 (3文字) です。

46は「F」の16進数値です。

47は「G」の16進数値です。

48は「H」の16進数値です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

FGHIJ
<CR>

後ろ方のストリングを検索する

B1 現在のカーソル位置より後方にある「s」ストリングを検索し、カーソルは「s」ストリングに移動します。Syntax=B1nnnnS。nnnnはストリングの長さ (最大9999) で、sは対応するストリングの各キャラクタのASCII16進数値からなっています。例えば、B1000454657374では初めて4キャラクタのストリングが出現する「Test」を後方検索します。

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

合致しないキャラクタの前方を検索する

E6 現在のカーソル位置より前方にある「xx」以外のキャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルを「xx」ではないキャラクタに移動させます。Syntax=E6xx。xxは、検索キャラクタのASCIIコードにコードに対する16進数値を示しています。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

E6の例：バーコードデータのはじめにある0を削除する



0があるバーコードの例です。0を無視し、それ以降のすべてのデータを送信する場合、E6は0ではない最初の文字を検索し、その後のデータすべてとキャリッジリターンを送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド : **E630F10D**

E6は「合致しないキャラクタの前方を検索する」コマンドです。

30は0の16進数値です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は :

```
37692
<CR>
```

合致しないキャラクタの後方を検索する

E7 現在のカーソル位置より後ろ方にある「xx」以外のキャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルを「xx」ではないキャラクタに移動させます。Syntax=E7xx。xxは、検索キャラクタのASCIIコードにコードに対する16進数値を示しています。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

その他のコマンド

キャラクタを無効にする

FBカーソルを他のコマンドで進めると、現在のカーソル位置から最大15の別のキャラクタをすべて無効にします。FCコマンドを実行することで、この機能を停止することができます。FBコマンドではカーソルが移動しませんので、ご注意ください

Syntax = FBnnxxyy..zzは、リストにある無効キャラクタの数、xxyy..zzは、無効にするキャラクタのリストです。

FBの例 : バーコードデータのスペースを削除します。



スペースがあるバーコードの例です。データ送信の前にスペースを削除します。上記のバーコードを使用します。

コマンド : **FB0120F10D**

FBは「キャラクタを無効にする」コマンドです。

01は無効にするキャラクタタイプです。

20はスペースの16進数値です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は :

```
34567890
<CR>
```

キャラクタの無効を停止する

FC キャラクタの無効を停止し、無効になったキャラクタをすべて削除します。Syntax=FC

キャラクタを置き換える

E4 出力メッセージにある最大15桁のキャラクタをカーソルを移動せずに変更します。変更は、E5コマンドを実行するまで続きます。Syntax =E4nnxx1xx2yy1yy2...zz1zz2。nnは（変更前のキャラクタと変更後）のキャラクタの合計です。xx1は、

変更前のキャラクタを、xx2は変更後のキャラクタを定義します。zz1とzz2まで同様です。

E4の例：バーコードの0をキャリッジリターンに置き換えます。



ホストアプリケーションで含めたくないキャラクタを持つバーコードがある場合、E4コマンドを使用してそれらのキャラクタを別のものに置き換えられます。この例では、上記のバーコードの0をキャリッジリターンに置きかえます。

コマンド：**E402300DF10D**

E4は「キャラクタを置き換える」コマンドです。

02は置き換えるキャラクタの合計数と置き換えるキャラクタ（0をキャリッジリターンに置き換えるので、合計キャラクタ数は2）です。

30は0の16進数値です。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。（0に置き換わるキャラクタ）

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

```
1234
5678
ABC
<CR>
```

キャラクタの置き換えを停止する

E5 キャラクタの変更を停止します。Syntax=E5。

キャラクタを比較する

FE 現在のカーソル位置にあるキャラクタをキャラクタ「xx」と比較します。キャラクタが同じ場合は、カーソルを1つ進めます。Syntax=FExx（xxは、比較するキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示しています。）

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#) ページを参照してください。

ストリングを比較する

B2 入力メッセージにあるストリングをストリング「s」と比較します。ストリングが同じ場合は、カーソルをそのストリングの末尾まで移動させます。Syntax= B2nnnnS。nnnnはストリングの長さ（最大9999）で、sは対応するストリングの各キャラクタのASCII16進数値からなっています。例えば、B2000454657374は現在のカーソル位置のストリングと4つのキャラクタストリング「Test」を比較します。

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#) ページを参照してください。

数字をチェックする

EC 現在のカーソル位置にASCII数字があることを確認します。ASCII数字でない場合は、フォーマットを中止します。

ECの例：バーコードが数字で始まる場合のみデータを出力します。

数字で始まるバーコードからデータのみがほしい場合、ECコマンドを使用します。

コマンド：**ECF10D**

ECは「数字をチェックする」コマンドです。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。



このバーコードが読まれると、 **AB1234** 次にデータフォーマットがある場合、このデータに使用されます。他のフォーマットがない場合、そのままのデータ**AB1234**が出力されます。



このバーコードが読まれると： **1234AB** データ出力は：

1234AB
<CR>

数字以外のキャラクタをチェックする

ED 現在のカーソル位置にASCII 数字以外のキャラクタがあることを確認します。キャラクタが数字の場合は、フォーマットを中止します。

EDの例：バーコードが文字で始まる場合のみデータを出力します。

文字で始まるバーコードからデータのみがほしい場合、ECコマンドを使用します。

コマンド：**EDF10D**

EDは「数字以外のキャラクタをチェックする」コマンドです。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。



このバーコードが読まれると、 **1234AB** 次にデータフォーマットがある場合、このデータに使用されます。他のフォーマットがない場合、そのままのデータ**1234AB**が出力されます。



このバーコードが読まれると： **AB1234** データ出力は：

AB1234
<CR>

ディレイを挿入する

EF 現在のカーソル位置から49,995ミリ秒までの（5ミリ秒単位）ディレイを挿入します。Syntax=Efnnnn。nnnnは5ミリ秒単位でのディレイを示し、最大9999です。このコマンドはキーボードウェッジインターフェースの場合にのみ使用可能です。

ディレイを破棄する

B8 データを破棄します。例えば、キャラクタ「A」で始まるCode128を破棄するとします。97ページのStep 4で、6A（Code128）を選択し、Step 5で9999（すべての長さ）を選択します。B8FE41コマンドを入力し、「A」で始まるCode128バーコードのデータを破棄します。Syntax=B8。

注意:B8コマンドはすべての他のコマンドの後に入力してください。

B8コマンドを使用するには、「データフォーマットを要求する」になっている必要があります。データフォーマットが有効で、要求しない設定になっている場合、B8フォーマットに適合するバーコードでも通常通り読み取られて出力されます。

データフォーマットは有効かつ要求するにすることがあるため、出力したいすべてのバーコードだけでなく破棄したいすべてのバーコードに対してデータフォーマットを入力する必要があります。

他のデータフォーマット設定が、このB8コマンドに影響します。**データフォーマット不一致エラーブザー**が有効な場合、スキヤナはエラーブザーを鳴らします。逆に**データフォーマット不一致エラーブザー**が無効になっている場合、コードの読み取りを行わないと同時に、エラーブザーもなりません。

データフォーマット

データフォーマットを無効にすると、プレフィックスとサフィックスを含め、バーコードデータは読み取ったままホストに出力されます。



読み取ったデータをユーザーが作成・保存したデータフォーマットに合致させたい場合、以下の設定をデータフォーマットに適用することができます。

データフォーマット有効、要求しない、プレフィックス/サフィックスあり

読み取ったデータはユーザーのデータフォーマットに合わせて調整され、プレフィックス、サフィックスも送信されます。

データフォーマット有効、要求しない、プレフィックス/サフィックスなし

読み取ったデータは、データフォーマットに合わせて調整されます。データフォーマットが特定のシンボルの場合、それらのプレフィックス、サフィックスは送信されません。データフォーマットが特定のシンボルにない場合、プレフィックス、サフィックスは送信されます。

データフォーマット要求するプレフィックス/サフィックスあり

読み取ったデータはユーザーのデータフォーマットに合わせて調整され、プレフィックス、サフィックスも送信されます。ユーザーのデータフォーマットに合わない場合、すべてに対してエラーブザーが鳴らされ、そのバーコードのデータは送信されません。エラーブザーなしでこのタイプのバーコード操作を行いたい場合は、[データフォーマット不一致エラーブザー](#)を参照してください。

データフォーマット要求するプレフィックス/サフィックスなし

読み取ったデータは、データフォーマットに合わせて調整されます。データフォーマットが特定のシンボルの場合、それらのプレフィックス、サフィックスは送信されません。ユーザーのデータフォーマットに合わない場合は、すべてエラーブザーが鳴らされます。エラーブザーなしでこのタイプのバーコード操作を行いたい場合は、[データフォーマット不一致エラーブザー](#)を参照してください。

操作は以下から1つ選んでください。初期設定はデータフォーマット有効、要求しない、プレフィックス/サフィックスありです。



データフォーマット不一致エラーブザー

ユーザーが要望するデータフォーマットに合わないバーコードが読み込まれた場合、通常、スキャナがエラーブザーを鳴らします。しかし、エラーブザーを聞くことなくバーコード読み込みを続けたい場合もあります。データフォーマット不一致エラーブザー無効バーコードを読み込むと、データフォーマットと一致しなかったデータは送信されず、エラーブザーも鳴りません。不一致のバーコードがあったときにアラート音を聞きたい場合は、データフォーマット不一致エラーブザー有効バーコードを読み取ってください。初期設定はデータフォーマット不一致エラーブザー有効です。



*データフォーマット不一致エラーブザー有効



データフォーマット不一致エラーブザー無効

基準/代用データフォーマット

データフォーマットは4種類保存することができ、それらのフォーマットを切り換えることができます。基準データフォーマットの場合は、0で保存してください。それ以外のフォーマットは1、2、3のどれかで保存してください。フォーマットを使用するには、以下のバーコードのいずれか1つを読み取ってください。



基準データフォーマット



データフォーマット1



データフォーマット2



データフォーマット3

データフォーマットの切り替え

一回の読み取りだけでデータフォーマットの切り替えができます。以下のバーコードを代用データフォーマットで読み取り、前記で選択したフォーマット（基準、もしくは1、2、3）へと戻します。

例えば、データフォーマット3として保存したデータフォーマットに設定したデバイスの場合、以下のデータフォーマット1へ切り替えバーコードをトリガーを引きスキャンしてデータフォーマット1に切り替えられます。データフォーマット1でスキャンしたその次のバーコードはデータフォーマット3に切り替えられます。



基準データフォーマットへ切り替え



データフォーマット1へ切り替え



データフォーマット2へ切り替え



データフォーマット3へ切り替え

シンボル

この章では、以下のメニュー項目について説明します。設定と初期設定については、[シリアルプログラミングコマンドの章](#)を参照してください。

- [すべてのシンボル](#)
- [Aztecコード](#)
- [中国郵便コード \(Hong Kong 2 of 5\)](#)
- [中国漢信 \(Han Xin\) コード](#)
- [Codabar](#)
- [CodablockA](#)
- [CodablockF](#)
- [Code11](#)
- [Code128](#)
- [Code32 Pharmaceutical \(PARAF\)](#)
- [Code39](#)
- [Code93](#)
- [Data Matrix](#)
- [Digimarc Barcode™](#)
- [Dotコード](#)
- [EAN/JAN-13](#)
- [EAN/JAN-8](#)
- [GS1コンポジットシンボル](#)
- [GS1データバー拡張型 \(エクспанデッド\)](#)
- [GS1データバー限定型 \(リミテッド\)](#)
- [GS1データバー標準型 \(オムニディレクショナル\)](#)
- [GS1エミュレーション](#)
- [Interleaved 2 of 5 \(ITF\)](#)
- [韓国郵便](#)
- [ラベルコード](#)
- [Matrix 2 of 5](#)
- [Maxiコード](#)
- [MicroPDF417](#)
- [MSI](#)
- [NEC 2 of 5](#)
- [2次元郵便コード](#)
- [1次元郵便コード](#)
- [PDF417](#)
- [QRコード](#)
- [Straight 2 of 5 IATA \(2バースタートストップ\)](#)
- [Straight 2 of 5 Industrial \(3バースタートストップ\)](#)
- [TCIF Linked Code39 \(TLC39\)](#)
- [Telepen](#)
- [Triopticコード](#)
- [UPC-A](#)
- [拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13](#)
- [UPC-E0](#)
- [UPC-E1](#)
- [GS1-128](#)

すべてのシンボル

お使いのスキヤナで可能なシンボルをすべてデコードしたい場合は、**すべてのシンボル有効**のバーコードを読み取ります。一方、特定のシンボルだけを読み取りたい場合は、**すべてのシンボル無効**を読み取り、その後、特定のシンボルに対して**有効**バーコードを読み取ります。



注意：すべてのシンボル有効を読み取っても、2次元郵便コードの読み取りは有効になりません。2次元郵便コードについては、別に設定してください。

読取桁数について

バーコードシンボルによっては、読取桁数を設定できます。読み取ったバーコードのデータ桁数が指定した読取桁数と一致しない場合、エラーブザーが鳴ります。スキャナに強制的に固定長のバーコードデータを読み取らせるため、最小と最大を同じ値に設定することも可能です。これによって読み取りエラーの削減に役立ちます。

例： 桁数が9～20のバーコードだけをデコードします。

最小：09、最大：20

例： 桁数が15のバーコードだけをデコードします。

最小：15、最大：15

初期設定の最小および最大読取桁数以外の値にする場合は、そのシンボルの説明に含まれているバーコード読み取り、次に[プログラミングチャート](#)から読取桁数の数値と保存のバーコードを読み取ります。最小と最大、および初期設定は、それぞれのシンボル別設定に記載されていますので、そちらを参照してください。

Codabar

【Codabar設定をすべて初期化】



Codabar有効/無効



Codabarスタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信の有無を選択できます。初期設定は送信なしです。



Codabarチェックキャラクタ

Codabarチェックキャラクタは、いろいろな「モジュラス」を用いて作成します。モジュラス16チェックキャラクタを用いたCodabarのバーコードだけを読み取るよう、スキャナを設定できます。初期設定値はチェックキャラクタなしです。

チェックキャラクタなしは、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

モジュラス16検証および送信に設定すると、スキャナはチェックキャラクタが印刷されたCodabarのみ読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

モジュラス16検証、送信なしに設定すると、チェックキャラクタと共に印刷されたCodabarバーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは、読み取ったデータと一緒に送信されません。



Codabarの連結

Codabarには、連結サポート機能があります。連結機能を有効にすると、「D」のスタートキャラクタがあるバーコードと、「D」のストップキャラクタがあるバーコードに隣接するCodabarを検索します。この場合、2つのデータは1つに連結され、「D」キャラクタは省略されます。



連結されていない単独の「D」Codabarをデコードしないようにするには、**要求する**を選択します。この選択をしても、「D」のスタート/ストップキャラクタがないCodabarには影響ありません。



Codabarの読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は2~60、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は60です。



Code39

【Code39設定をすべて初期化】



Code39有効/無効



Code39 スタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信の有無を選択できます。初期設定は送信なしです。



Code39 チェックキャラクタ

チェックキャラクタなしは、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

有効、送信なしに設定すると、チェックキャラクタが印刷されたCode39バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタと読み取ったデータと一緒に送信しません。

有効、送信するに設定すると、チェックキャラクタが印刷されたCode39バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。初期設定値はチェックキャラクタなしです。



Code39 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は0~48、最短の初期設定値は0、最長の初期設定値は48です。



Code39の連結

この機能により、複数のCode39バーコードのデータを付加してからホストシステムに送信できます。この機能を有効にする

と、スキャナはスペースで始まるCode39バーコード（スタートおよびストップシンボルを除く）を保存し、すぐにはデータを送りません。バーコードを読み取った順にデータを保存し、それぞれから最初のスペースを削除します。スペース以外のキャラクタで始まるCode39バーコードを読み取ると、保存したデータを読み取った順で送信します（FIFO）。初期設定は無効です。



Code32 Pharmaceutical (PARAF)

Code32 Pharmaceuticalは、イタリアの薬局で使用されているCode39の一種です。PARAFとも呼ばれます。

注意：Code32 Pharmaceutical のバーコードを読み取るときは、Triopticコードを必ず無効にしてください。



FullASCII

フルASCII Code39デコーディングを有効にすると、バーコードシンボル内のある一定のキャラクタペアが単独のキャラクタとして解釈されます。例えば、「\$V」はASCIIキャラクタの「SYN」として、「/C」は「#」としてデコードされます。初期設定は無効です。

N	%	DL	\$P	S	SPA	0	0	@	%	P	P	'	%	p	+
S	\$A	D	\$Q	!	/A	1	1	A	A	Q	Q	a	+A	q	+
ST	\$B	D	\$R	"	/B	2	2	B	B	R	R	b	+B	r	+
ET	\$C	D	\$S	#	/C	3	3	C	C	S	S	c	+C	s	+
E	\$D	D	\$T	\$		4	4	D	D	T	T	d	+D	t	+
EN	\$E	NA	\$U	%	/E	5	5	E	E	U	U	e	+E	u	+
AC	\$F	SY	\$V	&	/F	6	6	F	F	V	V	f	+F	v	+
BE	\$G	ET	\$W	'	/G	7	7	G	G	W	W	g	+G	w	+
BS	\$H	CA	\$X	(/H	8	8	H	H	X	X	h	+H	x	+
HT	\$I	E	\$Y)	/I	9	9	I	I	Y	Y	i	+I	y	+
LF	\$J	SU	\$Z	*	/J	:	/Z	J	J	Z	Z	j	+J	z	+
VT	\$K	ES	%A	+	/K	;	%F	K	K	[%	k	+K	{	%
FF	\$L	FS	%B	,	/L	<	%	L	L	\	%	l	+L		%
C	\$M	G	%C	-		=	%	M	M]	%	m	+M	}	%
S	\$N	RS	%D	.		>	%I	N	N	^	%	n	+N	~	%
SI	\$O	US	%E	/	/O	?	%J	O	O	_	%	o		D	%

キャラクタペアの「/M」と「/N」は、それぞれマイナス記号とピリオドになります。

「/P」から「/Y」までは、「0」～「9」になります。



Code39コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



Interleaved 2 of 5 (ITF)

【Interleaved 2 of 5設定をすべて初期化】



Interleaved 2 of 5 (ITF) の有効/無効



Interleaved 2 of 5 (ITF) チェックデジット

チェックデジットなしは、チェックデジットの有無に関係なくスキャナがバーコードデータを読み取って送信することを示します。

有効、送信なしに設定すると、チェックデジットが印刷されたITFバーコードだけを読み取りますが、チェックデジットを読み取ったデータと一緒に送信することはありません。

有効、送信するに設定すると、チェックデジットが印刷されたITFバーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。初期設定値はチェックデジットなしです。



Interleaved 2 of 5 (ITF) の読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は2～80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は80です。



FEBRABAN デコード

次のバーコードを読み取り、FEBRABANデコード有効/無効を設定してください。初期設定値は無効です。



NEC 2 of 5

【NEC 2 of 5設定をすべて初期化】



NEC 2 of 5 有効無効



チェックデジット

チェックデジットなしは、チェックデジットの有無に関係なくスキャナがバーコードデータを読み取って送信することを示します。

有効、送信なしに設定すると、チェックデジットが印刷されたNEC 2 of 5バーコードだけを読み取りますが、チェックデジットを読み取ったデータと一緒に送信することはありません。

有効、送信するに設定すると、チェックデジットが印刷されたNEC 2 of 5バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。初期設定値はチェックデジットなしです。





N25CK22.

有効、送信する

NEC 2 of 5読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は2~80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は80です。



N25MIN.

最小読取桁数



N25MAX.

最大読取桁数

Code93

【Code93設定をすべて初期化】



C93DFT.

Code93有効/無効



C93ENA1.

*有効



C93ENA0.

無効

Code93読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は0~80、最短の初期設定値は0、最長の初期設定値は80です。



C93MIN.

最小読取桁数



C93MAX.

最大読取桁数

Code93連結機能

この機能を使用すると、複数のCode93バーコードをホストデバイスに送信する前に複数のCode93バーコードからデータを連結させることができます。スペースで始まるCode93（スタート/ストップシンボルを除く）を読み取った順に保存し、各バーコードからスペースを削除します。スペース以外で始まるCode93バーコードを読み取ると、スキャナは結合したデータをホストデバイスに送信します。初期設定は無効です。



C93APP1.

有効



Code93コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



Straight 2 of 5 Industrial (3バースタート/ストップ)

【Straight of 5 Industrial設定をすべて初期化】



Straight 2 of 5 Industrial有効/無効



Straight 2 of 5 Industrial読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は1~48 最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は48です。



Straight 2 of 5 IATA (2バースタート/ストップ)

【IATA設定をすべて初期化】



Straight 2 of 5 IATA有効/無効



Straight 2 of 5 IATAリダンダンシー

Straight 2 of 5 IATAを読取ってエラーが発生した時は、スキャナがデータを送る前にバーコードのデコードを行う回数の設定変更を行う事でエラーの削減・回避が行う事が出来ます。その回数（リダンダンシー回数）を増やすとデコードに時間がかかります。設定変更を行うには、以下のStraight 2 of 5 IATAリダンダンシーを読み取り、[プログラミングチャート](#)から回数0~10を読み、**保存**を読み取ります。初期設定は0です。



Straight 2 of 5 IATA読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は1~48、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は48です。



Matrix 2 of 5

【Matrix 2 of 5設定をすべて初期化】



Matrix 2 of 5有効/無効



Matrix 2 of 5読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。

詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。

設定可能桁数は1~80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は80です。



X25MAX.

最小読取桁数



X25MIN.

最大読取桁数

Code11

【Code11設定をすべて初期化】



C11DFT.



C11ENA1.

有効



C11ENA0.

*無効

チェックデジットの要求

Code11バーコードに必要なチェックデジットを1つまたは2つに設定します。初期設定はチェックデジット2つです。



C11CK20.

チェックデジット1つ



C11CK21.

*チェックデジット2つ

Code11読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は1~80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は80です。



C11MIN.

最小読取桁数



C11MAX.

最大読取桁数

Code128

【Code128設定をすべて初期化】



128DFT.

Code128有効/無効



ISBT128連結機能

1994年、国際輸血学会（ISBT）は、血液の重要情報を一定の方法でやり取りするための基準を定めました。ISBTフォーマットを使用するには、有料ライセンスが必要です。ISBT128のアプリケーション仕様では、次の内容を規定しています。1) 血液製品にラベル表示をするための重要なデータ要素、2) セキュリティが高度で設計のスペース効率が良いことからCode128の使用を現在は推奨すること、3) 隣接シンボルの連結をサポートするCode128のバリエーション、4) 血液製品ラベルのバーコードの標準レイアウト。次のバーコードを用いて連結をオン/オフします。初期設定は無効です。



Code128リダンダンシー

Code128を読取ってエラーが発生した時は、スキャナがデータを送る前に、バーコードのデコードを行う回数の設定変更を行う事でエラーの削減・回避が行う事が出来ます。その回数（リダンダンシー回数）を増やすとデコードに時間がかかります。その設定変更を行うには、以下のCode128リダンダンシーを読み取り、[プログラミングチャート](#)から回数0～10を読み、**保存**を読み取ります。初期設定は0です。



Code128読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は0～80、最短の初期設定値は0、最長の初期設定値は80です。



Code128連結機能

この機能では、複数のCode128バーコードをホストデバイスに送信する前に連結して送信することが可能です。スキャナが連結を示すキャラクタを含んだCode128バーコードを読み取ると、連結を示すキャラクタを含まないバーコードを読み取るまでCode128バーコードのデータを一時的に保存します。バーコードデータは読み取った順に出力されます（FIFO）。初期設定は無効です。



Code128コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



GS1-128

【GS1-128設定をすべて初期化】



GS1-128 有効/無効



GS1-128 読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は1~80、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は80です。



Telepen

【Telepen設定をすべて初期化】



Telepen有効/無効



Telepen出力

AIM Telepen出力を使用すると、スキャナはスタート/ストップパターン1のシンボルを読み取り、標準のフルASCII（スタート/ストップパターン1）としてデコードします。オリジナルTelepen出力を選択すると、スタート/ストップパターン1のシンボルを読み取り、オプションのフルASCII（スタート/ストップパターン2）を含む圧縮された数値としてデコードします。初期設定はAIM Telepen出力です。



Telepen読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は1~60、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は60です。



UPC-A

UPC-A有効/無効

【UPC-A設定をすべて初期化】



注意：UPC-AバーコードをEAN-13に変換するには、[UPC-AからEAN-13への変換](#)ページを参照してください。

UPC-A チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は有効です。



UPC-A システム番号

通常は読み取ったデータの最初にUPCシンボルのシステム番号を送信しますが、送信なしのように設定できます。初期設定は有効です。



UPC-A アドオン

読み取ったすべてのUPC-Aデータの最後に2桁または5桁のアドオンを追加します。

初期設定は2桁と5桁の両方のアドオン追加禁止です。



UPC-A アドオンの要求

要求するバーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのあるUPC-Aバーコードだけを読み取ります。

2桁または5桁のアドオンを有効にする必要があります。初期設定は要求しないです。



アドオンタイムアウト

スキャナがアドオンを探している時間を設定し、その時間が過ぎるとタイムアウトとなる事で、**UPC-Aアドオン要求する**で設定した値により、データを送信するか廃棄する事が出来ます。タイムアウトの設定は、以下のバーコードを読取った後で、[プログラミングチャート](#)から、0~120ミリ秒の時間を設定し、**保存**のバーコードを読み取ります。初期設定は500です。



UPC-A アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースが入ります。無効にするとスペースは入りません。初期設定は有効です。



拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13

次のバーコードを使用し、拡張クーポンコード付きUPC-AおよびEAN-13を有効または無効にします。もし初期設定（無効）のままにしておくと、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを1つのバーコードと見なします。

連結許可コードを読み取ると、スキャナがクーポンコードと拡張クーポンコードを1つの読み取りで認識した場合、どちらも別々のシンボルとして送信します。それ以外の場合は、読み取った最初のクーポンコードを送信します。

連結必須コードを読み取ると、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを1つとして読み取り、データを送信します。両方のコードが読めない限り、データは出力されません。初期設定は無効です。



アドオンタイムアウト

スキャナがアドオンを探している時間を設定し、その時間が過ぎるとタイムアウトとなる事で、[拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13](#)で設定した値により、データを送信するか廃棄する事が出来ます。タイムアウトの設定は、以下のバーコードを読取った後で、[プログラミングチャート](#)から、0~120ミリ秒の時間を設定し、**保存**のバーコードを読み取ります。初期設定は500です。



クーポンGS1 データバー出力

もしUPCとGS1データバー両方のバーコードを含んだクーポンを読み取った場合、GS1データバーのデータのみ読み取り、出力したい場合もあるかもしれません。**GS1データバーのみ出力有効**を読み取ると、GS1データバーバーコードだけを読み取り、そのデータだけを出力します。初期設定はGS1データバーのみ出力無効です。



UPC-E0

【UPC-E0設定をすべて初期化】



UPC-E0有効/無効

ほとんどのUPCバーコードは、「0」のナンバーシステムコードで始まります。これらのバーコードには、UPC-E0の設定を使用します。「1」のナンバーシステムコードで始まるバーコードを読み取る必要がある場合は、[UPC-E1](#)を使用します。初期設定は有効です。



UPC-E0の拡張

UPC-Eバーコードを12桁のUPC-Aフォーマットに拡張します。初期設定は無効です。



UPC-E0アドオン要求

要求するバーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのあるUPC-Eバーコードだけを読み取ります。初期設定は要求しないです。



UPC-E0アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンデータとの間にスペースが入ります。無効にすると、スペースは入りません。初期設定は有効です。



UPC-E0 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は有効です。



UPC-E0 システム番号

UPC-Aシンボルのシステム番号は通常読み取ったデータの最初に送信されますが、UPC-Eの拡張を使用している場合、送信なしように設定されます。送信を防ぐには無効をスキャンします。初期設定は有効です。



UPC-E0 アドオン

読み取ったすべてのUPC-Eデータの最後に2桁または5桁のアドオンを追加します。初期設定は2桁と5桁の両方のデジット追加で禁止です。



UPC-E1

ほとんどのUPCバーコードは、「0」のシステム番号で始まります。これらのバーコードには、[UPC-E0](#)を使用します。「1」のシステム番号で始まるバーコードを読み取る必要がある場合は、**UPC-E1有効**を選択してください。初期設定は無効です。



EAN/JAN-13

【EAN/JAN-13設定をすべて初期化】



EAN/JAN-13有効/無効



UPC-AからEAN-13への変換

UPC-AからEAN-13への変換が選択されると、UPC-AバーコードはEAN-13コードの前に0を付加し、13桁に変換されます。UPC-Aの変換禁止が選択されると、UPC-AコードはUPC-Aとして読まれます。



EAN/JAN-13チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は有効です。



EAN/JAN-13アドオン

読み取ったすべてのEAN/JAN-13データの最後に2桁または5桁のアドオンを追加します。初期設定は2桁と5桁の両方のアドオン追加禁止です。



E13AD21.
アドオン2桁許可



E13AD20.
*アドオン2桁禁止



E13AD51.
アドオン5桁許可



E13AD50.
*アドオン5桁禁止

EAN/JAN-13 アドオン要求

要求するバーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのあるEAN/JAN-13バーコードだけを読み取ります。初期設定は要求し
ないです。



E13ARQ1.
要求する



E13ARQ0.
*要求しない

290で始まるEAN-13 アドオン (Addenda) 要求

この設定では、「290」で始まるEAN-13バーコードに5桁のアドオンが求められ、以下のプログラムが設定されます。

5桁のアドオン要求：「290」で始まる全てのEAN-13バーコードに5桁のアドオンが必要となり、5桁のアドオンが追加されたバ
ーコードは、1つの連結されたバーコードとして送信されます。5桁のアドオンが含められなかった時は、タイムアウト後に
EAN-13のバーコードは破棄されます。

注意：「290で始まるEAN-13アドオン要求」を既に使用している場合は、その設定が優先されます。

この機能ではなく、**アドオン5桁要求**を選択されている場合は、この機能を無効にする為に以下の**アドオン5桁要求なし**をスキ
ャンしてください。EAN-13バーコードは、[EAN/JAN-13アドオン要求](#)の設定で送信されます。

初期設定はアドオン5桁要求なしです。



ARQ2900.
*アドオン5桁要求なし



ARQ2901.
アドオン5桁要求

378/379で始まるEAN-13 アドオン (Addenda) 要求

この設定では、「378」か「379」で始まるEAN-13バーコードに2桁または5桁のアドオンが求められ、以下のプログラムが設定
されます。

2桁か5桁のアドオン要求：「378」か「379」で始まる全てのEAN-13バーコードに、2桁のアドオン・5桁のアドオン、もしく
は2桁と5桁のコンビネーションが必要となり、アドオンが追加されたバーコードは、1つの連結されたバーコードとして送信さ
れます。2桁か5桁のアドオンが含められなかった時は、タイムアウト後にEAN-13のバーコードは破棄されます。

この機能ではなく、**アドオン要求**を選択されている場合は、この機能を無効にする為に以下の**アドオン要求なし**をスキャンしてください。EAN-13バーコードは、[EAN/JAN-13アドオン要求](#)の設定で送信されます。

初期設定はアドオン要求なしです。



ARQ3780.

*アドオン要求なし



ARQ3781.

アドオン2桁要求



ARQ3782.

アドオン5桁要求



ARQ3783.

2桁か5桁のアドオン要求

414/419で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求

この設定では、「414」か「419」で始まるEAN-13バーコードに2桁か5桁のアドオンが求められ、以下のプログラムが設定されます。

2桁か5桁のアドオン要求：「414」か「419」で始まる全てのEAN-13バーコードに、2桁のアドオン・5桁のアドオン、もしくは2桁と5桁のコンビネーションが必要となり、アドオンが追加されたバーコードは、1つの連結されたバーコードとして送信されます。2桁か5桁のアドオンが含まれていなかった時は、タイムアウト後にEAN-13のバーコードは破棄されます。

この機能ではなく、**アドオン要求**を選択されている場合は、この機能を無効にする為に以下の**アドオン要求なし**をスキャンしてください。EAN-13バーコードは、[EAN/JAN-13アドオン要求](#)の設定で送信されます。

初期設定はアドオン要求なしです。



ARQ4140.

*アドオン要求なし



ARQ4141.

アドオン2桁要求



ARQ4142.

アドオン5桁要求



ARQ4143.

2桁か5桁のアドオン要求

434/439で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求

この設定では、「434」か「439」で始まるEAN-13バーコードに2桁か5桁のアドオンが求められ、以下のプログラムが設定されます。

2桁か5桁のアドオン要求：「434」か「439」で始まる全てのEAN-13バーコードに、2桁のアドオン・5桁のアドオン、もしくは2桁と5桁のコンビネーションが必要となり、アドオンが追加されたバーコードは、1つの連結されたバーコードとして送信されます。2桁か5桁のアドオンが含まれていなかった時は、タイムアウト後にEAN-13のバーコードは破棄されます。

この機能ではなく、**アドオン要求**を選択されている場合は、この機能を無効にする為に以下の**アドオン要求なし**をスキャンして

ください。EAN-13バーコードは、[EAN/JAN-13アドオン要求](#)の設定で送信されます。

初期設定はアドオン要求なしです。



ARQ4340.

*アドオン要求なし



ARQ4341.

アドオン2桁要求



ARQ4342.

アドオン5桁要求



ARQ4343.

2桁か5桁のアドオン要求

977で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求

この設定では、「977」で始まるEAN-13バーコードに2桁のアドオンが求められ、以下のプログラムが設定されます。

2桁のアドオン要求：「977」で始まる全てのEAN-13バーコードに2桁のアドオンが必要となり、2桁のアドオンが追加されたバーコードは、1つの連結されたバーコードとして送信されます。2桁のアドオンが含まれたいなかった時は、タイムアウト後にEAN-13のバーコードは破棄されます。

この機能ではなく、**アドオン2桁要求**を選択されている場合は、この機能を無効にする為に以下の**アドオン2桁要求なし**をスキャンしてください。EAN-13バーコードは、[EAN/JAN-13アドオン要求](#)の設定で送信されます。

初期設定はアドオン2桁要求なしです。



ARQ9770.

*アドオン2桁要求なし



ARQ9771.

アドオン2桁要求

978で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求

この設定では、「978」で始まるEAN-13バーコードに5桁のアドオンが求められ、以下のプログラムが設定されます。

2桁のアドオン要求：「978」で始まる全てのEAN-13バーコードに5桁のアドオンが必要となり、5桁のアドオンが追加されたバーコードは、1つの連結されたバーコードとして送信されます。5桁のアドオンが含まれなかった時は、タイムアウト後にEAN-13のバーコードは破棄されます。

この機能ではなく、**アドオン5桁要求**を選択されている場合は、この機能を無効にする為に以下の**アドオン5桁要求なし**をスキャンしてください。EAN-13バーコードは、[EAN/JAN-13アドオン要求](#)の設定で送信されます。

初期設定はアドオン5桁要求なしです。



ARQ9780.

*アドオン5桁要求なし



ARQ9781.

アドオン5桁要求

979で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求

この設定では、「979」で始まるEAN-13 バーコードに5桁のアドオンが求められ、以下のプログラムが設定されます。

2桁のアドオン要求：「979」で始まる全てのEAN-13バーコードに5桁のアドオンが必要となり、5桁のアドオンが追加されたバーコードは、1つの連結されたバーコードとして送信されます。5桁のアドオンが含まれなかった時は、タイムアウト後にEAN-13のバーコードは破棄されます。

この機能ではなく、**アドオン5桁要求**を選択されている場合は、この機能を無効にする為に以下の**アドオン5桁要求なし**をスキャンしてください。EAN-13バーコードは、[EAN/JAN-13アドオン要求](#)の設定で送信されます。

初期設定はアドオン5桁要求なしです。



ARQ9790.

*アドオン5桁要求なし



ARQ9791.

アドオン5桁要求

アドオンタイムアウト

スキャナがアドオンを探している時間を設定し、その時間が過ぎるとタイムアウトとなる事で、**EAN/JAN-13アドオン要求**で設定した値により、データを送信するか廃棄する事が出来ます。タイムアウトの設定は、以下のバーコードを読取った後で、プログラミングチャートから、0~120ミリ秒の時間を設定し、**保存**のバーコードを読み取ります。初期設定は500です。



DLYADD.

アドオンタイムアウト

EAN/JAN-13アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースが入ります。無効にすると、スペースは入りません。初期設定は無効です。



E13ADS1.

有効



E13ADS0.

*無効

注意：拡張クーポンコード付きEAN13を有効または無効にしたい場合は、[拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13](#)を参照してください。

ISBN変換

ISBNはEAN-13バーコードを用いて本にプリントされているものです。EAN-13 Booklandシンボルを同等のISBN番号フォーマットに変換するには、下の**有効**バーコードを読み取ってください。初期設定は無効です。



E13ISB1.

有効



E13ISB0.

*無効

EAN/JAN-8

【EAN/JAN-8設定をすべて初期化】



EAN/JAN-8有効無効



EAN/JAN-8チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は有効です。



読み取ったすべてのEAN/JAN-8データの最後に2桁または5桁のアドオンを追加します。初期設定は2桁と5桁の両方のアドオン追加禁止です。



EAN/JAN-8アドオン要求

要求するバーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのあるEAN/JAN-8バーコードだけを読み取ります。初期設定は要求しません。



EAN/JAN-8アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースが入ります。無効にすると、スペースは入りません。初期設定は有効です。



MSI

【MSI設定をすべて初期化】



MSI有効/無効



MSIチェックキャラクタ

MSIバーコードにはいろいろな種類のチェックキャラクタが使用されています。タイプ10のチェックキャラクタのあるMSIバーコードを読み取るようにスキャナを設定できます。初期設定はタイプ10有効、送信なしです。

タイプ10/11有効、送信するに設定すると、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷されたMSIバーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

タイプ10/11有効、送信なしに設定した場合は、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷されたMSIバーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは読み取ったデータといっしょに送信しません。





MSICHK4

タイプ11、そしてタイプ10有効、送信なし



MSICHK5

MSIチェックキャラクタ無効



MSICHK6

タイプ11有効、タイプ10、送信あり

MSI読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は4~48、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は48です。



MSIMIN

最小読取桁数



MSIMAX

最大読取桁数

GS1 データバー標準型 (オムニディレクショナル)

【GS1データバー標準型設定をすべて初期化】



RSSDFT

GS1 データバー標準型 有効/無効



RSSENA1

*有効



RSSENA0

無効

GS1 データバー限定型 (リミテッド)

【GS1データバー限定型設定をすべて初期化】



RSLDFT

GS1 データバー限定型 有効/無効



RSENA1.

*有効



RSENA0.

無効

GS1 データバー拡張型 (エクспанデッド)

【GS1 データバー拡張型設定をすべて初期化】



RSEDFT.

GS1 データバー拡張型 有効/無効



RSEENA1.

*有効



RSEENA0.

無効

GS1 データバー拡張型 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は4~74、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は74です。



RSEMIN.

最小読取桁数



RSEMAX.

最大読取桁数

Trioptic コード

注意：Code32 Pharmaceuticalのバーコードを読み取るときは、Triopticコードを無効に設定してください。

Triopticコードとは磁気記憶媒体のラベリングに用いられるものです。



TRIENA1.

有効



TRIENA0.

*無効

CodablockA

【CodablockA設定をすべて初期化】



CodablockA 有効/無効



CodablockA 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~600、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は600です。



CodablockF

【CodablockF設定をすべて初期化】



CodablockF 有効/無効



CodablockF 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~2048、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は2048です。



ラベルコード

図書館で使用されている標準ラベルコードです。初期設定は無効です。



LBLENA1.

有効



LBLENA0.

*無効

PDF417

【PDF417設定をすべて初期化】



PDFDFT.

PDF417 有効/無効



PDFENA1.

*有効



PDFENA0.

無効

PDF417読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。最長と最短=1~2750、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は2750です。



PDFMIN.

最小読取桁数



PDFMAX.

最大読取桁数

MacroPDF417

MacroPDF417は、複数のPDF417コードに含まれている非常に大量のデータをエンコードできるよう改良されたPDF417コードです。この機能を有効にすると、複数のコードを集めて1つのデータストリングに仕立てます。初期設定は有効です。



PDFMAC1.

*有効



PDFMAC0.

無効

MicroPDF417

【MicroPDF417設定をすべて初期化】



MicroPDF417 **有効/無効**



有効



*無効

MicroPDF417 **読取桁数**

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。最長と最短=1~366、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は366です。



最小読取桁数



最大読取桁数

GS1コンポジットシンボル

リニアコードと固有の2D合成成分とが複合され、GS1コンポジットシンボルと呼ばれる新たなクラスを形成します。GS1コンポジットシンボルにより、すでに使用されているシンボルとの共存が可能になります。初期設定は無効です。



有効



*無効

UPC/EANバージョン

UPCまたはEANリニアバーコードを含むGS1コンポジットシンボルをデコードするときは、**UPC/EANバージョン有効**を読み取ります。(GS1-128、もしくはGS1バーコードを含むGS1コンポジットシンボルには影響しません。) 初期設定はUPC/EANバージョン無効です。



UPC/EANバージョン有効



*UPC/EANバージョン無効

注意：クーポンがUPCコードとGS1データバーコード両方を含んでいて、GS1データバーのバーコードデータのみを出力したい場合があるかもしれません。そういった場合は、クーポンGS1データバー出力を参照してください。

GS1コンポジットシンボル 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~2435、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値=2435です。



COMMIN

最小読取桁数



COMMAX

最大読取桁数

GS1エミュレーション

スキャナは任意のGS1データキャリアからの出力を自動的にフォーマットし、同等のGS1-128もしくはGS1データバーシンボルでデコードされる内容をエミュレートすることができます。GS1データキャリアにはUPC-A、UPC-E、EAN-13ならびにEAN-8、ITF-14、GS1-128ならびにGS1-128データバーとGS1コンポジットがあります。（GS1データに対応するアプリケーションは、データキャリアのタイプを1つ認識するだけでよいためすべて単純化できます。）

GS1-128エミュレーションを読み取ると、すべての小売コード（U.P.C.、UPC-E、EAN8、EAN13）が16桁に拡張されて出力されます。AIM IDが有効な場合、その値はGS1-128 AIM ID, Jc1となります。（[シンボルチャート](#)ページ参照）

GS1データバーエミュレーションを読み取ると、すべての小売コード（U.P.C.、UPC-E、EAN8、EAN13）が16桁に拡張されて出力されます。AIM IDが有効な場合、その値はGS1-DataBar AIM ID, Jemとなります。（[シンボルチャート](#)ページ参照）

GS1コードエミュレーション無効を読み取ると、小売コード拡張が無効となり、UPC-E拡張はUPC-E0の拡張設定によって制御されます。AIM IDが有効な場合、その値はGS1-128 AIM ID, Jc1となります。（[シンボルチャート](#)ページ参照）

EAN8からEAN13へ変換を読み取ると、すべてのEAN8バーコードはEAN13フォーマットに変換されます。

初期設定はGS1エミュレーション無効です。



EANEMU1

GS1-128エミュレーション



EANEMU2

GS1コード拡張無効



EANEMU3

GS1データバーエミュレーション



EANEMU4

EAN8からEAN13へ変換



EANEMU0

*GS1エミュレーション無効

TCIF Linked Code39 (TLC39)

このバーコードは、Code39のバーコード部分とMicroPDF417のスタックコード部分による複合コードになっています。どのバーコードスキャナにもCode39バーコードを読み取る能力がありますが、MicroPDF417の部分をデコードできるのは**TLC39有効**に設定したときだけです。MicroPDF417の成分をデコードできるのは、**TLC39有効**に設定したときだけです。リニア成分

は、TLC39が無効でもCode39としてデコードできます。初期設定は無効です。



QRコード

【QRコード設定をすべて初期化】



QRコード 有効/無効

この選択は、QRコードとMicroQRコードの両方に適用されます。



QRコード 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~7089、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は7089です。



QRコード連結機能

この機能では、複数のQRコードのデータをホストデバイスに送信する前に連結させることが可能です。連結開始のキャラクタを含んだQRコードを読み取ると、QRコードに含まれた情報に従って決められた数のQRコードをバッファに入れます。適切な数のQRコードを読み取ると、コード内の情報で定義された順番でデータが出力されます。初期設定は1回スキャンです。





QRCAPP3.

ポイントとシュート



QRCAPP0.

無効

QRコード コードページ

QRコードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



QRDCP.

QRコードコードページ

DOTコード

【DOTコード設定をすべて初期化】



DOTDFT.

DOTコード有効無効



DOTENA1.

有効



DOTENA0.

*無効

低品質DOTコード

この設定では、傷等が入って品質が悪くなっている、または綺麗に印刷されていないDotCodeの読み取りを向上させます。初期設定は低品質Dotコード無効です。



DOTEXS1.

低品質Dotコード有効



DOTEXS0.

*低品質Dotコード無効

DOTコード 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。最長と最短=1~2400、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は2400です。



DOTMIN.

最小読取桁数



DOTMAX.

最大読取桁数

Digimarc Barcode™

Digimarcのデコードを行う回数設定を行うには、以下のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から1~10の間で回数を読み取り、**保存**を読み取ります。初期設定は3です。



DIGSTR.

Digimarcデコーダー試行回数

Digimarcバーコード

この設定により、スキャナがDigimarcバーコードを読み取り、DigimarcとIDをデコード出来るようになります。Digimarcの設定が有効になっている時、Digimarcデコーダーは全てのフレームを、IDデコーダーは5つおきのフレームを読み取ります。

IDデコーダー使用後両方のデコーダーになっている時は、IDデコーダーは上記のDigimarcデコーダー試行回数で設定された回数の読み取りを行い、その後DigimarcとIDの両方のデコードを行います。**Digimarc使用後両方のデコーダー**が設定される時は、Digimarcデコーダーが上記のDigimarcデコーダー試行回数で設定された回数の読み取りを行い、その後DigimarcとIDの両方のデコードを行います。**IDデコーダー使用後代替デコーダー**が設定された時は、IDデコーダーがDigimarcデコーダー試行回数で設定された回数の読み取りを行い、その後IDデコーダーとDigimarcデコーダーを交互に行います。**Digimarcデコーダー使用後代替デコーダー**が設定された時は、DigimarcデコーダーがDigimarcデコーダー試行回数で設定された回数の読み取りを行い、その後IDデコーダーとDigimarcデコーダーを交互に行います。初期設定はDigimarc使用後両方のデコーダーです。



DIGENA0.

無効



DIGENA1.

有効



DIGENA2.

IDデコーダー使用後両方のデコーダー



DIGENA3.

*Digimarc使用後両方のデコーダー



DIGENA4.

IDデコーダー使用後代替デコーダー



DIGENA5.

Digimarcデコーダー使用後代替デコーダー

Data Matrix

【Data Matrix設定をすべて初期化】



Data Matrix 有効無効



ダイレクトパーツマーキングデコード

ダイレクトパーツマーキング（DPM）の読取りを向上させたい時は、以下のバーコードを読取ります。

Dotpeenコードの読み取りにはDotpeen DPMデコードを、エッチングされたコードの読取りには反射（エッチング）DPMデコードを読み取ります。初期設定はDPM無効です。



Data Matrix 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~3116、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は3116です。



Data Matrix コードページ

Data Matrixコードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



Maxiコード

【Maxiコード設定をすべて初期化】



Maxiコード 有効/無効



Maxiコード 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~150、最短の初期設定は1、最長の初期設定は150です。



Aztecコード

【Aztecコード設定をすべて初期化】



Aztecコード 有効/無効



Aztecコード 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~3832、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は3832です。



Aztec 連結機能

この機能では、複数のAztecコードのデータをホストデバイスに送信する前に連結させることが可能です。連結開始のキャラクタを含んだAztecコードを読み取ると、Aztecコードに含まれた情報に従って決められた数のAztecコードを一バッファに入れます。適切な数のAztecコードを読み取ったら、コード内の情報で定義された順番でデータが出力されます。初期設定は有効です。



Aztec コードページ

Aztecコードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



中国漢信 (Han Xin) コード

【漢信コード設定をすべて初期化】



漢信コード 有効無効



漢信コード 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~7833、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は7833です。



2次元郵便コード

以下は、読み込み可能な2次元郵便コードと認識可能な2次元郵便コードの組み合わせです。1つの2次元郵便コードしか有効にできません。2つ目の郵便コード設定を有効にすると、初めの設定は上書きされます。初期設定は2次元郵便コード無効です。



2次元郵便コード (単独)



2次元郵便コード（組み合わせ）



POSTAL8.

Infomailおよびイギリス郵便有効



POSTAL14.

PostnetおよびPostal-4i有効



POSTAL17.

Postal-4iおよびIntelligent Mailバーコード有効



POSTAL12.

PlanetコードおよびPostnetコード有効



POSTAL13.

PlanetコードおよびPostal-4i有効



POSTAL21.

Planetコード、PostnetおよびPostal-4i有効



POSTAL23.

Planetコード、Postal-4iおよびIntelligent Mailバーコード有効



POSTAL20.

Intelligent Mailバーコード、Postnet BおよびB'フィールド有効



POSTAL16.

PostnetおよびIntelligent Mailバーコード有効



POSTAL19.

Postal-4iおよびPostnet BおよびB'フィールド有効



POSTAL18.

Planetコード、Postnet BおよびB'フィールド有効



POSTAL15.

Planetコード、Intelligent Mailバーコード有効



POSTAL22.

Planetコード、PostnetおよびIntelligent Mailバーコード有効



POSTAL24.

Postnetコード、Postal-4iおよびIntelligent Mailバーコード有効



POSTAL25

Planetコード、Postal-4iおよびPostnet BおよびB'フィールド有効



POSTAL27

Postal-4i、Intelligent Mailコード、Postnet BおよびB'フィールド有効



POSTAL29

Planetコード、Postal-4iおよびIntelligent Mailコード、Postnet BおよびB'フィールド有効



POSTAL26

Planetコード、Intelligent Mailコード、Postnet BおよびB'フィールド有効



POSTAL28

PlanetコードPostal-4iおよびIntelligent Mailコード、Postnet有効

Planetコード チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は送信なしです。



PLNCKX1

チェックデジットを送信



PLNCKXD

*チェックデジットを送信なし

Postnet チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は送信なしです。



NETCKX1

チェックデジットを送信



NETCKXD

*チェックデジットを送信なし

オーストラリア郵便 判読

この機能では、オーストラリア郵便で使用されている4-Stateバーコードに含まれている顧客フィールドにどのような判読が適用されるかを制御します。

バー出力はバーコードのパターンを「0123」フォーマットで一覧にします。

数字NテーブルはNテーブルを使用して、フィールドを数字データとして判読します。

英数字CテーブルはCテーブルを使用して、フィールドを英数字データとして判読します。

オーストラリア〒の仕様表を参照してください。

CおよびNコンビネーションテーブルはCテーブルまたはNテーブルを使用して、フィールドを判読します。



AUSINT0.

*バー出力



AUSINT1.

数字 : Nテーブル



AUSINT2.

英数字 : Cテーブル



AUSINT3.

CおよびNテーブルコンビネーション

1次元郵便コード

1次元の郵便コードを以下に挙げます。任意の1次元郵便コードの組み合わせを同時に有効にすることが可能です。

中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5)

【中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 設定をすべて初期化】



CPCDFT.

中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 有効/無効



CPCENA1.

有効



CPCENA0.

*無効

中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数についてのページ](#)を参照してください。最小と最大は1~80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は80です。



CPCMIN.

最小読取桁数



CPCMAX.

最大読取桁数

韓国郵便

【韓国郵便コード設定をすべて初期化】



韓国郵便



有効



*無効

韓国郵便 読取桁数

読取桁数を変更するとは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数についてのページ](#)を参照してください。設定可能桁数は2~80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は48です。



最小読取桁数



最大読取桁数

韓国郵便 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は送信なしです。



チェックデジット送信



*チェックデジット送信なし

イメージングコマンド

スキャナは、デジタルカメラのように画像の取り込み、処理、および転送を行うことができます。以下のコマンドでスキャナの機能を実行する方法を変更することができます。

注意：スキャナをスタンドに置いている場合は、スタンド使用時センサーモードを無効にして画像を取り込んでください。[\(スタンド使用時のセンサーモードページ参照\)](#)

シングルユースペース

モディファイア付きのイメージングコマンドは、スキャナにシングルユースペースで命令を送信し、1回の画像取り込みが有効になります。この取り込みが完了すると、スキャナはイメージングの初期設定に戻ります。設定を永続的に変更する場合は、[シリアルデフォルトコマンド](#)を使用します。シリアルデフォルトコマンドを用いると、設定は新しいものになり、スキャナの永続的設定となります。

コマンドシンタックス

1つのシーケンス内で複数のモディファイアやコマンドを発行できます。同じコマンドに追加モディファイアを適用する場合は、そのモディファイアをコマンドに追加するだけです。例えば、イメージスナップコマンドにsetting the Imaging Style to 1PやWait for Trigger to 1Tのような2つのモディファイアを追加するには、IMGSNP1P1Tと入力します。

注意：画像取り込みコマンド (IMGSNPまたはMGBOX) を処理した後、その画像を端末で見るにはIMGSHPコマンドを実行する必要があります。

1つのシーケンスにコマンドを追加するには、各コマンドをセミコロンで区切ってください。例えば、上記のシーケンスにImage Shipコマンドを追加する場合は、IMGSNP1P1T;IMGSHPと入力します。

イメージングコマンドは以下のとおりです。

[イメージスナップ - IMGSNP](#)

[画像送信 - IMGSHP](#)

[署名の取り込み - IMGBOX](#)

それぞれのコマンドのモディファイアは、コマンド説明に従います。

注意：それぞれのコマンドの説明に含まれている画像は単なる例であり、使用した結果得られる効果はこのマニュアル内のものと異なることがあります。使用の結果得られる出力品質はライトや取り込む画像や対象の品質、画像や対象からの距離によって異なります。質の高い画像を得るためには、取り込む画像や対象からスキャナを10.2~15.2cm離してお使いになることをお勧めします。

Step 1. - IMGSNAP を用いて写真を撮影する

イメージスナップ - IMGSNP

トリガーボタンを引く度、あるいはイメージスナップ (IMGSNP) コマンドを実行する度に画像が取り込まれます。

イメージスナップコマンドには、メモリ内の画像の外観を変更できる多種多様なモディファイアがあります。IMGSNPコマンドには、任意の数のモディファイアを追加できます。例えば、次のコマンドを使用して、画像を撮影したりゲインを増やしたりでき、また画像を撮影した後、ブザー音を鳴らすことができます。IMGSNP2G1B

IMGSNPモディファイア

P - Imaging Style (撮影スタイル)

イメージスナップのスタイルを設定します。

0P Decoding Style : 露光パラメータが合うまで数フレームを撮影できます。最後のフレームを後で利用できます。

1P **Photo Style (初期設定)** : 簡単なデジタルカメラを真似ています。視覚的に最適化された画像が得られます。

2P **Manual Style** : 高度なスタイルで上級者向けです。スキャナを最も自由に設定できますが、自動撮影機能はありません。

B - Beeper (ブザー)

画像の撮影後、ブザー音を鳴らします。

0B ブザーは鳴りません。(初期設定)

1B 画像が取り込まれるとブザー音が鳴ります。

T - Wait for Trigger (トリガーの待機)

画像撮影の前に、ボタンが押されるのを待ちます。これはPhoto Style (1P) 使用時のみ有効です。

0T すぐに画像を撮影します(初期設定)。

1T ボタンが押されるのを待機し、画像を撮影します。

L - LEDState (LEDの状態)

LEDをオン/オフするかどうか、いつオン/オフするのかを決定します。IDカードなどカラー文書の写真を撮影する場合、特にスキャナをスタンドに置くときは、周囲照明(0L)をお勧めします。スキャナを手を持つ場合は、LED照明(1L)をお勧めします。LEDStateは、Decoding Style (0P) 使用時には利用できません。

0L LEDオフ(初期設定)

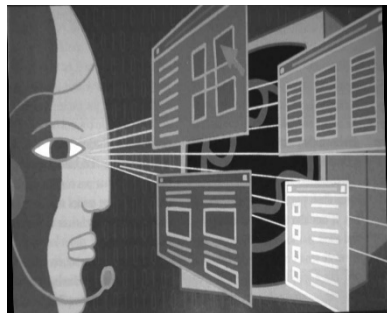
1L LEDオン

E - Exposure (露光)

露光は、マニュアル時(2P)のみ使用でき露光時間を設定します。これはカメラのシャッタースピードに似ています。露光時間はスキャナが画像を取り込む時間の長さを決定します。明るい日には、撮影のための光が十分なので露光時間も非常に短くてすみませんが、夜間は光がほとんどないため露光時間をかなり長くする必要があります。単位は127マイクロ秒です。初期設定値は7874です。

nE 範囲: 1~7874

蛍光灯下での7874Eの場合の露光例



蛍光灯下での100Eの場合の露光例



G - Gain (ゲイン)

ゲインはManual Style (2P) 時のみ使用できます。ボリュームコントロールのような役割を果たし、ゲインモディファイアが信号を増幅させ、ピクセル値を修正します。ゲインを増やすと、画像の乱れも増幅されます。

1G ゲインなし(初期設定)

2G ゲイン中

4G ゲイン高

1Gゲインの場合



4Gゲインの場合



8Gゲインの場合



W - Target White Value (ホワイト値)

取り込む画像のグレースケールの中心値のターゲットを設定します。コントラストの高い文書の接写画像を取り込むためには、75などの低めの値を推奨します。設定を高くすると撮影時間が長くなって画像が明るくなりますが、高すぎると画像が露出オーバーになります。Target White ValueはPhoto Style (1P) 時のみ使用できます。初期設定値は125です。

nE 範囲：0～255

75Wホワイト値の場合



125Wホワイト値の場合



200Wホワイト値の場合



D - Delta for Acceptance (ホワイト値許容範囲)

ホワイト値設定用の許容範囲を設定します。（「[W - Target White Value](#)」を参照。）Photo Style (1P) 時のみ使用できます。初期設定値は25です。

nD 範囲：0～255

U - Update Tries (アップデートトライ)

D - Delta for Acceptance (ホワイト値許容範囲) に達するためにスキャナが取得するフレームの最大数のことです。Photo Style (1P) 時のみ使用できます。初期設定値は6です。

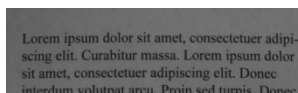
nU 範囲：0～10

% - Target Set Point Percentage (ターゲットセットポイント比率)

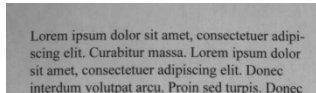
取り込んだ画像の明暗値のターゲットポイントを設定します。設定 75% は、ピクセルの 75% がターゲットのホワイト値以下で、ピクセルの 25% がターゲットのホワイト値を超えることを意味します。通常的环境下でこの設定を初期設定から変更することは、推奨していません。グレースケール値を変更するには、W - Target White Value (ホワイト値) を使用します。初期設定値は50です。

n% 範囲：1～99

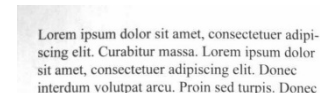
ターゲットセットポイント
97%の場合



ターゲットセットポイント
50%の場合



ターゲットセットポイント
40%の場合



Step 2 - IMGSHpを使った画像送信

画像送信 - IMGSHp

画像はトリガーを引くたび、あるいは画像送信 (IMGSHp) コマンドを実行することで取り込まれます。最後の画像がつねにメモリに保存されます。IMGSHpコマンドでその画像を「送信」できます。

画像送信コマンドには、スキャナが出力する画像の設定を変更するのに使用できる多種多様なモディファイアがあります。モディファイアは、送信する画像には影響しますが、メモリの画像には影響しません。IMGSHPコマンドには、任意の数のモディファイアを追加できます。

例えば、以下のコマンドを使用すると、ガンマ補正と文書画像フィルタリングを行ってビットマップ画像を送ることができます。IMGSNP;IMGSHP8F75K26U

IMGSHPモディファイア

A - Infinity Filter (無限遠フィルタ)

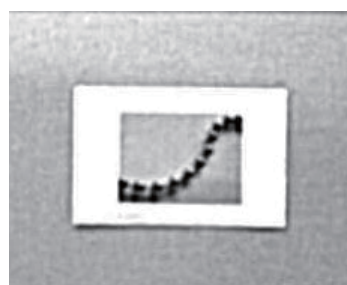
非常に長距離（10フィートまたは3m以上）から撮影した写真の質を向上します。ただし、Infinity Filterを[IMGSNPモディファイア](#)とともに用いることはできません。

- 0A 無限遠フィルタ無効（初期設定）
- 1A 無限遠フィルタ有効

3.66mの距離付近での
無限遠フィルタ無効 (0A)



3.66mの距離付近での
無限遠フィルタ有効 (1A)



C - Compensation (圧縮)

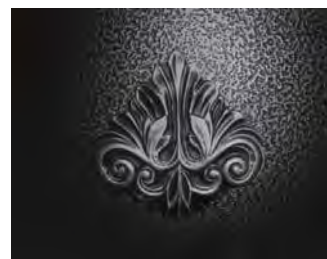
画像全体の照度の変化を考慮するために画像をフラットにします。

- 0C 圧縮無効（初期設定）
- 1C 圧縮有効

圧縮が無効 (0C) の場合



圧縮が有効 (1C) の場合



D - Pixel Depth (ピクセル濃度)

送信画像のピクセルあたりのビット数を示します。（KIMまたはBMPフォーマットのみ）

- 8D ピクセルあたり8ビット、グレースケール画像（初期設定）
- 1D ピクセルあたり1ビット、白黒画像

E - Edge Sharpen (エッジシャープニング)

エッジシャープニングフィルタで画像の縁をクリーンにし、画像を更に美しくシャープにします。エッジシャープニングは画像を鮮明にしますが、元々の画像のきれいに撮影された詳細部も取り除いてしまいます。エッジシャープニングフィルタの強度は1～24で設定できます。23Eを入力するとエッジが最もシャープになりますが、画像内のノイズも増えます。

- 0E 画像をシャープにしません（初期設定）
- 14E 標準画像用にエッジをシャープにします
- ne nの値でエッジをシャープにします（n=1~24）

0Eでのエッジシャープニング



24Eでのエッジシャープニング



F – File Format（ファイルフォーマット）

希望する画像のフォーマットを示します。

- 0F KIMフォーマット
- 1F TIFFバイナリ
- 2F バイナリグループ4、圧縮
- 3F TIFFグレースケール
- 4F 非圧縮バイナリ（左上から右下、1ピクセル/ビット、行の最後を0で埋める）
- 5F 非圧縮グレースケール（左上から右下、ビットマップフォーマット）
- 6F JPEG画像（初期設定）
- 8F BMPフォーマット（右下から左上、非圧縮）
- 10F TIFFカラー圧縮画像
- 11F TIFFカラー無圧縮画像
- 12F JPEGカラー画像
- 14F BMPカラーフォーマット
- 15F BMP無圧縮 未加工画像

H - Histogram Stretch（ヒストグラムストレッチ）

送信画像のコントラストを高くします。画像フォーマットによっては利用できません。

- 0H ヒストグラムストレッチなし（初期設定）
- 1H ヒストグラムストレッチあり

ヒストグラムストレッチ（0H）



ヒストグラムストレッチ（1H）



I - Invert Image (画像反転)

画像を X 軸または Y 軸周りで回転させるのに使用します。

- 1ix X軸で画像を回転 (画像の上下が反転)
- 1iy Y軸で画像を回転 (画像の左右が反転)

回転なし



回転 (1ix) の場合



回転 (1iy) の場合



IF- Noise Reduction (ノイズ低減)

白黒ノイズを低減します。

- 0if 白黒ノイズの低減なし (初期設定)
- 1if 白黒ノイズの低減あり

白黒ノイズ低減なし (0if)



白黒ノイズ低減あり (1if)



IR - Image Rotate (画像回転)

- 0ir 撮影したとおり (正しい向き) の画像 (初期設定)
- 1ir 画像を右に90度回転
- 2ir 画像を180度回転 (上下逆)
- 3ir 画像を左に90度回転

画像の回転なし (0ir)



画像の回転あり (2ir)





J - JPEG Image Quality (JPEG画像品質)

JPEG画像フォーマットを選択した場合に必要な画質を設定します。数字を大きくすると画質が高くなりますが、ファイルは大きくなります。小さくすると、圧縮量が大きくなって転送速度が速くなり、画質は落ちますが、ファイルは小さくなります。初期設定は50です。

nJ 画質係数n (n: 1~100) の値で可能な限り画像を圧縮します。

0J 最低画質 (最小ファイル)

100J 最高画質 (最大ファイル)

K - Gamma Correction (ガンマ補正)

ガンマは、画像が生成する中間トーン値の明るさを決定します。ガンマ補正を使用すると、画像を明るくしたり暗くしたりできます。ガンマ補正を大きくすると、全体的に明るい画像が得られます。設定を低くすると、それだけ画像が暗くなります。テキスト画像に最も適した設定は50Kです。

0K ガンマ補正無効 (初期設定)

50K 標準の文書画像を明るくするためにガンマ補正を適用

nK ガンマ補正の係数n (n=0~1,000) を適用

ガンマ補正 (0K) の場合



ガンマ補正 (50K) の場合



ガンマ補正 (255K) の場合



L, R, T, B, M - Image Cropping (画像切り取り)

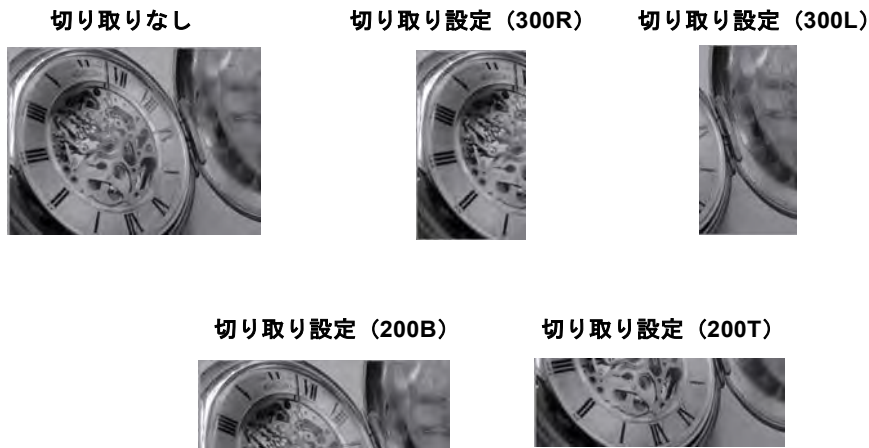
上下左右のピクセル座標を指定して画像のウィンドウを送ります。機器の列には0~1279の番号が、行には0~959の番号が付けられています。

nL 送信画像の左端は、メモリ内の画像のn列に対応します。範囲: 000~843 (初期設定: 0)

nR 送信画像の右端は、メモリ内の画像のn-1列に対応します。範囲: 000~843 (初期設定はすべての列)

nT 送信画像の上端は、メモリ内の画像のn行に対応します。範囲: 000~639 (初期設定: 0)

nB 送信画像の下端は、メモリ内の画像のn-1行に対応します。範囲: 000~639 (初期設定はすべての行)



代わりに、画像の外側マージンから切り取るピクセルの数を指定します。中央のピクセルだけが送信されます。

nM マージン：画像の左からn列、右からn+1列、上からn行、下からn+1行を切り取ります。残った中央のピクセルを送ります。範囲：0～238

(初期設定は0、またはすべての画像)

切り取り設定 (238M)



P - Protocol (プロトコル)

画像の送信に使用します。プロトコルは画像をホストに送る際、2つの機能に対応しており、データの送信に使用するプロトコル (Hmodem：追加のヘッダー情報を持つXmodem 1Kのバリエーション) と、送信される画像のフォーマットに対応します。

- 0P プロトコルなし (生データ)
- 2P プロトコルなし (USBの初期設定)
- 3P Hmodem圧縮 (RS-232の初期設定)
- 4P Hmodem

S - Pixel Ship (ピクセル送信)

ピクセル送信はオリジナルサイズに対する比率に拡大縮小します。スペースで規則的に区切られた一定のピクセルだけを送ることで画像を間引くのに使用できます。例えば、4Sでは4行おきに4ピクセルごとに送信します。送るピクセルを減らすと、画像が小さくなりますが、画像がある数値まで達すると、使用できなくなります。

- 1S すべてのピクセル送信 (初期設定)
- 2S 縦横両方で、2ピクセルごとに送信
- 3S 縦横両方で、3ピクセルごとに送信

ピクセルの送信が3Sの場合



ピクセル送信が1Sの場合



ピクセルの送信が2Sの場合



U - Document Image Filter (テキスト画像フィルタ)

送信されたテキスト画像の縁をシャープにし、それ以外の部分を滑らかにします。このフィルタは、[ガンマ補正](#)と共に使用します。このとき、スキャナはスタンドに置いた状態で、次のコマンドを使用して画像を取り込みます。

IMG5NP1P0L168W90%32D

このフィルタは通常、標準の[E-エッジシャープニング](#)コマンドよりも優れたJPEG圧縮を提供します。このフィルタは、純粋な白黒のみの画像（ピクセルあたり1ビット）を送信するときにも良好に機能します。最適な設定は26Uです。

0U 文書画像フィルタ無効（初期設定）

26U 文書画像フィルタを標準的な文書画像に適用

nU グレースケールのしきい値nを使用して、テキスト画像フィルタを適用します。画像コントラストが低いときに数値を下げます。1Uは[E-エッジシャープニング](#)を22elに設定するのと同等の効果があります。範囲：0-255。

画像フィルタが0Uの場合



画像フィルタが26Uの場合



V - Blur Image（画像ぼかし）

画像内の定義された線と網掛け領域のハードエッジの横にあるピクセルを平均化することにより、遷移を滑らかにします。

0V ぼかさない（初期設定）

1V ぼかす

画像のぼかし無効（0V）



画像のぼかし有効（1V）



W - Histogram Ship（ヒストグラム送信）

ヒストグラムによって、画像の色調範囲すなわちキーのタイプをすばやく識別することができます。ローキー画像はシャドウに、ハイキー画像はハイライトに、標準的な（アベレージキー）画像は中間調にディテールが集中します。このモディファイアは画像用のヒストグラムを送信します。

0W ヒストグラムを送信しない（初期設定）

1W ヒストグラムを送信する

ヒストグラムを使用しない



ヒストグラムが左にある場合



画像サイズの互換性

画像送信が正確に640x480ピクセルを返すようにアプリケーションを設定している場合、VGA解像度の強制バーコードを読み取

ります。初期設定は元の解像度です。



署名の取り込み - IMGBOX

IMGBOXを用いれば、バーコードに近接している署名取り込みエリアのサイズや位置を修正することができます。これにより、署名取り込みエリアを特定のフォームに合わせることができます。IMGBOXを使うためには、署名ボックスがバーコードに近い既知の位置にあるようフォームを設定する必要があります。署名エリアがバーコードから水平および垂直方向にどの程度の距離離れているかを指定できるだけでなく、全体的なサイズを入力できます。また、取り込んだ署名画像の最終出力の解像度とファイル形式も設定できます。

注意：IMGBOXコマンドは、次のいずれかのバーコードによって使用することができます。PDF417、Code39、Code128、Aztec、Codabar、Interleaved 2 of 5 (ITF)。これらのシンボルが読み取られると、IMGBOXコマンドを受け付けるために画像が維持されます。

署名取り込みの最適化

署名取り込みを頻繁に使う場合は、最適化をしてください。ただし、このモードを有効にするとバーコード読み取り速度は遅くなる場合がありますのでご注意ください。初期設定は無効です。



署名取り込みアプリケーションの例を以下に示します。この例では、エイマーを署名取り込みエリアの中心に置き、トリガーを引きます。一度ブザーが鳴り、スキャナがCode128バーコードを読み取り、データがホストシステムへと転送されたことを知らせます。Granitスキャナの場合は振動します。ホストからそのコードの下の署名取り込みエリアの座標を特定するためにIMGBOXコマンドが送られ、その署名を含むエリアのみ画像としてホストに送るよう示します。

この例を試す方法：エイマーを（バーコードではなく）署名エリアにそろえて、トリガーを引きます。



トリガーを引いた後に、以下のIMGBOXコマンドストリングを送信します。

例：IMGBOX245w37h55y

注意：コマンドストリングにおいて大文字小文字は重要ではありません。ここでは説明の為に大文字小文字を用いています。

すると、以下のような画像が得られます。



IMGBOXコマンドには、スキャナから出力される署名画像のサイズや表示を変えることができる多種多様なモディファイアが用

意されています。モディファイアは、送信画像には影響がありますが、メモリ内の画像には影響がありません。IMGBOXコマンドには、任意の数のモディファイアを追加できます。

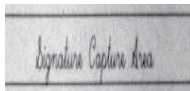
注意：IMGBOXコマンドはウィンドウサイズ（高さと幅）が指定されない限り、NAKを返します。

IMGBOXモディファイア

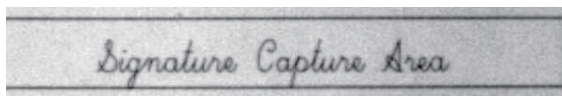
A - Output Image Width（出力画像の幅）

この設定は画像の幅を変えるのに使用します。この設定を使用した場合、解像度（R）は0に設定されます。

幅を200Aに設定した場合



幅を600Aに設定した場合



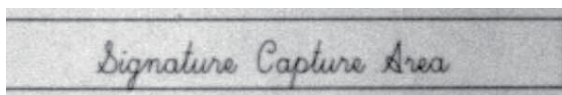
B - Output Image Height（出力画像の高さ）

この設定は画像の高さを変えるのに使用します。この設定を使用した場合、解像度（R）は0に設定されます。

高さを50Bに設定した場合



高さを100Bに設定した場合



D - Pixel Depth（ピクセル濃度）

送信画像のピクセルあたりのビット数を示し、グレースケールか白黒かを設定します。

8D ピクセルあたり8ビット、グレースケール画像

1D ピクセルあたり1ビット、白黒画像

F - File Format（ファイルフォーマット）

画像を保存するファイル形式を示します。

0F KIMフォーマット

1F TIFFバイナリ

2F バイナリグループ4、圧縮

3F TIFFグレースケール

4F 非圧縮バイナリ

5F 非圧縮グレースケール

6F JPEG画像（初期設定）

7F 輪郭画像

8F BMPフォーマット

H - Height of Signature Capture Area (署名取り込みエリアの高さ)

取り込む領域の高さは0.01インチ(約0.026cm)ごとに測られます。例では、取り込みエリアの高さは3/8インチ(約0.953cm)で、Hの値= $.375/0.01=37.5$ となります。

列: *IMGB0X245w37h5y*

K - Gamma Correction (ガンマ補正)

ガンマは、画像が生成する中間トーン値の明るさを決定します。ガンマ補正を使用すると、画像を明るくしたり暗くしたりできます。ガンマ補正を大きくすると、全体的に明るい画像が得られます。設定を低くすると、それだけ画像が暗くなります。テキスト画像に最も適した設定は50Kです。

0K ガンマ補正無効(初期設定)

50K 標準の文書画像を明るくするためにガンマ補正を適用

nK ガンマ補正の係数n (n=1~255) を適用

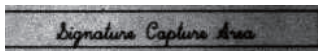
ガンマ補正(0K)の場合



ガンマ補正50Kの場合



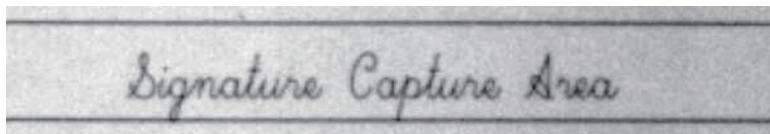
ガンマ補正255Kの場合



R - Resolution of Signature Capture Area (署名取り込みエリアの解像度)

解像度は最小単位ごとにスキャナが出力するピクセル数です。Rの値を大きくすると画質が良くなりますが、ファイルサイズも大きくなります。値は1000から始まります。スキャナは自動的に、最初の桁と次の桁の間に小数点を挿入します。例えば、2.5の解像度を指定するには2500を使用します。AおよびBのモディファイアを使用するときは、0に設定します。[A-Output Image Width \(出力画像の幅\)](#)と[B-Output Image Height \(出力画像の高さ\)](#) ページを参照してください。

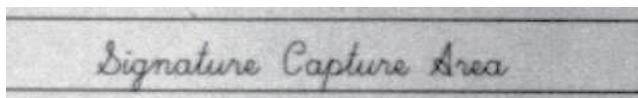
解像度設定0R



解像度設定1000R



解像度設定2000R



S - Bar Code Aspect Ratio (バーコードアスペクト比)

IMGBOXに用いられる寸法はバーコードの最小エレメントサイズの倍数で測定されます。バーコードアスペクト比を使用すると、バーコードの高さとナローエレメントの幅を設定することができます。例では、ナローエレメントの幅は0.010インチ、バーコードの高さは0.400インチなので、Sの値= $0.4/0.01=40$ となります。

W - Width of Signature Capture Area (署名取り込みエリアの幅)

署名取り込みエリアの幅は0.01インチ（約 0.026cm）ごとに測定されます。例えば、取り込むエリアの幅が2.4インチ（約 6.096cm）の場合、W値=2.4/0.01=240となります。（ここでは画像エリアを少し大きめに調節するため、245を用います。）

列： `IMGB0x245w37h55y`

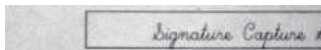
X - Horizontal Bar Code Offset (水平バーコードオフセット)

署名取り込みエリアの中心を水平方向にずらします。プラス数値は水平中心を右へ移動させ、マイナス数値は左へ移動させます。数値はバーの最小幅の倍数を用います。

水平バーコードオフセットを75Xに設



水平バーコードオフセットを-75Xに設定



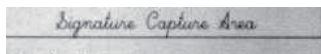
Y - Vertical Bar Code Offset (縦バーコードオフセット)

署名取り込みエリアの中心を垂直方向にずらします。マイナス値は、署名取り込みがバーコードの上であることを示し、プラスの場合はバーコードの下であることを示します。数値はバーの最小幅の倍数を用います。

縦バーコードオフセット設定：-7Yの場



縦バーコードオフセット設定：65Yの場



RF初期設定イメージングデバイス

このスキャナはイメージングコマンドプロセス（IMGSHP、IMGSNP、IMGBOX）に対応しており、スキャン用EZConfigやその他のアプリケーションはスキャナと直接接続されているかのように画像機能を実行することができます。これを行うためには、RF_DID（RF初期設定イメージングデバイス）と呼ばれるメニューコマンドを使用します。RF_DIDとは、イメージングコマンドを受け取るスキャナ（BT_NAM）の名称です。RF_DIDの初期設定は「*」で、イメージングコマンドがすべての関連するスキャナに送信されることを示します。特定のスキャナに送るようにはRF_DIDscanner_nameに変更してください。各スキャナのポート、ワークグループ、スキャナ名とアドレスのレポートを作成するには[ページング（スキャナの呼び出し）](#)の「ページング」の項目を参照してください。また、各スキャナに固有のネームをつける場合は、[スキャナ名](#)の「スキャナ名」の項目を参照してください。

インターフェースキー

キーボードファンクションの関係

以下のキーボードファンクションコード、16進数/ASCII値、およびフルASCIIの「CTRL」+の関係は、スキナで使用可能なすべての端末に適用します。

ファンクションコード	16進数/ASCII値	フルASCII (CTRL + Xモード)
NUL	00	@
SOH	01	A
STX	02	B
ETX	03	C
EOT	04	D
ENQ	05	E
ACK	06	F
BEL	07	G
BS	08	H
HT	09	I
LF	0A	J
VT	0B	K
FF	0C	L
CR	0D	M
SO	0E	N
SI	0F	O
DLE	10	P
DC1	11	Q
DC2	12	R
DC3	13	S
DC4	14	T
NAK	15	U
SYN	16	V
ETB	17	W
CAN	18	X
EM	19	Y
SUB	1A	Z
ESC	1B	[
FS	1C	\
GS	1D]
RS	1E	^
US	1F	-

「フルASCII「CTRL」+」の列にある最後の5つの文字（[\]6-）は、アメリカのみに適用されます。次の表は、国ごとにこれらの5つのキャラクタに相当するキャラクタを示します。

国	コード				
アメリカ	[\]	6	-
ベルギー	[<]	6	-
スカンジナビア	8	<	9	6	-
フランス	^	8	\$	6	=
ドイツ		Ã	+	6	-
イタリア		\	+	6	-
スイス		<	..	6	-
イギリス	[ø]	6	-
デンマーク	8	\	9	6	-
ノルウェー	8	\	9	6	-
スペイン	[\]	6	-

サポートされているインターフェースキー

ASCII	16進数	IBM PC/ATおよび 互換機、USB PCキーボード	Apple Mac/iMac サポートキー
NUL	00	Reserved	Reserved
SOH	01	Enter (KP)	Enter/Numpad Enter
STX	02	Cap Lock	CAPS
ETX	03	ALT make	ALT make
EOT	04	ALT break	ALT break
ENQ	05	CTRL make	CNTRL make
ACK	06	CTRL break	CNTRL break
BEL	07	CR/Enter	RETURN
BS	08	Reserved	APPLE make
HT	09	Tab	TAB
LF	0A	Reserved	APPLE break
VT	0B	Tab	TAB
FF	0C	Delete	Del
CR	0D	CR/Enter	RETURN
SO	0E	Insert	Ins Help
SI	0F	Escape	ESC
DLE	10	F11	F11
DC1	11	Home	Home
DC2	12	Print	Prnt Scrn
DC3	13	Back Space	BACKSPACE
DC4	14	Back Tab	LSHIFT TAB
NAK	15	F12	F12
SYN	16	F1	F1
ETB	17	F2	F2
CAN	18	F3	F3
EM	19	F4	F4
SUB	1A	F5	F5
ESC	1B	F6	F6
FS	1C	F7	F7
GS	1D	F8	F8
RS	1E	F9	F9
US	1F	F10	F10
DEL	7F		BACKSPACE

ユーティリティ

全シンボル体系のテストコードIDプレフィックス追加

これを選択すると、デコードされたシンボルの前にコードIDを送信することができます。（各シンボルを識別する単独のシンボルキャラクタコードについては、[シンボルチャート](#)ページに記載されたシンボルチャートを参照してください。）ここでは、まず現在のプレフィックスをすべて消去し、その後すべてのシンボルについてコードIDプレフィックスを設定します。これは、電源を入れなおすと削除される一時設定です。



ソフトウェアリビジョン表示

次のバーコードを読み取るとソフトウェアのリビジョン、機器のシリアルナンバー、及びスキャナとベースに関する情報を出力します。



テストメニュー

テストメニューの有効バーコードを読み取り、次に本書のプログラミングコードを読み取ると、スキャナはプログラミングコードの内容を表示します。プログラミングファンクションはまだ存在しますが、さらにそのプログラミングコードの内容も端末に出力されます。

注意：この機能は、通常の操作では使用しないでください。



TotalFreedom（トータルフリーダム）

TotalFreedom（トータルフリーダム）とは、スキャナにプラグインアプリケーションを作成することができるオープンシステムアーキテクチャです。このトータルフリーダムでデコードアプリケーションとデータフォーマットアプリケーションの作成が可能です。トータルフリーダムについての詳細は、ウェブサイトwww.honeywellaidc.comを参照してください。

プラグインアプリケーション

以下のバーコードを読み取ることで、プラグインアプリケーションをオン/オフすることができます。アプリケーションはデコードとフォーマットというグループごとに保存されています。以下のグループのオン/オフバーコードを読み取り、アプリケーションを立ち上げたり、閉じたりすることができます。アプリー覽バーコードを読み取ると、すべてのアプリケーションのリストを出力します。



PLGDCE1.

デコードアプリアオン



PLGDCE0.

デコードアプリアオフ



PLGFOE1.

フォーマットアプリアオン



PLGFOE0.

フォーマットアプリアオフ



PLGINF.

アプリ一覧

注意：アプリケーションを有効にするためには、デバイスを再起動しなければなりません。

EZConfigについて

EZConfigはPCのCOMポートにスキャナを接続することにより、多様なPCベースのプログラミング機能を提供することができます。EZConfigを用いると、スキャナのアップグレードの為にファームウェアをダウンロードしたり、設定済みのパラメータを変更したり、プログラミングバーコードを作成して印刷することができます。さらに、スキャナのプログラミングパラメータを保存したり開いたりすることもできます。この保存ファイルは電子メールで送信でき、必要であれば、カスタマイズされたプログラミングパラメータをすべて含む単一のバーコードを作成し、どこへでもメールやファックスで送信することもできます。他の場所にいるユーザーは、そのバーコードを読み取り、カスタマイズされたプログラミングに組み込むことができます。

スキャナとの通信のため、EZConfigではコンピュータに少なくとも1つの空きシリアル通信ポートか、または物理的なUSBポートを使用したシリアルポートのエミュレーションが必要です。シリアルポートとRS232ケーブルを使用している場合は、外部電源が必要です。USBシリアルポートのエミュレーションを使用しているときには、USBケーブルのみが必要です。

EZConfigの操作

EZConfigソフトウェアでは、以下の操作を実行します。

Scan Data（データ読み取り）

バーコードを読み取って、ウィンドウにバーコードデータを表示することができます。また、シリアルコマンドをスキャナに送信したり、スキャナからの応答を受信したりでき、スキャンデータウィンドウでこれらを確認することができます。スキャンデータウィンドウに表示されるデータは、ファイルに保存することもできれば、印刷することもできます。

Configure（環境設定）

環境設定は、スキャナのプログラミングと環境設定データを表示します。スキャナのプログラミングと環境設定データは、異なるカテゴリに分類されます。各カテゴリは、アプリケーションエクスプローラの「Configure」ツリーノードの下にツリーアイテムとして表示されます。これらのツリーノードの1つをクリックすると、その特定のカテゴリに所属するパラメータのフォーラムが右側に表示されます。「Configure」ツリーオプションには、スキャナ用に指定したプログラミングと環境設定パラメータのすべてが含まれています。これらのパラメータは、必要に応じて設定または変更できます。変更した設定値を後でスキャナに書き込んだり、dcfファイルに保存したりできます。

Imaging（画像取り込み）

ここでは、2次元イメージャーが持つ、画像関連機能すべてを調節することができます。現在の設定を利用して画像を取り込むことができます。画像はイメージウィンドウに表示されます。スキャナが撮影した画像は、様々な画像形式で保存することが可能です。画像設定を変更してINIファイルに保存することができます。また、後でこの設定を読み込んで新しい画像を取り込むことができます。また、スキャナによって画像を連続して見る事もできます。

ウェブサイトからのEZConfigのインストール

注意：EZConfigには.NETソフトウェアが必要です。お使いのPCに.NETがインストールされていない場合、EZConfigのインストール時に.NETのインストールを促すメッセージが表示されます。

1. www.honeywellaidc.comからハネウェルのウェブサイトへアクセスします。
2. ResourcesタブをクリックしSoftwareを選択します。
3. ドロップダウンメニューからSelect Product Number（型番を選択）をクリックし、製品番号を選択します。
4. EZConfig-Scanningリストをクリックします。
5. 指示が出ましたら**Save File**を選択し、ファイルをc:\windows\tempディレクトリに保存します。
6. ファイルのダウンロードが終了したらウェブサイトを閉じます。
7. エクスプローラを使用し、c:\windows\tempのファイルに進みます。
8. **setup.exe**ファイルをダブルクリックします。画面の指示に従ってEZConfigプログラムをインストールします。
9. インストール時にデフォルトを選択した場合は、スタート画面からすべてのプログラム、Honeywell-EZConfig-Scanningをクリックしてください。

初期設定の再設定



注意：本章ではすべての設定を消去し、スキャナを工場出荷時にリセットを行います。またすべてのプラグインを無効にします。

スキャナにどのプログラムオプションが有効かわからない場合、またはいくつかのオプションを変更し、工場出荷時の設定に復元したい場合、**カスタムデフォルトの削除**バーコードをスキャンし、次に**デフォルトの有効化**をスキャンしてください。これでスキャナは工場出荷時の設定にリセットされます。



注意：コードレスシステムを使用している場合、**デフォルトの有効化**バーコードをスキャンすることでスキャナとベースの両方、またはアクセスポイントにリセットを実行し、リンクが解除されます。設定コードを入力する前に、リンクを再確立するためにスキャナをベースに置いてください。アクセスポイントを使用している場合、リンクバーコード読み取ってください。詳細は[コードレスシステムの操作](#)ページを参照してください。

メニューコマンドページでは、各コマンドの工場出荷時の初期設定を示しています（プログラミングページではアスタリスク（*）で表示）。

シリアルプログラミングコマンド

シリアルプログラミングコマンドをプログラミングバーコードの代わりに使用できます。シリアルコマンドとプログラミングバーコードの両方がスキャナをプログラム設定します。各シリアルプログラミングコマンドの詳細と例については、本書の対応するプログラミングバーコードを参照してください。

機器は、RS232インターフェース用に設定する必要があります。以下のコマンドは、端末エミュレーションソフトウェアを用いてPC COMポート経由で送信できます。

記述上の語句

メニューとクエリコマンドの記述には、以下の取り決めが用いられています。

Parameter コマンドの一部として送信する実際の値

[option] コマンドのオプション部分

{Data} コマンド内の選択股

Bold 画面に表示されるメニュー、メニューコマンド、ボタン、ダイアログボックス、およびウィンドウの名前

メニューコマンドシンタックス (構文)

メニューコマンドのシンタックスは以下のとおりです。(スペースを用いているのは、単にわかりやすくするためです。)

Prefix [*:Name:*]Tag SubTag {Data} [, SubTag {Data}] [*:* Tag SubTag {Data}] [...] Storage

Prefix 3つのASCIIキャラクタ：**SYN M CR** (ASCII 22,77,13)

:Name: このコマンドはコードレスデバイスでのみ使用します。ベースまたはスキャナと通信するかどうかを特定するために使用します。スキャナ(ホストに連結したベースと共に)に情報を送信するために、*:Xenon:*を使用します。工場出荷時のXenonスキャナの初期設定はXenonスキャナです。この設定は英数字を許可するBT_NAMコマンドを使用して設定します。名前がわからない場合は、ワイルドカード「*」を*:*:*の形で使用できます。

注意 :ベースはすべてのワークグループの設定を保存し、接続されるとすぐにスキャナに転送します。変更はベースに対してのみ行われ、スキャナには行われません。

Tag メニューコマンドグループを識別する大文字小文字の区別しない3キャラクタのフィールド。例えば、すべてのRS232の環境設定は、232というTagで識別されます。

SubTag タググループの中のメニューコマンドグループを識別する大文字・小文字の区別しない3キャラクタのフィールド。例えば、RS232ボーレートのSubTagはBADになります。

Data メニュー設定の新しい値。TagとSubTagで識別されます。

Storage コマンドを適用するストレージテーブルを指定する1つのキャラクタ。感嘆符(!)は、機器の揮発性メモリ上でコマンド操作を実行します。ピリオド(.)の場合は、機器の不揮発性メモリ上でコマンド操作を実行します。不揮発性テーブルは、電源サイクル時に保存したい半永続的な変更の場合だけに使用します。

クエリコマンド

いくつかの特殊キャラクタを使用して、デバイスの設定を確認できます。

^ 設定の初期値

> PAPサブコマンド

注意 :>を使用すると、他のすべてのコマンドはNAKを返します。

? 機器の現在の設定値

* 設定で可能な範囲(機器のレスポンスでは、ダッシュ(-)で値の連続範囲を示し、パイプ(|)で非連続値の一覧の項目

を区切ります。

:Name: フィールドの使い方 (オプション)

このコマンドを用いると、スキナからのクエリ情報を返します。

Tag フィールドの使い方

Tagフィールドに代わってクエリを使用すると、コマンドのStorageフィールドで示された特定のストレージテーブルで使用可能なコマンドのセット全体に質問します。この場合、機器には無視されるのでSubTagおよびDataフィールドは使用しないでください。

SubTag フィールドの使い方

SubTagフィールドに代わってクエリを使用すると、クエリはTagフィールドに一致する使用可能なコマンドのサブセットにのみ適用されますこの場合、Dataフィールドは機器によって無視されるので、使用しないでください。

Data フィールドの使い方

Dataフィールドに代わってクエリを使用すると、クエリはTagおよびSubTagフィールドで識別される特定コマンドだけに適用されます。

複数コマンドの連結機能

複数のコマンドを1つのPrefix/Storageシーケンス内で使用できます。シーケンス内のコマンドごとに繰り返す必要があるのは、Tag、SubTag、およびDataフィールドだけです。同じTagでコマンドを追加する場合は、新しいコマンドシーケンスをコマンド (;) で区切り、追加コマンドのSubTagおよびDataフィールドだけを記述します。追加コマンドで異なるTagフィールドが必要な場合は、そのコマンドをセミコロン (;) で前のコマンドと区切ります。

レスポンス

機器は、次の3つのレスポンスのいずれか1つでシリアルコマンドに応答します。

ACK 処理された適切なコマンドを示します。

ENQ 無効なTagまたはSubTagコマンドを示します。

NAK コマンドは正しいが、Dataフィールドの入力がこのTagおよびSubTagの組み合わせの許容範囲外。例えば、フィールドが2キャラクタしか受け付けなときに最小読取桁数の入力が100になっている場合。

応答するとき、機器はコマンドの各句読点（ピリオド、感嘆符、コンマ、またはセミコロン）の直前にステータスキャラクタを挿入したコマンドシーケンスを返します。

クエリコマンドの例

以下の例では、角カッコ[]は非表示レスポンスを示します。

例： Codabar Coding Enable で可能な値の範囲は？

入力： **cbrena***.

レスポンス： **CBRENA0-1[ACK]**

Codabar Coding Enable (CBRENA) の値の範囲が0~1 (オフとオン) であることを示します。

例： Codabar Coding Enable の初期設定値は？

入力： **cbrena^**.

レスポンス： **CBRENA1[ACK]**

Codabar Coding Enable (CBRENA) の初期設定値が1またはオンであることを示します。

例： CodabarCodingEnableの現在の設定値は？

入力： cbrena?.

レスポンス： CBRENA1[ACK]

機器のCodabar Coding Enable (CBRENA) が1またはオンであることを示します。

例： すべてのCodabar選択項目に対する機器の設定は？

入力： cbr?.

レスポンス： CBRENA1[ACK],

SSX0[ACK],

CK20[ACK],

CCT1[ACK],

MIN2[ACK],

MAX60[ACK],

DFT[ACK].

このレスポンスは、機器のCodabar Coding Enable (CBRENA) が1またはオンに設定されていることを示しています。スタート/ストップキャラクタ (SSX) は0または送信しないに設定され、チェックキャラクタ (CK2) は0または必要なしに設定され、連結機能 (CCT) は1または有効に設定され、最小読取桁数 (MIN) は2キャラクタに設定され、最大読取桁数 (MAX) は60キャラクタに設定され、またデフォルト設定 (DFT) には値が無いことを示しています。

トリガーコマンド

シリアルトリガーコマンドでスキャナを起動または停止できます。まず、[マニュアルトリガーモード](#)のバーコードを読み取りマニュアルトリガーモードにするか、[シリアルメニューコマンド](#)を送ります。スキャナがいったんシリアルトリガーモードになると、以下のコマンドを送ってトリガーをアクティブ/非アクティブにできます。

起動する：SYN T CR

停止する：SYN U CR

スキャナはバーコードを読み取るか、非アクティブ化コマンドが送信されるか、シリアルタイムアウトになるまで読み取りを実行します。(説明については「[読み取りタイムアウト](#)」ページを、また[シリアルコマンド](#)を参照してください。)

標準の製品初期設定へのリセット

ご使用のスキャナでカスタムデフォルトを修復したい場合、以下の**カスタムデフォルトの起動**バーコードを読み取ってください。これはスキャナの設定をカスタムデフォルト設定に再設定するものです。カスタムデフォルトがない場合は、工場出荷時の初期設定値になります。カスタムデフォルトによって指定されていない設定はすべて工場出荷時設定になります。



DEFAULT.

カスタムデフォルトの起動

注意：。コードレスシステムをご使用の場合、このバーコードを読み取ると、スキャナとベースにもリセットを実行し、リンクが解除されてしまいます。コードを入力する前に、リンクを再確立するためにスキャナをベースに置いてください。アクセスポイントを使用している場合、リンクバーコードを読み取ってください。詳細は[コードレスシステムの操作](#)ページを参照してください

次ページ以降のチャートは、各メニューコマンド（プログラミングページ上アスタリスク (*) で表示）の標準の工場出荷時設定一覧です。

メニューコマンド

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
製品初期設定			
カスタムデフォルトの設定	カスタムデフォルトの設定	MNUCDP	10
	カスタムデフォルトの保存	MNUCDS	10
カスタムデフォルトの再設定	カスタムデフォルトの起動	DEFALT	11
工場出荷時設定に戻す-コードレススキャナ	工場出荷時設定にリセット： すべてのアプリケーショングループ	PAPDFT&	53
カスタムデフォルト設定に戻す-コードレススキャナ	カスタムデフォルト設定： すべてのアプリケーショングループ	PAPDFT	53
インターフェースの設定			
プラグ&プレイコード	キーボードウェッジ： IBM PC AT互換機CRサフィックスつき (Granit1980iは非サポート)	PAP_AT	12
	ノート型PCとの直接接続、CRサフィックスつき	PAPLTD	12
	RS232インターフェース	PAP232	12
プラグ&プレイ：RS485	IBM Port 5Bインターフェース	PAPP5B	13
	IBM Port 9BHHBCR-1インターフェース	PAP9B1	13
	IBM Port 17インターフェース	PAPP17	13
	IBM Port 9B HHBCR-2インターフェース	PAP9B2	13
プラグ&プレイ：IBM SurePos	USB IBM SurePos (USBハンドヘルドスキャナ) インターフェース	PAPSPH	13
	USB IBM SurePos (USBテーブルトップスキャナ) インターフェース	PAPSPT	13
プラグ&プレイ：USB	USBキーボード (PC)	PAP124	14
	USBキーボード (Mac)	PAP125	14
	USB日本語キーボード (PC)	TRMUSB134	14
	USB HIDバーコードスキャナ	PAP131	14
	USBシリアル	TRMUSB130	14
	CTS/RTSエミュレーション有効	USBCTS1	14
	*CTS/RTSエミュレーション無効	USBCTS0	14
	ACK/NAKモード有効	USBACK1	15
	ACK/NAKモード無効*	USBACK0	15
	プラグ&プレイ	Verifone Ruby端末	PAPRBY
Gilbarco端末		PAPGLB	15
Honeywell2面式カウンタースキャナ設定		PAPBIO	15
Datalogic Magellan2面式カウンタースキャナ設定		PAPMAG	16
Wincor Nixdorf端末設定		PAPWNX	16
Wincor Nixdorf Beetle設定		PAPBTL	16
Wincor Nixdorf RS232モードA設定 (すべてのGranitモデルは非サポート)		PAPWMA	16

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
国別キーボード	*アメリカ	KBDCTY0	17
	アルバニア	KBDCTY35	17
	アゼリー (キリル文字)	KBDCTY81	17
	アゼリー (ラテン)	KBDCTY80	17
	ベラルーシ	KBDCTY82	17
	ベルギー	KBDCTY1	17
	ボスニア	KBDCTY33	17
	ブラジル	KBDCTY16	17
	ブラジル (MS)	KBDCTY59	17
	ブルガリア (キリル文字)	KBDCTY52	17
	ブルガリア (ラテン)	KBDCTY53	18
	カナダ (フランス語レガシー)	KBDCTY54	18
	カナダ (フランス語)	KBDCTY18	18
	カナダ (多言語)	KBDCTY55	18
	クロアチア	KBDCTY32	18
	チェコ	KBDCTY15	18
	チェコ (プログラマ)	KBDCTY40	18
	チェコ (QWERTY)	KBDCTY39	18
	チェコ (QWERTZ)	KBDCTY38	18
	デンマーク	KBDCTY8	18
	オランダ	KBDCTY11	18
	エストニア	KBDCTY41	18
	フェロー諸島	KBDCTY83	19
	フィンランド	KBDCTY2	19
	フランス	KBDCTY3	19
	ゲール	KBDCTY84	19
	ドイツ	KBDCTY4	19
	ギリシャ	KBDCTY17	19
	ギリシャ (220ラテン語)	KBDCTY64	19
	ギリシャ (220)	KBDCTY61	19
	ギリシャ (319ラテン語)	KBDCTY65	19
	ギリシャ (319)	KBDCTY62	19
	ギリシャ (ラテン)	KBDCTY63	19
	ギリシャ (MS)	KBDCTY66	19
	ギリシャ (ポリトニック)	KBDCTY60	20
	ヘブライ語	KBDCTY12	20
	ハンガリー語 (101キー)	KBDCTY50	20
	ハンガリー	KBDCTY19	20
	アイスランド	KBDCTY75	20
	アイルランド	KBDCTY73	20
	イタリア語 (142)	KBDCTY56	20
	イタリア	KBDCTY5	20
	日本語ASCII	KBDCTY28	20
	カザフスタン	KBDCTY78	20
	キルギスタン (キリル文字)	KBDCTY79	20
	ラテンアメリカ	KBDCTY14	20
	ラトビア	KBDCTY42	21
	ラトビア (QWERTY)	KBDCTY43	21
	リトアニア	KBDCTY44	21
	リトアニア (IBM)	KBDCTY45	21
マケドニア	KBDCTY34	21	
マルタ	KBDCTY74	21	
モンゴル (キリル文字)	KBDCTY86	21	
ノルウェー	KBDCTY9	21	
ポーランド	KBDCTY20	21	
ポーランド語 (214)	KBDCTY57	21	
ポーランド語 (プログラマ)	KBDCTY58	21	
ポルトガル	KBDCTY13	21	
ルーマニア	KBDCTY25	22	
ロシア	KBDCTY26	22	
ロシア (MS)	KBDCTY67	22	
ロシア (タイプライター)	KBDCTY68	22	
SCS	KBDCTY21	22	
セルビア (キリル文字)	KBDCTY37	22	

選択項目	設定	シリアルコマンド	ページ
	*初期設定	非数値入力を示す	
	セルビア (ラテン)	KBDCTY36	22
	スロヴァキア	KBDCTY22	22
	スロヴァキア (QWERTY)	KBDCTY49	22
	スロヴァキア (QWERTZ)	KBDCTY48	22
	スロヴェニア	KBDCTY31	22
	スペイン	KBDCTY10	22
	スペイン語 (バリエーション)	KBDCTY51	23
	スウェーデン	KBDCTY23	23
	スイス (フランス語)	KBDCTY29	23
	スイス (ドイツ語)	KBDCTY6	23
	タタール語	KBDCTY85	23
	トルコF	KBDCTY27	23
	トルコQ	KBDCTY24	23
	ウクライナ	KBDCTY76	23
	イギリス	KBDCTY7	23
	アメリカ (右手用Dvorak)	KBDCTY89	23
	アメリカ (左手用Dvorak)	KBDCTY88	23
	アメリカ (Dvorak)	KBDCTY87	23
	アメリカ (インターナショナル)	KBDCTY30	23
	ウズベキスタン (キリル文字)	KBDCTY77	23
ALTモード	*オフ	KBDALT0	24
	3キャラクタ	KBDALT6	24
	4キャラクタ	KBDALT7	24
キーボードスタイル	*レギュラー	KBDSTY0	24
	Caps Lock	KBDSTY1	24
	Shift Lock	KBDSTY2	24
	自動Caps Lock	KBDSTY6	24
	Autocaps via Num Lock	KBDSTY7	25
	外付けキーボードのエミュレート	KBDSTY5	25
キーボードの変換	*キーボード変換無効	KBDCNV0	25
	すべての文字を大文字に変換	KBDCNV1	25
	すべての文字を小文字に変換	KBDCNV2	25
制御キャラクタの出力	*制御文字出力無効	KBDNPE0	25
	*制御文字出力有効	KBDNPE1	25
キーボードの設定	*Control + Xモード無効	KBDCAS0	26
	DosモードのControl + Xモード有効	KBDCAS1	26
	WindowsモードのControl + Xモード有効	KBDCAS2	26
	WindowsモードPrefix/Suffix無効	KBDCAS3	26
	WindowsモードPrefix/SuffixのDOSモードのControl + Xモード有効	KBDCAS4	26
	ALT3桁16進数モードサポート	KBDCAS5	26
	*ターボモード無効	KBDMTD0	26
	ターボモード有効	KBDMTD1	26
	*数字キーパッド無効	KBDNPS0	26
	数字キーパッド有効	KBDNPS1	26
	*自動直接接続無効	KBDADC0	26
	自動直接接続有効	KBDADC1	26
ボーレート	300bps	232BAD0	27
	600bps	232BAD1	27
	1200bps	232BAD2	27
	2400bps	232BAD3	27
	4800bps	232BAD4	27
	9600bps	232BAD5	27
	19200bps	232BAD6	27
	38400bps	232BAD7	27
	57600bps	232BAD8	27
	*115200bps	232BAD9	27

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
ワード長：データビットストップビットパリティ	7データビット、1ストップビット、偶数	232WRD3	28
	7データビット、1ストップビット、パリティなし	232WRD0	28
	7データビット、1ストップビット、奇数	232WRD6	28
	7データビット、2ストップビット、偶数	232WRD4	28
	7データビット、2ストップビット、パリティなし	232WRD1	28
	7データビット、2ストップビット、奇数	232WRD7	28
	8データビット、1ストップビット、偶数	232WRD5	28
	8データビット、1ストップビット、パリティなし	232WRD2	28
	8データビット、1ストップビット、奇数	232WRD8	28
8データビット、1ストップビット、パリティあり	232WRD14	28	
RS232レシーバタイムアウト	0~300	232LPT###	29
RS232ハンドシェイク	*RTS/CTS無効	232CTS0	29
	フロー制御、タイムアウトなし	232CTS1	29
	二方向フロー制御	232CTS2	29
	フロー制御、タイムアウトあり	232CTS3	29
	RS232レシーバタイムアウト	232DEL####	29
	*XON/XOFF無効	232XON0	30
	XON/XOFF有効	232XON1	30
	*ACK/NAK無効	232ACK0	30
ACK/NAK有効	232ACK1	30	
2面式カウンタースキャナパケットモード	*パケットモード無効	232PKT0	30
	パケットモード有効	232PKT2	30
2面式カウンター式スキャナACK/NAKモード	*2面式カウンタースキャナACK/NAK無効	232NAK0	30
	2面式カウンタースキャナACK/NAK有効	232NAK1	30
2面式カウンタースキャナACK/NAKタイムアウト	ACK/NAK タイムアウト *5100	232DLK####	31
コードレスシステムの操作 注意：本項はコードレスシステムのみを対象としています。コードつきスキャナには適用できませんので、ご注意ください。			
リンクされたスキャナの交換	ロックスキャナの上書き（シングルスキャナ）	BT_RPL1	33
テンポラリプレゼンテーションモード	テンポラリプレゼンテーションモード有効	BEPPGE2	35
	*10秒タイムアウト	TRGTPM10000	36
	30秒タイムアウト	TRGTPM30000	36
ベース設置時のプレゼンテーションモード設定	*無効	BT_PIB0	36
	有効	BT_PIB1	36
ベースパワー通信インジケータ	*有効	:::BASRED1	38
	無効	:::BASRED0	38
低充電残量アラート	*低充電残量アラート10-30%	LPIRAG0	39
	低充電残量アラート10-50%	LPIRAG1	39
	低充電残量アラートLED点滅回数（1-9）*3	LPIFNO#	39
	点滅インターバル設定（1-9）*2	LPIFDL#	39
	低充電残量アラートリピート設定（1-5）*1	LPI_NO#	39
	低充電残量アラートリピートのインターバル設定（10-120）*10	LPI_DL###	39
	低充電残量アラートビープ音無効	LPIBEP0	40
	*低充電残量アラートビープ音有効	LPIBEP1	40
スキャナのリセット	スキャナのリセット	RESET_	40

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
ベースユニット上での読み取り	ベースに置いた状態での読取禁止	BT_SIC0	40
	*ベースに置いた状態での読取許可（初期設定CCB01-010BT）	BT_SIC1	40
	ベースに置いてスキヤナをシャットダウン	BT_SIC2	40
ベースチャージモード	ベースチャージ無効	BASCHG0	41
	*外部またはインターフェースケーブル電源	BASCHG1	41
	外部電源のみ	BASCHG2	41
ページングモード	*ページングモード有効	BEPPGE1	41
	ページングモード無効	BEPPGE0	41
ページング音の音程	*低（1000Hz）	BEPPFQ1000	41
	中（3250Hz）	BEPPFQ3250	42
	高（4200Hz）	BEPPFQ4200	41
ブザー音の音程：ベースユニットのエラー発生時	*低（250）（最小200Hz）	BASFQ2250	42
	中（3250Hz）	BASFQ23250	41
	高（4200Hz）（最大9000Hz）	BASFQ24200	42
ブザー音の回数：ベースユニットのエラー発生時	ベース：エラー発生時のブザー回数およびLED点滅 *1（1-9）	BASERR#	42
スキヤナレポート	スキヤナレポート	RPTSCN	42
スキヤナのアドレス	スキヤナのアドレス	BT_LDA	42
ベースアドレス	ベースアドレス	BASLDA	42
スキヤナモード	充電限定モード	BASLNK0	43
	*充電および通信モード	BASLNK1	43
	通信固定モード	BASCON0,DNG1	43
	*通信オープンモード	BASCON1,DNG1	43
	スキヤナとの通信解除	BT_RMV	44
	通信固定されたスキヤナの上書き	BT_RPL1	44
通信範囲外警告	ベースアラームの鳴動時間（範囲1-3000ミリ秒）*0	BASORD####	44
	スキヤナアラームの鳴動時間（範囲1-3000ミリ秒）*0	BT_ORD####	44
警告ブザーの種類	ベースアラームの種類（0-7）*0	BASORW#	45
	スキヤナアラームの種類（0-7）*0	BT_ORW#	45
スキヤナパワータイムアウトタイマー	0秒	BT_LPT0	45
	200秒	BT_LPT200	45
	400秒	BT_LPT400	45
	900秒	BT_LPT900	45
	*3600秒	BT_LPT3600	45
	7200秒	BT_LPT7200	45
1952g/1952h出力管理	*フルパワー（100%）	BT_TXP100	46
	出力 - 中（35%）	BT_TXP35	46
	出力 - 中低（5%）	BT_TXP5	46
	出力 - 低（1%）	BT_TXP1	46
1952g-BF/1952h-BF出力管理	*フルパワー（100%）	BT_TXP8	46
	出力 - 高（87%）	BT_TXP7	46
	出力 - 高中（50%）	BT_TXP4	46
	出力 - 低（1%）	BT_TXP1	46
バッチモード	自動バッチモード	BATENA1	47
	*バッチモード無効	BATENA0	47
	インベントリバッチモード	BATENA2	47
	持続バッチモード	BATENA3	47
バッチモード：ブザー音	無効	BATBEP0	47
	*有効	BATBEP1	47
バッチモード：保存形式	*フラッシュメモリに保存	BATNVS1	48
	RAMメモリに保存	BATNVS0	48
バッチモード：個数	*無効	BATQTY0	48
	有効	BATQTY1	48

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
個数コード	0	BATNUM0	49
	*1	BATNUM1	49
	2	BATNUM2	49
	3	BATNUM3	49
	4	BATNUM4	49
	5	BATNUM5	49
	6	BATNUM6	49
	7	BATNUM7	49
	8	BATNUM8	49
	9	BATNUM9	49
バッチモード：出力順序	先入先出	BATLIF0	50
	後入先出	BATLIF1	50
レコードの合計件数	レコードの合計件数	BATNRC	50
最後のコードを削除	最後のコードを削除	BATUND	50
すべてのコードを削除	すべてのコードを削除	BATCLR	50
保存したデータをホストへ送信	インベントリのレコードをホストへ送信	BAT_TX	50
バッチモード：送信ディレイ（間隔）	*無効（ディレイなし）	BATDLY0	50
	短（250ミリ秒）	BATDLY250	51
	中（500ミリ秒）	BATDLY500	51
	長（1,000ミリ秒）	BATDLY1000	51
複数スキャナ操作モード	複数スキャナ操作モード	BASCON2.DNG3	51
スキャナ名	0001	BT_NAM0001	51
	0002	BT_NAM0002	51
	0003	BT_NAM0003	51
	0004	BT_NAM0004	51
	0005	BT_NAM0005	52
	0006	BT_NAM0006	52
	0007	BT_NAM0007	52
	リセット	RESET_	52
	スキャナ名	BT_NAM	52
アプリケーションワークグループ選択項目	*グループ0	GRPSEL0	52
	グループ1	GRPSEL1	52
	グループ2	GRPSEL2	53
	グループ3	GRPSEL3	53
	グループ4	GRPSEL4	53
	グループ5	GRPSEL5	53
	グループ6	GRPSEL6	53
初期設定へのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ	工場出荷時設定にリセット：すべてのワークグループ	PAPDFT&	53
カスタムデフォルトへのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ	カスタムデフォルト設定：すべてのワークグループ	PAPDFT	53
Bluetooth接続	*Bluetooth SPP有効	BT_SSP1	54
	Bluetooth SPP無効	BT_SSP0	54
	Bluetooth HIDキーボード接続	PAPBTH	54
	Bluetooth HID日本語キーボード接続	PAPJKB	54
	Bluetooth HIDキーボード通信切断	PAPSPP	55
Bluetooth Low Energy（BLE）デバイス接続	HID BLE接続	PAPLEH	56
	シリアルBLE接続	PAPTIO	56
Bluetoothシリアルポート：デスクトップ型PC/ノート型PC	ベースなしBT接続	BT_TRM0;BT_DNG5	56
PDAやモバイルデバイスとのベースなしBT接続	PDA/ハンディターミナルBluetooth接続	BT_TRM0;BT_DNG1	56
スキャナのBluetooth暗証コード変更	Bluetooth暗証コード	BT_PIN	56
自動再接続モード	*自動再接続有効	BT_ACM1	57
	自動再接続無効	BT_ACM0	57
再接続試行最高限度回数	再接続試行最高限度回数（0-100）*0	BT_MLA###	57
再接続タイムアウト	再接続タイムアウト（1-100）*3	BT_RLT###	58
ホストコマンドのACK	ホストACK有効	HSTACK1	59
	*ホストACK無効	HSTACK0	59
	ホストACKタイムアウト（1-90）*10	HSTATO##	59

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
入力・出力設定			
起動ブザー	スキャナ、起動ブザー無効	BEPW0	61
	*スキャナ、起動ブザー有効	BEPW1	61
	コードレスベース、起動ブザー無効	BASPW0	61
	コードレスベース、起動ブザー有効	BASPW1	61
BELブザー	BELブザー有効	BELBEP1	61
	*BELブザー無効	BELBEP0	61
トリガークリック音	有効	BEPTRG1	61
	*無効	BEPTRG0	61
読取成功時ブザー	無効	BEPBEP0	62
	*有効	BEPBEP1	62
読取成功時ブザー：音量	なし	BEPLVL0	62
	*小（初期設定-Xenon HC）	BEPLVL1	62
	中	BEPLVL2	62
	*大	BEPLVL3	62
読取成功時ブザー：音程	低（1600）（最低 400Hz）	BEPFQ11600	62
	*中 - Xenon（2700Hz）	BEPFQ12700	62
	高（4200）（最大 9000Hz）	BEPFQ14200	62
振動：読取成功時	読取成功時の振動無効	TFBGRD0	63
	*読取成功時の振動有効	TFBGRD1	63
振動時間	時間（100～2,000ms）*300	TFBDUR####	63
読取成功時ブザー：音程	*低（250）（最小 200Hz）	BEPFQ2250	63
	*中（3250Hz）	BEPFQ23250	63
	高（4200Hz）（最大 9000Hz）	BEPFQ24200	63
読取成功時ブザー：長さ	*通常	BEPBIP0	63
	短いビーブ音	BEPBIP1	63
読取成功時：LED	無効	BEPLD0	63
	*有効	BEPLD1	63
エラーブザーの回数：	（1～9）*1	BEPERR#	64
読取成功時ブザー：回数	（1～9）*1	BEPRPT#	64
読取成功ディレイ	*ディレイなし	DLYGRD0	64
	短いディレイ（500ミリ秒）	DLYGRD500	64
	中位のディレイ（1000ミリ秒）	DLYGRD1000	64
	長いディレイ（1500ミリ秒）	DLYGRD1500	64
ユーザー定義の読取成功ディレイ	0～30,000ミリ秒	DLYGRD#####	64
マニュアルトリガーマード	*マニュアルトリガー標準	PAPHHF	65
	マニュアルトリガー強化	PAPHHS	65
トリガートグルモード	*トリガートグルモード無効	TRGTGM0	65
	トリガートグル画像取得	TRGTGM1	65
	トリガートグルセンタリング	TRGTGM3	65
トリガートグルモード有効化の回数	連続2回	TRGTPC2	65
	連続3回	TRGTPC3	65
	連続4回	TRGTPC4	65
トリガートグルモード設定のタイミング	トリガートグルモード設定タイミング（50～2000）*400	TRGTTI####	65
トリガートグルモード設定タイムアウト	トリガートグルモードタイムアウト（0～65）*5	TRGTGT##	66
シリアルトリガーマード	読み取りタイムアウト（0～300,000ミリ秒）*30,000	TRGSTO####	66
プレゼンテーションモード	プレゼンテーションモード	PAPTPR	66
トリガープレゼンテーションモード	自然光のみ	PDCLED0	66
	*自然光+スキャナライト	PDCLED1	66
デコード後のプレゼンテーションLEDの動作	*LED有効	TRGPCK1	67
	LED無効	TRGPCK0	67

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
プレゼンテーションセンタリングウィンドウ	プレゼンテーションセンタリング有効	PDCWIN1	68
	*プレゼンテーションセンタリング無効	PDCWIN0	68
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウ左 (*40%)	PDCLFT###	68
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウ右 (*60%)	PDCRGT###	68
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウ上 (*40%)	PDCTOP###	68
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウ下 (*60%)	PDCBOT###	68
スタンド使用時のセンサーモード	センサー有効	TRGSSW1	69
	センサー無効	TRGSSW0	69
低品質コード	低品質1D読取有効	DECLD11	69
	*低品質1D読取無効	DECLD10	69
	*低品質PDF読取有効	PDFXPR10	69
	低品質PDF読取無効	PDFXPR0	69
	低解像度PDFコード有効	PDFDMI1	70
	*低解像度PDFコード無効	PDFDMI0	70
CodeGate®	*スタンド不使用時CodeGate無効	AOSCGD0.	70
	スタンド不使用時CodeGate有効	AOSCGD1.	70
ストリーミングプレゼンテーションモード	ストリーミングプレゼンテーションモード標準	PAPSPN	70
	ストリーミングプレゼンテーションモード強化	PAPSPE	70
ハンズフリータイムアウト	0~300,000ミリ秒	TRGPT0#####	71
再読取ディレイ	短 (500ミリ秒)	DLYRRD500	71
	*中 (750ミリ秒)	DLYRRD750	71
	長 (1000ミリ秒)	DLYRRD1000	71
	エクストラ (2000ミリ秒)	DLYRRD2000	71
ユーザー定義の再読取ディレイ	0~30,000ミリ秒	DLYRRD#####	71
2D再読取ディレイ	*2D再読取ディレイ無効	DLY2RR0	71
	短 (1000ミリ秒)	DLY2RR1000	71
	中 (2000ミリ秒)	DLY2RR2000	71
	長 (3000ミリ秒)	DLY2RR3000	72
	エクストラ (4000ミリ秒)	DLY2RR4000	72
キャラクタ有効化モード	*無効	HSTCEN0	72
	有効	HSTCEN1	72
	キャラクタ有効化 (0~255) *12 [DC2]	HSTACH###	72
	*読取成功後の終端文字アクティベーション無効	HSTCGD0	72
	読取成功後の終端文字アクティベーション無効	HSTCGD1	72
	キャラクタ有効化タイムアウト (1~300,000) *30,000ms	HSTCDT#####	73
キャラクタ無効化モード	*無効	HSTDEN0	73
	有効	HSTDEN1	73
	キャラクタ無効化 (0~255) *14 [DC4]	HSTDCH###	73
照明ライト	*ライトオン	SCNLED1	73
	ライトオフ	SCNLED0	73
エイマーディレイ	1ms (ミリ秒)	SCNDLY1	73
	250ms (ミリ秒)	SCNDLY250	73
	400ms (ミリ秒)	SCNDLY400	74
	*無効	SCNDLY0	74
ユーザー定義のエイマーディレイ	ディレイ時間 0~4,000ミリ秒	SCNDLY#####	74
エイマーモード	無効	SCNAIM0	74
	*非同期	SCNAIM2	74

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
センタリングウィンドウ	センタリング有効	DECWIN1	75
	*センタリング無効	DECWIN0	75
	センタリングウィンドウ左 (*40%)	DECLFT###	75
	センタリングウィンドウ右 (*60%)	DECRGT###	75
	センタリングウィンドウ上 (*40%)	DECTOP###	75
	センタリングウィンドウ下 (*60%)	DECBOT###	75
優先シンボル	有効	PRFENA1	76
	*無効	PRFENA0	76
	高優先度シンボル	PRFCOD##	76
	低優先度シンボル	PRFBLK##	76
	優先シンボルタイムアウト *500ミリ秒 (範囲100~3000ミリ秒)	PRFPTO####	76
	優先シンボルのデフォルト	PRFDFT	77
アウトプットシーケンスエディタ	シーケンスエディタスタートコマンド	SEQBLK	77
	プレフィックスをアウトプットシーケンス に追加	SEQPRE	77
	サフィックスをアウトプットシーケンスに 追加	SEQSUF	77
	セパレータをアウトプットシーケンスに追 加	SEQSEP	77
	ターミネーションストリング	FF	78
パーシャルシーケンス	パーティシャルシーケンスの送信	SEQTTS1	78
	一部のアウトプットシーケンスにプレフィ ックスを追加	SEQIPR	78
	一部のアウトプットシーケンスにサフィッ クスを追加	SEQISU	78
	一部のアウトプットシーケンスにセパレー タを追加	SEQISE	78
	ターミネーションストリング	FF	78
	アウトプットシーケンス全体の一部 (サブ セット) を定義	SEQSAT	78
	SEQSAT 使用時にタイムアウトの設定	SEQTIM	78
	*パーティカルシーケンスの破棄	SEQTTS0	81
	デフォルトシーケンス	SEQDFT	82
アウトプットシーケンス要求	要求する	SEQ_EN2	82
	有効、要求しない	SEQ_EN1	82
	*無効	SEQ_EN0	82
良好読取トーン-アウトプットシーケンス	良好読取ビープ音-各コードのシーケンス	BEPSIN0	83
	*良好読取クリック音-各コードのシーケ ンス	BEPSIN1	83
	良好読取ビープ音-パーシャルシーケンス エンジニアリングアウトプット	BEPISE0	83
	*エラートーン-パーシャルシーケンスエン ジニアリングアウトプット	BEPISE1	83
複数シンボル	有効	SHOTGN1	83
	*無効	SHOTGN0	83
No Read	有効	SHWNRD1	83
	*無効	SHWNRD0	83
ビデオリバース (反転コード)	反転コードのみ有効	VIDREV1	84
	反転および標準コード有効	VIDREV2	84
	*反転バーコード無効	VIDREV0	84
動作方向	*正面	ROTATN0	84
	垂直、下から上 (反時計回りに90°回転)	ROTATN1	84
	上下逆さ	ROTATN2	84
	垂直、上から下 (時計回りに90°回転)	ROTATN3	84

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
ヘルスケア設定			
クワイエットオペレーション - コンビネーションコード	LED点滅消音モード-コードレススキャナおよびベース	bepfn5;bepflr50;beppar0;basprw0;beppwr0;baslv10;beplvl0;bepbip0;beplFQ12700;beplot0.	85
	LED点滅消音モード-コード付きスキャナ	bepfn5;bepflr50;beppwr0;beplvl0;bepbip0;beplFQ12700;beplot0.	85
	長いLED消音モード-コードレススキャナおよびベース	bepfn0;bepflr10;beppar0;basprw0;beppwr0;baslv10;beplvl0;bepbip0;beplFQ12700;beplot1.	85
	長いLED消音モード-コード付きスキャナ	bepfn0;bepflr10;beppwr0;beplvl0;bepbip0;beplFQ12700;beplot1.	85
	夜間モード-コードレススキャナおよびベース	bepfn0;bepflr10;beppar0;basprw0;beppwr1;baslv11;beplvl1;bepbip1;beplFQ14200;beplot0.	86
	夜間モード-コード付きスキャナ	bepfn0;bepflr10;beppwr1;beplvl1;bepbip1;beplFQ14200;beplot0.	86
	昼間モード-コードレススキャナおよびベース	bepfn0;bepflr10;beppar1;basprw1;beppwr1;baslv11;beplvl1;bepbip0;beplFQ12700;beplot0.	86
	昼間モード-コード付きスキャン	bepfn0;bepflr10;beppwr1;beplvl1;bepbip0;beplFQ12700;beplot0.	86
クワイエットオペレーション-LED及び音量設定			
LEDの色と音のリンク	*緑色LED点滅/音	BEPPAR1	86
	赤色LED点滅/消音	BEPPAR0	86
LED点滅回数	*1回LED点滅	BEPLFN0	87
	5回LED点滅	BEPLFN5	87
	10回LED点滅	BEPLFN10	87
	25回LED点滅	BEPLFN25	87
LED点滅間隔	*高速点滅	BEPLFR50	87
	中速点滅	BEPLFR250	87
	低速点滅	BEPLFR500	87
LED 固定（フラッシュなし）	*LED固定無効	BEPLOT0	87
	LED固定1秒	BEPLOT1	87
	LED固定3秒	BEPLOT3	87
	LED固定5秒	BEPLOT5	87
呼び出し音制御	呼び出し音量無効	BEPPGV0	88
	*呼び出し音量低	BEPPGV1	88
	呼び出し音量中	BEPPGV2	88
	呼び出し音量高	BEPPGV3	88
通信範囲外アラーム	ベースアラーム音量無効	BASORV0	88
	スキャナアラーム音量無効	BT_ORV0	88
	*ベースアラーム音量低	BASORV1	88
	*スキャナアラーム音量低	BT_ORV1	88
	ベースアラーム音量中	BASORV2	88
	スキャナアラーム音量中	BT_ORV2	88
	ベースアラーム音量高	BASORV3	88
	スキャナアラーム音量高	BT_ORV3	88
範囲外アラームディレイ	範囲外アラームディレイ (*0ディレイなし) 0-3000ミリ秒	BT_ORY####	89
プレフィックス/サフィックスの設定			
CRサフィックスをすべてのシンボルに付加		VSUF CR	91
プレフィックス	プレフィックスの追加	PREBK2##	91
	プレフィックス1つ削除	PRECL2	91
	すべてのプレフィックス削除	PRECA2	92
サフィックス	サフィックスの追加	SUFBK2##	92
	サフィックス1つ削除	SUFCL2	92
	すべてのサフィックス削除	SUFCA2	92
ファンクションコード送信	*有効	RMVFNC0	92
	無効	RMVFNC1	92
キャラクタ間ディレイ	0~5000ミリ秒（5ミリ秒ごとの設定）	DLYCHR####	92
ユーザー定義 キャラクタ間ディレイ	ディレイ長：0~5000ミリ秒（5ミリ秒ごとの設定）	DLYCRX####	93
	ディレイトリガー文字	DLY_XX##	93

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
ファンクション間ディレイ	0~5000ミリ秒 (5ミリ秒ごとの設定)	DLYFNC####	93
メッセージ間ディレイ	0~5000ミリ秒 (5ミリ秒ごとの設定)	DLYMSG####	93
データフォーマットの設定			
データフォーマットエディタ	*データフォーマット初期設定 (なし)	DFMDF3	94
	データフォーマット表示	DFMBK3?	94
	データフォーマットの入力	DFMBK3##	95
	データフォーマット1つ削除	DFMCL3	95
	すべてのデータフォーマットの削除	DFMCA3	96
データフォーマット	データフォーマット無効	DFM_EN0	106
	*データフォーマット有効、要求しない、 プレフィックス/サフィックスあり	DFM_EN1	106
	データフォーマット要求する、プレフィッ クス/サフィックスあり	DFM_EN2	106
	データフォーマット有効、要求しない、プ レフィックス/サフィックスなし	DFM_EN3	106
	データフォーマット要求する、プレフィッ クス/サフィックスなし	DFM_EN4	106
データフォーマット不一致エラーブザー	*データフォーマット不一致エラーブザー 有効	DFMDEC0	107
	データフォーマット不一致エラーブザー無 効	DFMDEC1	107
基準・代用データフォーマット	基準データフォーマット	ALTFNM0	107
	データフォーマット1	ALTFNM1	107
	データフォーマット2	ALTFNM2	107
	データフォーマット3	ALTFNM3	107
データフォーマットの切り替え	基準データフォーマットへ切り替え	VSAF_0	107
	データフォーマット1へ切り替え	VSAF_1	107
	データフォーマット2へ切り替え	VSAF_2	107
	データフォーマット3へ切り替え	VSAF_3	107
読み取りシンボル			
すべてのシンボル	すべてのシンボル 読み取り禁止	ALLENA0	108
Codabar	設定をすべて初期化	CBRDFT	109
	無効	CBRENA0	109
Codabarスタート/ストップキャラクタ	*有効	CBRENA1	109
	*送信なし	CBRSSX0	109
Codabarチェックキャラクタ	送信する	CBRSSX1	109
	*チェックキャラクタなし	CBRCK20	110
	モジュラス16検証、送信なし	CBRCK21	110
Codabarの連結	モジュラス16検証、送信する	CBRCK22	110
	*無効	CBRCCT0	110
	有効	CBRCCT1	110
Codabar読取桁数	要求する	CBRCCT2	110
	最小読取桁数 (2~60) *4	CBRMIN##	110
	最大読取桁数 (2~60) *60	CBRMAX##	110
Code39	設定をすべて初期化	C39DFT	110
	無効	C39ENA0	111
	*有効	C39ENA1	111
Code39スタートストップキャラクタ	*送信なし	C39SSX0	111
	送信する	C39SSX1	111
Code39チェックキャラクタ	*チェックキャラクタなし	C39CK20	111
	有効、送信なし	C39CK21	111
	有効、送信する	C39CK22	111
Code39読取桁数	最小読取桁数 (0~48) *0	C39MIN##	111
	最大読取桁数 (0~48) *48	C39MAX##	111
Code39 の連結	*無効	C39APP0	112
	有効	C39APP1	112
Code32 Pharmaceutical (PARAF)	*無効	C39B320	112
	有効	C39B321	113

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
Code39 FullASCII	*無効	C39ASC0	112
	有効	C39ASC1	112
	Code39コードページ	C39DCP	113
Interleaved 2 of 5	設定をすべて初期化	I25DFT	113
	無効	I25ENA0	113
	*有効	I25ENA1	113
Interleaved 2 of 5チェックデジット	*チェックデジット無効	I25CK20	113
	有効、送信なし	I25CK21	113
	有効、送信する	I25CK22	113
Interleaved 2 of 5読取桁数	最小読取桁数 (2~80) *4	I25MIN##	114
	最大読取桁数 (2~80) *80	I25MAX##	114
FEBRABANデコード	*FEBRABANデコード無効	I25PAY0	114
	FEBRABANデコード有効	I25PAY1	114
NEC 2 of 5	設定をすべて初期化	N25DFT	114
	無効	N25ENA0	114
	*有効	N25ENA1	114
NEC 2 of 5チェックデジット	*チェックデジット無効	N25CK20	114
	有効、送信なし	N25CK21	114
	有効、送信する	N25CK22	115
NEC 2 of 5読取桁数	最小読取桁数 (2~80) *4	N25MIN##	115
	最大読取桁数 (2~80) *80	N25MAX##	115
Code93	設定をすべて初期化	C93DFT	115
	無効	C93ENA0	115
	*有効	C93ENA1	115
Code93読取桁数	最小読取桁数 (0~80) *0	C93MIN##	115
	最大読取桁数 (0~80) *80	C93MAX##	115
Code93連結	有効	C93APP1	115
	*無効	C93APP0	116
Code93コードページ	Code93コードページ	C93DCP	116
Straight 2 of 5 Industrial (3バースタート/ ストップ)	設定をすべて初期化	R25DFT	116
	*無効	R25ENA0	116
	有効	R25ENA1	116
Straight 2 of 5 Industrial読取桁数	最小読取桁数 (1~48) *4	R25MIN##	116
	最大読取桁数 (1~48) *48	R25MAX##	116
Straight 2 of 5 IATA	設定をすべて初期化	A25DFT	116
Straight 2 of 5 IATA (2バースタート/ ストップ)	*無効	A25ENA0	117
	有効	A25ENA1	117
Straight 2 of 5 IATAリダダンシー	リダダンシー回数 (0~10) *0	A25VOT##	117
Straight 2 of 5 IATA読取桁数	最小読取桁数 (1~48) *4	A25MIN##	117
	最大読取桁数 (1~48) *48	A25MAX##	117
Matrix 2 of 5	設定をすべて初期化	X25DFT	117
	*無効	X25ENA0	117
	有効	X25ENA1	117
Matrix 2 of 5読取桁数	最小読取桁数 (1~80) *4	X25MIN##	118
	最大読取桁数 (1~80) *80	X25MAX##	118
Code11	設定をすべて初期化	C11DFT	118
	*無効	C11ENA0	118
	有効	C11ENA1	118
Code11チェックデジットの要求	1チェックデジット	C11CK20	118
	*2チェックデジット	C11CK21	118
Code11読取桁数	最小読取桁数 (1~80) *4	C11MIN##	118
	最大読取桁数 (1~80) *80	C11MAX##	118
Code128	設定をすべて初期化	128DFT	118
	無効	128ENA0	119
	*有効	128ENA1	119
ISBTの連結	*無効	ISBENA0	119
	有効	ISBENA1	119
Code128リダダンシー	リダダンシー回数 (0~10) *0	128VOT##	119
Code128読取桁数	最小読取桁数 (0~80) *0	128MIN##	119
	最大読取桁数 (0~80) *80	128MAX##	119
Code128連結	*有効	128APP1	120
	無効	128APP0	120
Code128コードページ	Code128コードページ (*2)	128DCP##	120

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
GS1-128	設定をすべて初期化	GS1DFT	120
	*有効	GS1ENA1	120
	無効	GS1ENA0	120
GS1-128読取桁数	最小読取桁数 (1~80) *1	GS1MIN##	120
	最大読取桁数 (0~80) *80	GS1MAX##	120
Telepen	設定をすべて初期化	TELDFT	120
	*無効	TELENA0	121
	有効	TELENA1	121
Telepen出力	*AIM Telepen出力	TELOLD0	121
	オリジナルTelepen出力	TELOLD1	121
Telepen読取桁数	最小読取桁数 (1~60) *1	TELMIN##	121
	最大読取桁数 (1~60) *60	TELMAX##	121
UPC-A	設定をすべて初期化	UPADFT	121
	無効	UPAENA0	121
	*有効	UPAENA1	121
UPC-Aチェックデジット	無効	UPACKX0	122
	*有効	UPACKX1	122
UPC-Aシステム番号	無効	UPANSX0	122
	*有効	UPANSX1	122
UPC-A2桁のアドオン	*無効	UPAAD20	122
	有効	UPAAD21	122
UPC-A5桁のアドオン	*無効	UPAAD50	122
	有効	UPAAD51	122
UPC-Aアドオンの要求	*要求しない	UPAARQ0	122
	要求する	UPAARQ1	122
アドオンタイムアウト	アドオンタイムアウト時間の設定 (0~120ms) *500	DLYADD#####	123
UPC-Aアドオンセパレータ	無効	UPAADS0	123
	*有効	UPAADS1	123
拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13	*無効	CPNENA0	123
	連結許可	CPNENA1	123
	連結必須	CPNENA2	123
アドオンタイムアウト	アドオンタイムアウト時間の設定 (0~120ms) *500	DLYADD#####	123
クーポンGS1データバー出力	*GS1出力無効	CPNGS10	124
	GS1出力有効	CPNGS11	124
UPC-E0	設定をすべて初期化	UPEDFT	124
	無効	UPEEN00	124
	*有効	UPEEN01	124
UPC-E0拡張	*無効	UPEEXP0	124
	有効	UPEEXP1	124
UPC-E0アドオンの要求	要求する	UPEARQ1	124
	*要求しない	UPEARQ0	124
アドオンタイムアウト	アドオンタイムアウト時間の設定 (0~120ms) *500	DLYADD#####	123
UPC-E0アドオンセパレータ	*有効	UPEADS1	125
	無効	UPEADS0	125
UPC-E0チェックデジット	無効	UPECKX0	125
	*有効	UPECKX1	125
UPC-E0システム番号	無効	UPENSX0	125
	*有効	UPENSX1	125
UPC-E0アドオン	2桁のアドオン許可	UPEAD21	
	*2桁のアドオン禁止	UPEAD20	125
	5桁のアドオン許可	UPEAD51	125
	*5桁のアドオン禁止	UPEAD50	125
UPC-E1	*無効	UPEEN10	126
	有効	UPEEN11	126
EAN/JAN-13	設定をすべて初期化	E13DFT	126
	JAN 設定		
	無効	E13ENA0	126
	*有効	E13ENA1	126

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
UPC-AからEAN-13への変換	UPC-AからEAN-13への変換	UPAENA0	126
	UPC-Aの変換禁止	UPAENA1	126
EAN/JAN-13チェックデジット	無効	E13CKX0	126
	*有効	E13CKX1	126
EAN/JAN-13アドオン	2桁のアドオン許可	E13AD21	127
	*2桁のアドオン禁止	E13AD20	127
	5桁のアドオン許可	E13AD51	127
	*5桁のアドオン禁止	E13AD50	127
EAN/JAN-13アドオンの要求	*要求しない	E13ARQ0	127
	要求する	E13ARQ1	127
290で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求	*アドオン5桁要求なし	ARQ2900	127
	アドオン5桁要求	ARQ2901	127
378/379で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求	*アドオン要求なし	ARQ3780	128
	アドオン2桁要求	ARQ3781	128
	アドオン5桁要求	ARQ3782	128
	2桁か5桁のアドオン要求	ARQ3783	128
414/419で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求	*アドオン要求なし	ARQ4140	128
	アドオン2桁要求	ARQ4141	128
	アドオン5桁要求	ARQ4142	128
	2桁か5桁のアドオン要求	ARQ4143	128
434/439で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求	*アドオン要求なし	ARQ4340	129
	アドオン2桁要求	ARQ4341	129
	アドオン5桁要求	ARQ4342	129
	2桁か5桁のアドオン要求	ARQ4343	129
977で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求	*アドオン2桁要求なし	ARQ9770	129
	アドオン2桁要求	ARQ9771	129
978で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求	*アドオン5桁要求なし	ARQ9780	129
	アドオン5桁要求	ARQ9781	129
979で始まるEAN-13アドオン (Addenda) 要求	*アドオン5桁要求なし	ARQ9790	130
	アドオン5桁要求	ARQ9791	130
アドオンタイムアウト	タイムアウト時間の設定 (0~120ms) *500	DLYADD#####	
EAN/JAN-13アドオンセパレーター	無効	E13ADS0	130
	*有効	E13ADS1	130
ISBN変換	*無効	E13ISB0	130
	有効	E13ISB1	130
EAN/JAN-8	設定をすべて初期化 JAN 8設定	EA8DFT	131
	無効	EA8ENA0	131
	*有効	EA8ENA1	131
EAN/JAN-8チェックデジット	無効	EA8CKX0	131
	*有効	EA8CKX1	131
EAN/JAN-8アドオン	*2桁のアドオン禁止	EA8AD20	131
	2桁のアドオン許可	EA8AD21	131
	*5桁のアドオン禁止	EA8AD50	131
	5桁のアドオン許可	EA8AD51	131
EAN/JAN-8アドオンの要求	*要求しない	EA8ARQ0	131
	要求する	EA8ARQ1	131
EAN/JAN-8アドオンセパレーター	無効	EA8ADS0	132
	*有効	EA8ADS1	132
MSI	設定をすべて初期化	MSIDFT	132
	*無効	MSIENA0	132
	有効	MSIENA1	132
MSIチェックキャラクタ	*タイプ10有効、送信なし	MSICHK0	132
	タイプ10有効、送信あり	MSICHK1	132
	タイプ10有効、2キャラクタ、送信なし	MSICHK2	132
	タイプ10有効、2キャラクタ、送信する	MSICHK3	132
	タイプ10、そしてタイプ11有効、送信なし	MSICHK4	133
	タイプ10、そしてタイプ11有効、送信する	MSICHK5	133
	MSIチェックキャラクタ無効	MSICHK6	133

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
MSI読取桁数	最小読取桁数 (4~48) *4	MSIMIN##	133
	最大読取桁数 (4~48) *48	MSIMAX##	133
GS1データバー標準型	設定をすべて初期化	RSSDFT	133
	無効	RSSENA0	133
	*有効	RSSENA1	133
GS1データバー限定型	設定をすべて初期化	RSLDFT	133
	無効	RSLENA0	134
	*有効	RSLENA1	134
GS1データバー拡張型	設定をすべて初期化	RSEDFT	134
	無効	RSEENA0	134
	*有効	RSEENA1	134
GS1データバー拡張型読取桁数長	最小読取桁数 (4~74) *4	RSEMIN##	134
	最大読取桁数 (4~74) *74	RSEMAX##	134
Triopticコード	*無効	TRIENA0	134
	有効	TRIENA1	134
Codablock A	設定をすべて初期化	CBADFT	135
	*無効	CBAENA0	135
	有効	CBAENA1	135
Codablock A読取桁数長	最小読取桁数 (1~600) *1	CBAMIN###	135
	最大読取桁数 (1~600) *600	CBAMAX###	135
Codablock F	設定をすべて初期化	CBFDFT	135
	*無効	CBFENA0	135
	有効	CBFENA1	135
Codablock F読取桁数長	最小読取桁数 (1~2048) *1	CBFMIN####	135
	最大読取桁数 (1~2048) *2048	CBFMAX####	135
ラベルコード	有効	LBLENA1	136
	*無効	LBLENA0	136
PDF417	設定をすべて初期化	PDFDFT	136
	*有効	PDFENA1	136
	無効	PDFENA0	136
MicroPDF417読取桁数長	最小読取桁数 (1-2750) *1	PDFMIN####	136
	最大読取桁数 (1-2750) *2750	PDFMAX####	136
MacroPDF417	*有効	PDFMAC1	136
	無効	PDFMAC0	136
MicroPDF417	設定をすべて初期化	MPDDFT	137
	有効	MPDENA1	137
	*無効	MPDENA0	137
MicroPDF417読取桁数長	最小読取桁数 (1-366) *1	MPDMIN###	137
	最大読取桁数 (1-366) *366	MPDMAX###	137
GS1コンジットシンボル	有効	COMENA1	137
	*無効	COMENA0	137
UPC/EANバージョン	有効	COMUPC1	137
	*無効	COMUPC0	137
GS1コンジットシンボル読取桁数長	最小読取桁数 (1-2435) *1	COMMIN####	138
	最大読取桁数 (1-2435) *2435	COMMAX####	138
GS1エミュレーション	GS1-128エミュレーション	EANEMU1	138
	GS1データバーエミュレーション	EANEMU2	138
	GS1コード拡張無効	EANEMU3	138
	EAN8からEAN13へ変換	EANEMU4	138
	*GS1エミュレーション無効	EANEMU0	138
TCIF Linked Code39 (TLC39)	有効	T39ENA1	139
	*無効	T39ENA0	139
QRコード	設定をすべて初期化	QRCDFT	139
	*有効	QRCENA1	139
	無効	QRCENA0	139
QRコード読取桁数長	最小読取桁数 (1-7089) *1	QRCMIN####	139
	最大読取桁数 (1-7089) *7089	QRCMAX####	139
QRコード連結機能	*1回スキャン	QRCAPP1	139
	スワイプ	QRCAPP2	139
	ポイントとシュート	QRCAPP3	140
	無効	QRCAPP0	140

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
QRコードコードページ	QRコードコードページ (*3)	QRCDP##	140
Dotコード	DOTコード設定をすべて初期化	DOTDFT	140
	有効	DOTENA1	140
	*無効	DOTENA0	140
低品質DOTコード	低品質DotCodes有効	DOTEXS1	140
	*低品質DotCodes無効	DOTEXS0	140
DOTコード読取桁数	最小読取桁数 (1~2400) *1	DOTMIN####	141
	最大読取桁数 (1~2400) *2400	DOTMAX####	141
Digimarc/バーコード	デコード回数設定 (0-10) *3	DIGSTR##	141
	無効	DIGENA0	141
	有効	DIGENA1	141
	IDデコーダー使用後両方のデコーダー	DIGENA2	141
	*Digimarc使用後両方のデコーダー	DIGENA3	141
	IDデコーダー使用後代替デコーダー	DIGENA4	141
	Digimarc使用後代替デコーダー	DIGENA5	141
Data Matrix	設定をすべて初期化	IDMDFT	142
	*有効	IDMENA1	142
	無効	IDMENA0	142
Direct Part Marking (DPM) デコード	Dotpeen DPMデコード	DPMENA1	142
	* DPMデコード無効	DPMENA0	142
	反射 (エッチング) DPMデコード	DPMENA2	142
Data Matrix読取桁数長	最小読取桁数 (1-3116) *1	IDMMIN####	142
	最大読取桁数 (1-3116) *3116	IDMMAX####	142
Data Matrix連結機能	*有効	IDMAPP1	
	無効	IDMAPP0	
Data Matrixコードページ	Data Matrixコードページ (*51)	IDMDCP##	142
MaxiCode	設定をすべて初期化	MAXDFT	143
	有効	MAXENA1	143
	*無効	MAXENA0	143
MaxiCode読取桁数長	最小読取桁数 (1-150) *1	MAXMIN###	143
	最大読取桁数 (1-150) *150	MAXMAX###	143
Aztecコード	設定をすべて初期化	AZTDFT	143
	*有効	AZTENA1	143
	無効	AZTENA0	143
Aztecコード読取桁数	最小読取桁数 (1-3832) *1	AZTMIN####	143
	最大読取桁数 (1-3832) *3832	AZTMAX####	143
Aztec連結機能	*有効	AZTAPP1	144
	無効	AZTAPP0	144
Aztecコードページ	Aztecコードページ (*51)	AZTDCP##	144
中国漢信 (Han Xin) コード	設定をすべて初期化	HX_DFT	144
	有効	HX_ENA1	144
	*無効	HX_ENA0	144
中国郵便コード (漢信コード) 読取桁数長	最小読取桁数 (1-7833) *1	HX_MIN####	144
	最大読取桁数 (1-7833) *7833	HX_MAX####	144
2次元郵便コード			
2次元郵便コード (単独)	*無効	POSTAL0	145
2次元郵便コード (単独)	オーストラリア郵便有効	POSTAL1	145
	イギリス郵便有効	POSTAL7	145
	カナダ郵便有効	POSTAL30	145
	インテリジェントメール有効	POSTAL10	145
	日本郵便有効	POSTAL3	145
	KIX有効	POSTAL4	145
	Planetコード有効	POSTAL5	145
	Postal-4i有効	POSTAL9	145
	Postnetコード有効	POSTAL6	145
	Postnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL11	145
	InfoMail有効	POSTAL2	145

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
2次元郵便コード（組み合わせ）	Infomailおよびイギリス郵便有効	POSTAL8	146
	インテリジェントメールバーコードおよびPostnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL20	146
	PostnetおよびPostal- 4i有効	POSTAL14	146
	Postnetおよびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL16	146
	Postal-4iおよびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL17	146
	Postal-4iおよびPostnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL19	146
	PlanetおよびPostnet 有効	POSTAL12	146
	PlanetおよびPostnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL18	146
	PlanetおよびPostal-4i 有効	POSTAL13	146
	Planetおよびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL15	146
	Planet、Postnet、およびPostal-4i有効	POSTAL21	146
	Planet、Postnet、およびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL22	146
	Planet、Postal-4i、およびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL23	146
	2次元郵便コード（組み合わせ） （続き）	Postnet、Postal-4i、およびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL24
Planet、Postal-4i、Postnet BおよびB'フィールド有効		POSTAL25	147
Planet、インテリジェントメールバーコード、Postnet BおよびB'フィールド有効		POSTAL26	147
Postal-4i、インテリジェントメールバーコード、Postnet BおよびB'フィールド有効		POSTAL27	147
Planet、Postal-4i、インテリジェントメールバーコード、Postnet有効		POSTAL28	147
Planet、Postal-4i、インテリジェントメールバーコード、Postnet BおよびB'フィールド有効		POSTAL29	147
Planetコードチェックデジット	送信する	PLNCKX1	147
	送信なし	PLNCKX0	147
Postnetチェックデジット	送信する	NETCKX1	147
	*送信なし	NETCKX0	147
オーストラリア郵便	バー出力	AUSINT0	148
	数字Nテーブル	AUSINT1	148
	英数字Cテーブル	AUSINT2	148
	NおよびCの組み合わせ	AUSINT3	148
1次元郵便コード			
中国郵便コード（香港 2 of 5）	設定をすべて初期化	CPCDFT	148
	*無効	CPCENA0	148
	有効	CPCENA1	148
中国郵便コード（香港 2 of 5）読取桁数長	最小読取桁数（2～80）*4	CPCMIN##	148
	最大読取桁数（2～80）*80	CPCMAX##	148
韓国郵便コード	設定をすべて初期化	KPCDFT	149
	*無効	KPCENA0	149
	有効	KPCENA1	149
韓国郵便コード読取桁数長	最小読取桁数（2～80）*4	KPCMIN##	149
	最大読取桁数（2～80）*48	KPCMAX##	149
韓国郵便コードチェックデジット	送信チェックデジット	KPCCHK1	149
	*チェックデジット送信なし	KPCCHK0	149

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ	
イメージングコマンド				
画像の撮影	設定をすべて初期化	IMGDFT	150	
	撮影スタイル : Decoding Style	SNPSTY0	150	
	*撮影スタイル : Photo Style	SNPSTY1	151	
	撮影スタイル : Manual Style	SNPSTY2	151	
	ブザー有効	SNPBEP1	151	
	*ブザー無効	SNPBEP0	151	
	*すぐに画像を撮影する	SNPTRG0	151	
	ボタンが押されるのを待機し、画像を撮影します	SNPTRG1	151	
	*LEDオフ	SNPLED0	151	
	LEDオン	SNPLED1	151	
	露光 (1-7874ミリ秒)	SNPEXP	151	
	*ゲインなし	SNPGAN1	151	
	ゲイン中	SNPGAN2	151	
	ゲイン高	SNPGAN4	151	
	ゲイン最大	SNPGAN8	152	
	ホワイト値 (0-255) *125	SNPWHT###	152	
	ホワイト値許容範囲 (0-255) *25	SNPDEL###	152	
	アップデートトライ (0-10) *6	SNPTRY##	152	
	ターゲットポイント比率 (1-99) *50	SNPPCT##	152	
	画像の送信	*無限遠フィルタ無効	IMGINF0	153
		無限遠フィルタ有効	IMGINF1	153
		*圧縮無効	IMGCOR0	153
		圧縮有効	IMGCOR1	153
*ピクセル濃度8ビット、グレースケール画像		IMGBPP8	153	
ピクセル濃度1ビット、白黒画像		IMGBPP1	153	
*画像をシャープにしない		IMGEDG0	154	
画像をシャープにする (0-23)		IMGEDG##	154	
*ファイル形式 : JPEG		IMGFMT6	154	
ファイル形式 : KIMフォーマット		IMGFMT0	154	
ファイル形式 : TIFFバイナリ		IMGFMT1	154	
ファイル形式 : TIFFバイナリグループ4、圧縮		IMGFMT2	154	
ファイル形式 : TIFFグレースケール		IMGFMT3	154	
ファイル形式 : 非圧縮バイナリ		IMGFMT4	154	
ファイル形式 : 非圧縮グレースケール		IMGFMT5	154	
ファイル形式 : BMP		IMGFMT8	154	
*ヒストグラム ストレッチなし		IMGHIS0	154	
ヒストグラム ストレッチあり		IMGHIS1	154	
*ノイズの低減無効		IMGFSP0	155	
ノイズの低減有効		IMGFSP1	155	
(続き)		X軸に対して画像を上下反転	IMGNVX1	155
		Y軸に対して画像を左右反転	IMGNVY1	155
		画像の回転なし	IMGROT0	155
	画像を右に90°回転	IMGROT1	155	
	画像を右に180°回転	IMGROT2	155	
	画像を左に90°回転	IMGROT3	155	
	JPEG画像品質 (1-100) *50	IMGJQF###	156	
	*ガンマ補正無効	IMGGAM0	156	
	ガンマ補正有効 (1-1000)	IMGGAM###	156	
	画像の切り取り : 左 (0-843) *0	IMGWNL###	156	
	画像の切り取り : 右 (0-843) *843	IMGWNR###	156	
	画像の切り取り : 上 (0-639) *0	IMGWNT###	156	
	画像の切り取り : 下 (0-639) *639	IMGWNB###	156	
	画像の切り取り : 余白 (1-238) *0	IMGMAR###	157	
	プロトコルなし (生データ)	IMGXFR0	157	
	プロトコルなし (USB初期設定)	IMGXFR2	157	
	プロトコル (Hmodem圧縮)	IMGXFR3	157	
	プロトコル (Hmodem)	IMGXFR4	157	

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
(続き)	すべてのピクセルを送信	IMGSUB1	157
	2ピクセルごとに送信	IMGSUB2	157
	3ピクセルごとに送信	IMGSUB3	157
	*文書画像フィルタ無効	IMGUSH0	158
	文書画像フィルタ有効 (0-255)	IMGUSH###	158
	*ヒストグラムを送信なし	IMGHST0	158
	ヒストグラムを送信する	IMGHST1	158
画像サイズの互換性	VGA解像度の強制	IMGVGA1	159
	*元の画像解像度	IMGVGA0	159
署名の取り込み	最適化有効	DECBND1	159
	*最適化無効	DECBND0	159
ユーティリティ			
コードIDの追加すべての体系へテストコードIDを追加		PRECA2,BK2995C80!	165
ソフトウェアの改訂情報を表示		REVINF	165
テストメニュー	有効	TSTMNU1	165
	*無効	TSTMNU0	165
プラグインアプリケーション	*デコードアプリアオン	PLGDCE1	166
	デコードアプリアオフ	PLGDCE0	166
	* (フォーマットアプリアオン	PLGFOE1	166
	フォーマットアプリアオフ	PLGFOE0	166
	アプリア一覧の表示	PLGINF	166
初期設定の再設定	カスタムデフォルトの削除	DEFOVR	167
	デフォルトの有効化	DEFALT	167

製品仕様

Xenon 1950/1950h スキャナ製品仕様

項目	仕様
外形寸法（代表値）： 高さ 長さ 幅 重量	165mm（6.5インチ） 99mm（3.9インチ） 64mm（2.5インチ） 150g（5.3オンス） 155g（5.5オンス） 1950H：ヘルスケアバージョン
照明LED ピーク時波長	624nm ± 18nm（赤色LED） IEC 62471:“Exempt Risk Group” 442nm, 552nm（白色LED） IEC 62471:“Exempt Risk Group”
エイミング ピーク時LED波長	624nm ± 18nm（赤色LED） 520nm + 18nm（緑色LED） IEC 62471:“Exempt Risk Group”
イメージサイズ	1280 x 800 ピクセル
スキュー角度	+65°
ピッチ角度（1Dバーコード）	+65°
ピッチ角度（2Dバーコード）	+45°
移動読み取り ストリーミングプレゼンテーショントリガー	400cm/秒（157インチ/秒）：0.13mil UPCバーコード読み取り時
印字コントラスト	グレードA（20%以上）
電圧条件	4.4～5.5VDC（入力コネクタ）
電流引き込み（5VDC）	読取待機時：500mA、2.5W
温度範囲動作時保存時	動作時：0°C～50°C（32°F～122°F） 保存時：-40°C～70°C（-40°F～158°F）
湿度	0～95%（結露無きこと）
耐落下	1.8m（6フィート）からコンクリート面に50回落下して動作すること
ESD 耐性	直接空気の場合、15kV 間接的結合面の場合、8kV

Xenon 1952/1952hコードレススキャナ製品仕様

項目	仕様
外形寸法（代表値）： 高さ 長さ 幅 重量	165mm（6.5インチ） 99mm（3.9インチ） 64mm（2.5インチ） 220g（7.8オンス） 227g（8.0オンス）1952h：ヘルスケアバージョン
照明LED ピーク時波長	624nm ± 18nm（赤色LED） IEC 62471:“Exempt Risk Group” 442nm, 552nm（白色LED） IEC 62471:“Exempt Risk Group”
エイミング ピーク時LED波長 レーザー光学電力	624nm ± 18nm（赤色LED） 520nm + 18nm（緑色LED） IEC 62471:“Exempt Risk Group” <1mW
イメージサイズ	1280 x 800 ピクセル
スキュー角度	+65°
ピッチ角度（1Dバーコード）	+65°
ピッチ角度（2Dバーコード）	+45°
移動読み取り ストリーミングプレゼンテーショントリガー	400cm/秒（157インチ/秒）：0.13mil UPCバーコード読み取り時
印字コントラスト	グレードA（20%以上）
バッテリー 読取回数 想定動作時間 想定充電時間	リチウムイオン:2400mAh（最小） 1回の完全充電で5万回 14時間 4.5時間
無線 周波数 範囲	Bluetooth V4.2 2.4~2.5GHz（ISMバンド）FH方式 10m（標準）
温度範囲 動作時 保存時* バッテリあり 保存時 バッテリなし	0°C~50°C -20°C~35°Cで90日まで -20°C~20°Cで365日まで -40°C~70°C
湿度	0~95%（結露無きこと）
耐落下	23°C時1.8m（6フィート）からコンクリート面に50回落下に耐えること
耐振動	22~300Hzで最大5Gに耐えること
耐静電気	直接空気の場合、15kV 間接的結合面の場合、8kV
電流引き込み（5VDC）	読取待機時500mA、2.5W

*保存温度範囲外の温度で保存した場合、バッテリーの寿命に有害な影響をもたらす可能性があります。

Xenon 1952g-BF/1952h-BF スキャナ製品仕様

項目	仕様
外形寸法（代表値）： 高さ 長さ 幅 重量	165mm（6.5インチ） 99mm（3.9インチ） 64mm（2.5インチ） 195g（6.9オンス） 201g（7.1オンス）1952h-BF：ヘルスケアバージョン
照明LED ピーク時波長	624nm ± 18nm（赤色LED） IEC 62471:“Exempt Risk Group” 442nm, 552nm（白色LED） IEC 62471:“Exempt Risk Group”
エイミング ピーク時LED波長 レーザー光学電力	624nm ± 18nm（赤色LED） 520nm + 18nm（緑色LED） IEC 62471:“Exempt Risk Group” <1mW
イメージサイズ	1280 x 800 ピクセル
スキュー角度	+65°
ピッチ角度（1Dバーコード）	+65°
ピッチ角度（2Dバーコード）	+45°
移動読み取り ストリーミングプレゼンテーショントリガー	400cm/秒（157インチ/秒）：0.13mil UPCバーコード読み取り時
印字コントラスト	グレードA（20% 以上）
稼働時間 読取回数 想定動作時間	1秒の充電450スキャン 1分間に5回のスキャンで25分
無線 周波数 範囲	Bluetooth V4.2 2.4～2.5GHz（ISMバンド）FH方式 10m（標準）
温度範囲動作時保存時	動作時：0°C～50°C（32F～122F） 保存時：-40°C～70°C（-40F～158F）
湿度	0～95%（結露無きこと）
耐落下	1m（3.3フィート）からコンクリート面に50回落下に耐えること
耐振動	22～300Hzで最大5Gに耐えること
耐静電気	直接空気の場合、15kV 間接的結合面の場合、8kV
電流引き込み（5VDC）	読取待機時500mA、2.5W

*保存温度範囲外の温度で保存した場合、バッテリーの寿命に有害な影響をもたらす可能性があります。

CCB01-010BT/CCB01-010BT-BFチャージャーベース製品仕様

項目	仕様
外形寸法（代表値）： 高さ 長さ 幅 重量	81.3mm（3.2インチ） 131.8mm（3.2インチ） 101.1mm（3.2インチ） 6.3 oz（179g）
電圧	4.5～5.5V
電流引き込み ホスト端末ポート AUX（補助）電力ポート	500mA 1A
充電時間	5時間
無線 周波数 範囲 データレート	2.4～2.5GHz（ISMバンド）FH方式 Bluetooth V2.1 10m（標準） 1MBps まで
温度範囲： 動作時 充電中 保存時 バッテリなし	0℃～50℃ 5℃～40℃ -40℃～70℃
湿度	0～95%（結露無きこと）
耐落下	1m（3.28フィート）からコンクリート面に50回落下して動作すること
耐振動	22～300Hz5Gピークに耐えること
耐静電気	直接空気の場合、15kV 間接的結合面の場合、8kV

CCB-H-01-010BT/CCB-H-01-010BT-BFチャージャーベース製品仕様

項目	仕様
外形寸法（代表値）： 高さ 長さ 幅 重量	83mm（3.3インチ） 231mm（9.1インチ） 89mm（3.5インチ） 9.2 oz（260g）
電圧	4.5～5.5V
電流引き込み ホスト端末ポート AUX（補助）電力ポート	500mA 1A
充電時間 CCB-H-01-010BT	フル充電まで 120秒：標準のUSB 30秒：外部電源に接続されているUSB
充電時間 CCB-H-01-010BT-BF	フル充電まで 25秒：標準のUSB 15秒：外部電源に接続されているUSB
無線 周波数 範囲 データレート	2.4～2.5GHz（ISMバンド）FH方式 Bluetooth V4.2 10m（標準） 130bps まで
温度範囲： 動作時 充電中 保存時 バッテリなし	5℃～40℃ 5℃～40℃ -40℃～70℃
湿度	0～95%（結露無きこと）
耐落下	1m（3.28フィート）からコンクリート面に50回落下して動作すること
耐振動	22～300Hz5Gピークに耐えること
耐静電気	直接空気の場合、15kV 間接的結合面の場合、8kV

読取深度 (DoFチャート)

1950g/1952g/1952g-BFスキャナ標準性能

焦点		SR (標準レンジ)		HD (高分解能)	
シンボル		近距離	遠距離	近距離	遠距離
5 mil Code39	mm	28	242	14	219
	in.	1.1	9.5	0.6	8.6
13 mil UPC	mm	0	490	0	368
	in.	0	19.3	0	14.5
20 mil Code39	mm	4	822	6	604
	in.	0.1	32.4	0.2	23.8
6.7 mil PDF417	mm	34	220	17	211
	in.	1.4	8.7	1.4	8.3
10 mil Data Matrix	mm	29	245	12	211
	in.	1.1	9.7	1.1	8.3
20 mil QR Code	mm	0	438	0	331
	in.	0	17.2	0	13
Resolution (1D)		3 mil (.076mm)		2.5 mil (.064mm)	
Resolution (PDF-417)		4 mil (.102mm)		3 mil (.076mm)	
Resolution (QR/DM)		6 mil (.152mm)		5 mil (.127mm)	

1950g/1952g/1952g-BFスキャナ保証性能

焦点		SR (標準レンジ)		HD (高分解能)	
シンボル		近距離	遠距離	近距離	遠距離
5 mil Code39	mm	37	219	21	206
	in.	1.5	8.6	0.8	8.1
13 mil UPC	mm	10	419	10	328
	in.	0.4	16.5	0.4	12.9
20 mil Code39	mm	13	609	14	526
	in.	0.5	24	0.6	20.7
6.7 mil PDF417	mm	46	205	20	200
	in.	1.8	8.1	0.8	7.9
10 mil Data Matrix	mm	44	227	18	195
	in.	1.7	8.9	0.7	7.7
20 mil QR Code	mm	21	351	23	290
	in.	0.8	13.8	0.9	11.4

1950h/1952h/1952h-BF スキャナ標準性能

焦点		SR (標準レンジ)		HD (高分解能)	
シンボル		近距離	遠距離	近距離	遠距離
5 mil Code39	mm	28	253	16	219
	in.	1.1	10	0.6	8.6
13 mil UPC	mm	0	495	0	366
	in.	0	19.5	0	14.4
20 mil Code39	mm	3	829	4	620
	in.	0.1	32.6	0.2	24.4
6.7 mil PDF417	mm	34	221	16	212
	in.	1.3	8.7	0.6	8.3
10 mil Data Matrix	mm	27	249	11	214
	in.	1.1	9.8	0.4	8.4
20 mil QR Code	mm	0	453	0	328
	in.	0	17.8	0	12.9
Resolution (1D)		3 mil (.076mm)		2.5 mil (.064mm)	
Resolution (PDF-47)		4 mil (.102mm)		3 mil (.076mm)	
Resolution (QR/DM)		6 mil (.152mm)		5 mil/4 mil (0.127mm) / (.102mm)	

1950h/1952h/1952h-BF スキャナ保証性能

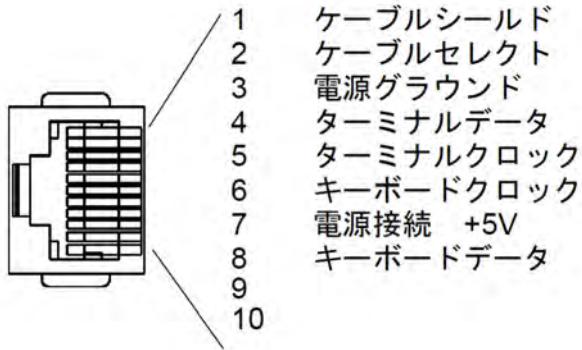
焦点		SR (標準レンジ)		HD (高分解能)	
シンボル		近距離	遠距離	近距離	遠距離
5 mil Code39	mm	38	233	22	201
	in.	1.5	9.2	0.9	7.9
13 mil UPC	mm	10	416	10	322
	in.	0.4	16.4	0.4	12.7
20 mil Code39	mm	13	602	14	560
	in.	0.5	23.7	0.6	20.7
6.7 mil PDF417	mm	49	208	24	200
	in.	1.9	8.2	0.9	7.9
10 mil Data Matrix	mm	46	233	18	194
	in.	1.8	9.2	0.7	7.6
20 mil QR Code	mm	15	373	13	259
	in.	0.6	14.7	0.5	10.2

標準ケーブルのピン配列

注意：ピンの配列はハネウェルのレガシー製品と互換性がありません。不適切なピン配列ケーブルの使用は機器に損傷を与える可能性があります。メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

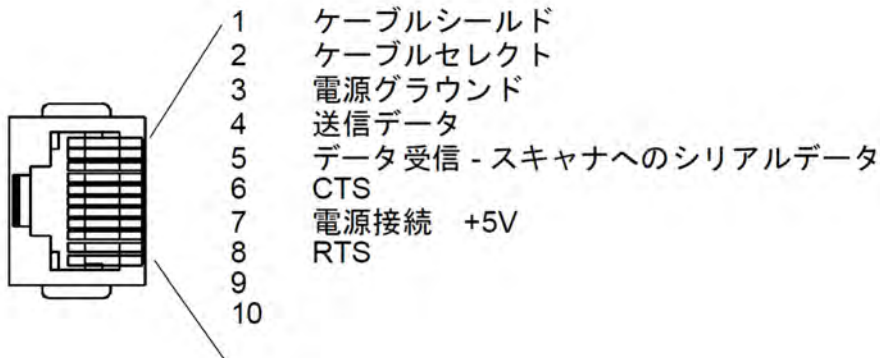
キーボードウェッジ

10ピンのRJ41モジュラープラグベースに接続



シリアル出力

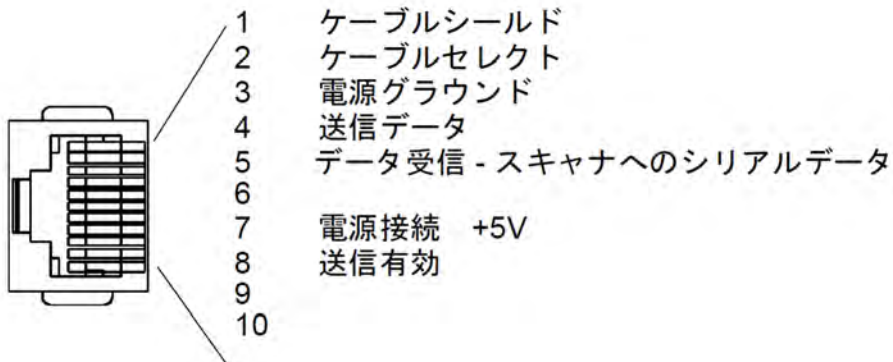
10ピンのRJ41モジュラープラグベースに接続



RS485アウトプット

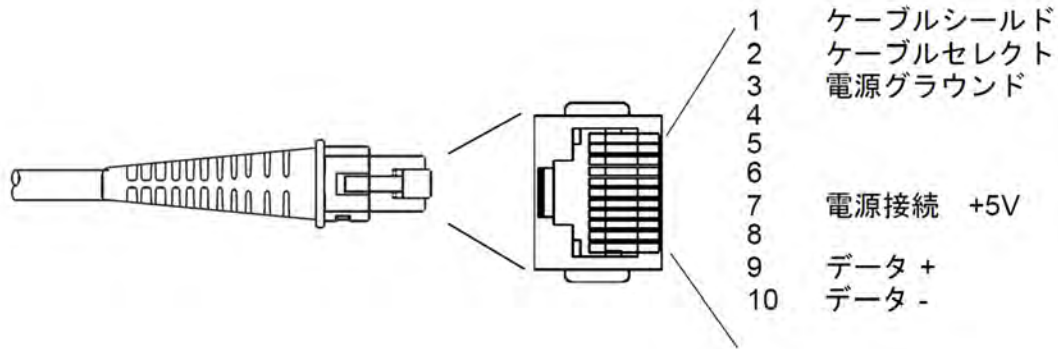
10ピンのRJ41モジュラープラグベースに接続

注意：RS485信号変換はケーブルで行われます。



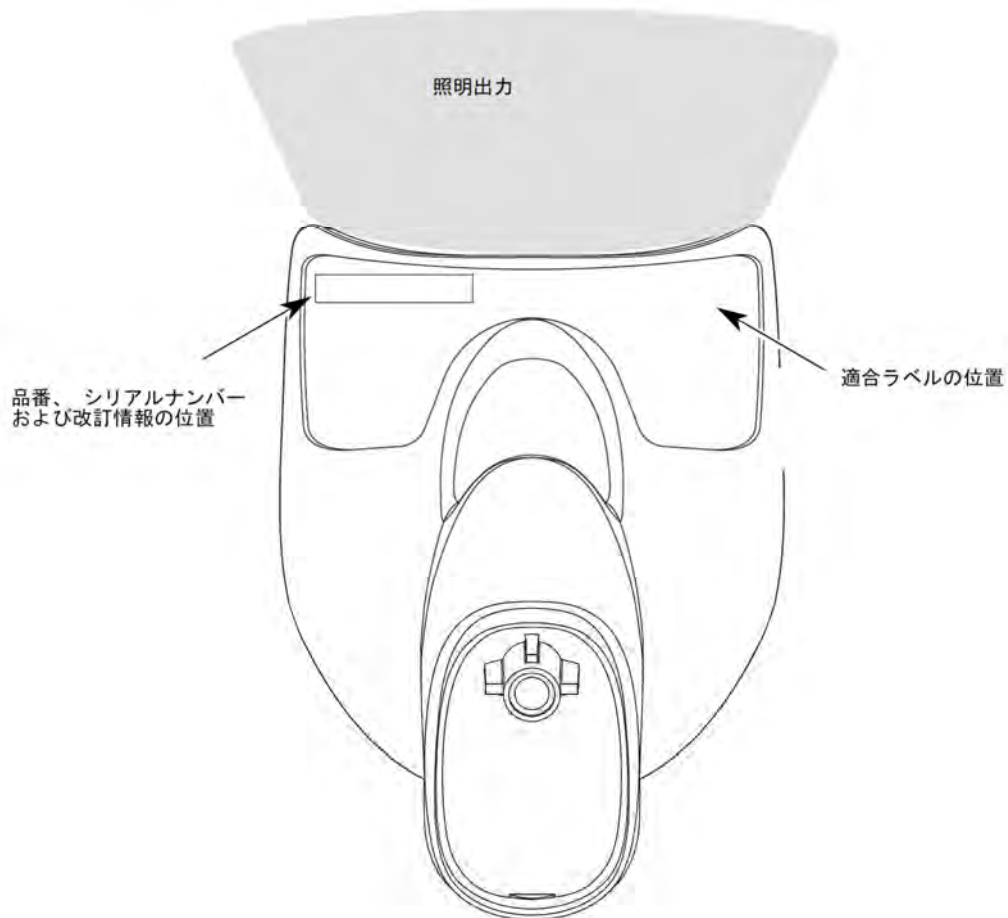
USB

10ピンのモジュラープラグベースに接続

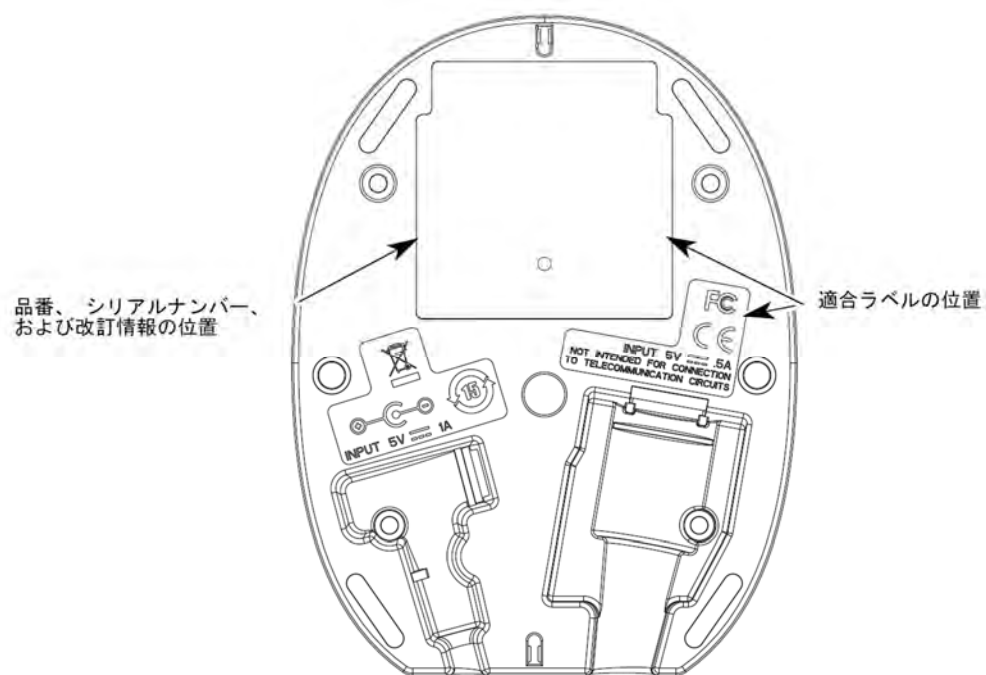


必要な安全ラベル

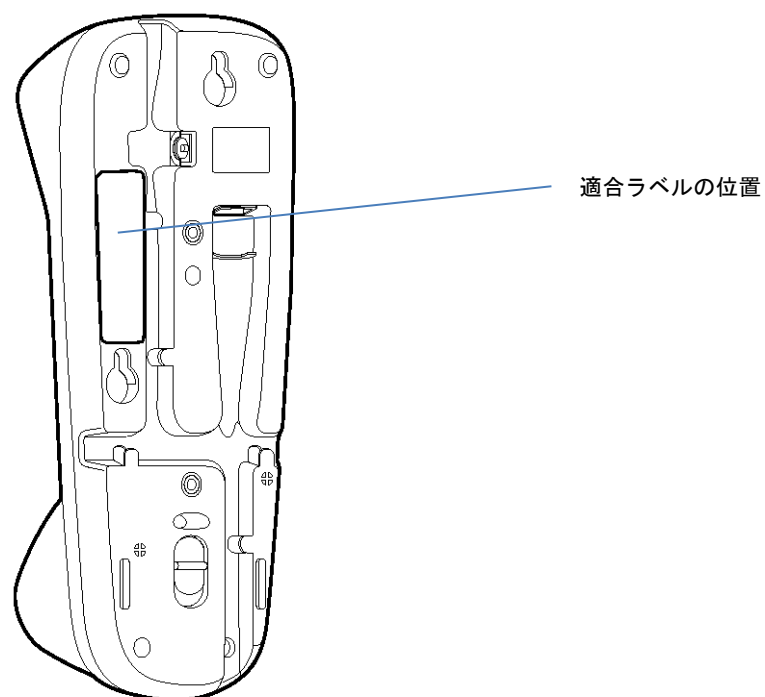
Xenon 1950/1950h/1952/1952h スキャナ



CCB01-010BT/CCB01-010BT/BF ベース



CCB-H-010BT/CCB-H-010BT-BF ベース



保守修理

修理およびアップグレードはこの製品に付属しておりません。これらのサービスは、必ず正規のサービスセンターで受けてください。

保守

本機器は、最低限のお手入れで確実に効率的な動作を提供します。特別な保守は不要ですが、以下の定期点検によって信頼性の高いスキャナの動作を確保できます。

機器の清掃

スキャナまたはベースの筐体が汚れている場合、柔らかい布やレンズ用ティッシュを水（または水で薄めた中性洗剤）で拭いてください。洗剤を使用する場合は、水だけで濡らしたきれいなレンズ用ティッシュで拭き取ってください。



警告

スキャナを水に浸けないでください。スキャナ筐体に耐水性はありません。

研磨剤入りの布やティッシュを使用しないでください。スキャナの読取ウィンドウを傷つける事があります。アセトン等の溶剤をスキャナの筐体、読取ウィンドウに使用しないでください。スキャナにダメージを与える可能性があります。

ウィンドウの清掃

スキャナのウィンドウが汚れていると、スキャナの読み取り性能を低下させる原因になる場合があります。スキャナのウィンドウが明らかに汚れている場合、またはスキャナが正常に動作していない場合は、以下の「ヘルスケアハウジングについて」に書かれている洗浄剤を使用してウィンドウを清掃してください。

ヘルスケアハウジング（殺菌洗浄可能ハウジング）について

Xenonシリーズには殺菌洗浄可能ハウジングオプションがあり、医療の現場で使用されている強力な化学物質に耐えるよう、外部のプラスチックハウジングを備えています。化学物質がハウジングをすり抜けて侵入しないよう、プラスチックが透明になっています。

重要！ 下記は、スキャナの殺菌洗浄可能ハウジングを安全洗浄するために試験・確認された洗剤の一覧です。このハウジングの洗浄を認められた洗剤は、下記一覧のみとなります。下記に記された洗剤以外の洗剤を使用することによってスキャナが何らかのダメージを負った場合、そのダメージは保証対象外となりますのでご注意ください。

- Sani-Cloth® HBワイブ
- Sani-Cloth® Plusワイブ
- Super Sani-Cloth® ワイブ
- イソプロピルアルコールワイブ（70%）
- CaviWipes™
- Virex® 256
- 409® Glass and Surface Cleaner
- Windex® Blue

- Clorox® Bleach – 10%
- 低刺激食器用洗剤と水

ケーブルとコネクタの点検

インターフェースケーブルとコネクタに摩耗やその他損傷の兆候が無い点検してください。ひどく摩耗したケーブルや損傷したコネクタを使用していると、スキャナの動作を妨げることがあります。ケーブル交換については、お買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。

スキャナのインターフェースケーブルの交換

10ピンのモジュラコネクタの標準インターフェースケーブルが付属しています。適切に設置された場合、コネクタはフレキシブルリテンションタブによってスキャナのハンドルに収まります。インターフェースケーブルは現場で交換できるように設計されています。

- 交換用ケーブルはハネウエル社もしくは正規販売店よりお求めください。
- 交換用ケーブルをご注文の際は、元々のインターフェースケーブルのケーブル部品番号をご指定ください。

Xenonスキャナのインターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源を切ります。
2. スキャナのケーブルを端末またはコンピュータから外します。
3. スキャナのハンドルの裏側にある小さな穴を確認します。これはケーブルリリースです。
4. ペーパーリップの片方の先端をまっすぐにします。
5. 真っ直ぐにしたペーパーリップの先端を小さな穴に差し込んで押します。これによってリテンションタブを押し、コネクタのロックが解除されます。ペーパーリップを押しのままコネクタを引き抜き、その後リップをはずします。
6. 新しいケーブルと交換します。
7. コネクタを穴に差し込んで確実に押し込みます。コネクタは一方向だけに入るように設計されており、所定の位置でカチッと音がします。



コードレスシステムのケーブルおよびバッテリーの交換

ベースユニットのインターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源を切ります。
2. ベースユニットのケーブルをホストデバイスから外してください。
3. ベースユニットを裏返しにしてください。
4. ケーブルコネクタのリリースクリップを押しながら、ケーブルをゆっくりと引き抜いてください。

CCB01-010BTベース :



CCB02-100BT/CCB05-100BTベース :



5. 新しいケーブルと交換します。コネクタを穴に差し込んで確実に押し込みます。コネクタは一方向だけに入るように設計されており、所定の位置でカチッと音がします。

Xenon スキャナ バッテリーの交換

1. スキャナのエンドキャップ（持ち手端部分）にあるネジをドライバで回し緩めてください。
2. エンドキャップ外し、バッテリーを持ち手部分からゆっくり取り外してください。
3. 新しいバッテリーを同じ箇所に差し込んでください。
4. エンドキャップをかぶせ、ネジをドライバで締めて下さい。



スキャナのトラブルシューティング

電源を入れると、スキャナはその都度セルフテストを自動的に実行します。お使いのスキャナが正常に機能していない場合は、以下のトラブルシューティングガイドに従って問題を特定してください。

電源が入っていますか？レーザーエイマーがオンになっていますか？

レーザーエイマーが点灯していない場合は、以下の点をチェックしてください。

- ケーブルが正しく接続されているか。
- ホストシステムの電源がオンになっているか。（外部電源を使用しない場合。）
- トリガーが動作しているか。

スキャナでシンボルの読み取りに問題がありますか？

シンボルを正しく読み取らない場合は、スキャナウィンドウが汚れていないか、またシンボルについて以下の点をチェックしてください。

- シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。
- シンボルがスキャナまたはスキャナが接続されているデコーダーで有効になっているか。

バーコードが表示されても入力されませんか？

バーコードはホスト機器で正常に表示されていますが、入力するためにはキーを押す必要があります。（Enter/リターンキーやTabキーなど。）

- サフィックスを設定する必要があります。サフィックスを設定すると、イメージャーはバーコードデータと必要なキー（「CR」など）を出力し、アプリケーションにデータを入力することができます。

スキャナがバーコードを間違えて読み取っていませんか？

スキャナがバーコードを読み取っても、データがホスト画面に正しく表示されない場合は

- スキャナが適切な端末インターフェース用に設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取っても、ホストは「@es%」と表示する場合など。
- 正しいプラグ&プレイバーコードまたは端末設定バーコードでスキャナを設定してください。[インターフェースの設定](#)ページを参照してください。
- スキャナがバーコードデータを正しく出力するように設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取ってもホストは「A12345B」と表示する場合など。

正しいシンボルを選択してイメージャーを再設定してください。[8章](#)を参照してください。

スキャナがバーコードをまったく読み取らない。

1. 本書の後ろにあるサンプルバーコードを読み取ります。スキャナでサンプルバーコードを読み取る場合は、お使いのバーコードが読み取り可能か確認してください。
2. お使いのバーコードシンボルが有効になっているか確認してください（[8章](#)を参照。）
3. それでもサンプルバーコードを読み取れない場合は、[すべてのシンボル](#)を読み取ってください。
4. スキャナで設定されているプログラミングオプションが不明の場合、または出荷時初期設定を復元したい場合は、[初期設定の再設定](#)ページを参照してください。

コードレスシステムのトラブルシューティング

ベースユニットのトラブルシューティング

注意：スキャナならびにベースユニットの最新ファームウェアについては、ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) のサービス&サポートセクションにアクセスください。

お使いのベースが正常に機能しない場合は、以下のトラブルシューティングガイドに従って問題点を明らかにしてください。

赤色LEDライトが点灯していますか？

赤色LEDライトが点灯していない場合は、以下の点をご確認ください。

- ・ 電源ケーブルが正しく接続されており、電源に電力が投入されているか。
- ・ ホストシステムの電源がオンになっている。（外部電源を使用しない場合。）

緑色LEDライトが点灯していますか？

緑色LEDライトが点灯していない場合は、以下の点をご確認ください。

- ・ スキャナがベースにきちんと置かれているか。
- ・ 外部電源またはホストデバイスから12Vの電力が供給されているか。
- ・ 充電モードが有効になっているか。
- ・ バッテリーに異常がないか、過度の充電不足ではないか。この場合は、スキャナの許容レベルまでバッテリーのトリクル充電を行い、その後、一般の充電サイクルに移行します。

コードレススキャナのトラブルシューティング

注意：スキャナのバッテリーが充電されていることをご確認ください。

スキャナやベースの最新ファームウェアについては、ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) のサービス&サポートセクションにアクセスください。

スキャナでシンボルの読み取りに問題がありますか？

シンボルを正しく読み取らない場合は、以下の項目を確認してください。

- ・ シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- ・ シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。
- ・ スキャナと接続されているベースもしくはアクセスポイントが有効か。

バーコードが表示されたものの、入力されませんか？

ホストシステムによっては、バーコードデータを入力するためにはキーを押す必要があります。（Enter/リターンキーやTabキーなど。）

- ・ サフィックスを設定する必要があります。サフィックスを設定すると、イメージャーはバーコードデータと必要なキー（「CR」など）を出力し、アプリケーションにデータを入力することができます。

スキャナがバーコードを間違っ読み取っていませんか？

スキャナがバーコードを読み取っても、データがホスト画面に正しく表示されない場合は

- ・ ベースまたはアクセスポイントが適切な端末インターフェース用に設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取っても、ホストは「@es%」と表示する場合など。
- ・ 正しいプラグ&プレイバーコードまたは端末選択バーコードでベースまたはアクセスポイントを設定してください。
- ・ ベースまたはアクセスポイントは、バーコードデータを正しく出力するように設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取ってもホストは「A12345B」と表示する場合など。

正しいシンボルを選択してベースまたはアクセスポイントを再設定してください。[8章](#)を参照してください。

スキャナがバーコードをまったく読み取らない。

- ・ 本書の後ろにあるサンプルバーコードを読み取ります。スキャナがサンプルバーコードを読み取る場合は、お使いのバーコードが読み取り可能か確認してください。

お使いのバーコードシンボルが有効になっているか確認してください（[8章](#)を参照。）

それでもサンプルバーコードを読み取れない場合は、[すべてのシンボル](#)を読み取ってください。

カスタマーサポート

テクニカルサポート

インストールやトラブルシューティングに関するサポートが必要な場合は、以下の方法でご連絡ください。

サポート情報 : www.hsmknowledgebase.com

サポート情報には多くの解決方法がございます。サポート情報で解決しない場合は、テクニカルサポート（以下参照）を使用して問題を報告したり質問をしたりすることができます。

テクニカルサポートポータル : www.hsmsupportportal.com

テクニカルサポートポータルでは問題を報告するだけでなく、サポート情報から技術的な問題を検索することで解決方法を提供します。ポータルを使用すると、オンラインで質問の提出や追跡、ファイルの送受信が可能です。

ウェブフォーム : www.hsmcontactsupport.com

オンラインサポートフォームに入力することで、テクニカルサポートチームに直接連絡することができます。お客様の情報と質問や問題の詳細を入力してください。

拠点情報 : www.honeywellaidc.com/locations

最新の問い合わせ先については、上記のウェブサイトを確認してください。

製品のサービスと修理

Honeywell社は、世界中のサービスセンターを通して全製品に対するサービスを提供しています。保証期間内または保証期間後の修理を受けるためにはwww.honeywellaidc.comからSupport > Contact Service and Repairに進んでいただき、ご使用の地域でのRMA番号を入手する方法を確認してください。製品を返送する前に、この手順に従ってください。

条件付き保証

Honeywell International Inc.（以下ハネウエル社）は、出荷時にはその製品とアクセサリの材料および製造品質に欠陥がなく、お買い上げいただいた製品に適用されるの公式な仕様に適合することを保証いたします。この保証は、以下の場合にはハネウエル社の製品であっても対象外となります。（i）設置または使用方法が不適切。（ii）正しい保守、サービス、および清掃手順に従わなかった場合を含めて事故や不注意で損傷。または（iii）以下の結果損傷した場合：（A）お客様または第三者が変更や改造を行った。（B）インターフェース接続に過大な電圧や電流がかかったり流れたりした。（C）静電気または静電気放電。（D）指定の動作パラメータを超える条件で使用した。（E）ハネウエル社または正規代理店以外が製品の修理や整備を行った。

この保証期間は、ハネウエル社の出荷時点から、ご購入時に製品に対して公式に示した期間（「保証期間」）とします。欠陥品は、点検のために保証期間内にハネウエル社の工場または正規サービスセンターに必ず返却してください。RMA（Return Material Authorization）が無ければ、ハネウエル社はどんな製品も受け付けません。RMAは、ハネウエル社に連絡すれば取得できます。保証期間内にハネウエル社または正規サービスセンターに製品が返却され、材料または製造品質の欠陥によって製品が故障したことを確認した場合、ハネウエル社はその選択によって製品を無償で修理または交換いたします。ただし、ハネウエル社への返却送料はご負担ください。

該当する法律によって規定されている場合を除き、上記の保証は、明示的であっても暗黙のものであっても、また口頭であっても書面であっても限定されることなく、特定の目的に対する商品性や適合のあらゆる暗黙の保証を含む他のあらゆる契約に代わるものです。

この保証によるハネウエル社の賠償責任とお客様が受けられる唯一の補償は、欠陥品の修理または交換に限られます。いかなる場合も、ハネウエル社は、直接的、間接的、あるいは結果的な損害には一切責任を負いません。また、ここでお買い上げいただいた製品に関して生じたハネウエル社の賠償額は（そうした賠償責任が契約、保証、不法行為などに基づく請求によるものであっても関係なく）、その製品のためにハネウエル社にお支払いいただいた実際の金額を限度とします。これらの賠償責任の限度は、そのような、けが、損失、損害などの可能性についてハネウエル社が知らされていた場合であってもまったく有効です。一部の州、地区、あるいは国などでは、偶発的または結果的な損害の除外または制限を認めていません。その場合、上記の制限または除外がお客様に適用されない場合があります。

この条件付保証項目はすべて区分されており、分離が可能です。つまり、いずれかの条項が無効のまま実施できない場合でも、

その決定は他の項目を実施する有効性には関係ありません。製造元提供以外の周辺機器を使用して故障した場合、保証の対象外です。この周辺装置には、ケーブル、電源、クレードル、およびドッキングステーションが含まれます。ハネウエル社は、これらの保証を製品の最初のエンドユーザーにのみ適用します。これらの保証は譲渡できません。

Xenon1950、1950hスキャナの保証期間は、5年とします。

Xenon1952および1952hスキャナとCCB01-010BTベースユニットの保証期間は、3年とします。

Xenonのバッテリーの保証期間は、1年とします。

付録チャート

シンボルチャート

注意: 「m」は、AIMモディファイアのキャラクタを示します。AIMモディファイアキャラクタの詳細については、国際技術仕様のSymbology Identifiersを参照してください。

特定のシンボルに対するプレフィックス/サフィックスの入力は、汎用（全シンボル、16進数は99）入りに優先します。

コードIDとAIM IDの使用方法については、[データ編集ページ](#)と[データフォーマットページ](#)を参照してください。

リニアシンボル

シンボル	AIM		Honeywell	
	ID	モディファイア (m)	ID	16進数
All Symbologies (全シンボル)				99
Codabar	JFm	0-1	a	61
Code 11	JH3		h	68
Code 128	JCm	0, 1, 2, 4	j	6A
Code32 Pharmaceutical (PARAF)	JX0		<	3C
Code39 (FullASCII モード対応)	JAm	0, 1, 3, 4, 5, 7	b	62
TCIF Linked Code39 (TLC39)	JL2		T	54
Code93and 93i	JGm	0-9, A-Z, a-m	i	69
EAN	JEm	0, 1, 3, 4	d	64
EAN-13 (Bookland EAN を含む)	JE0		d	64
EAN-13 with Add-On (アドオン付き EAN-13)	JE3		d	64
EAN-13 with Extended Coupon Code (拡張クーポンコード付き EAN-13)	JE3		d	64
EAN-8	JE4		D	44
EAN-8 with Add-On (アドオン付きEAN-13)	JE3		D	44
GS1				
GS1 DataBar (GS1データバー)	Jem	0	y	79
GS1 Limited (GS1限定型)	Jem		{	7B
GS1 Expanded (GS1データバー拡張型)	Jem		}	7D
GS1-128	JC1		l	49
2 of 5				
China Post (中国郵便)	JX0		Q	51
Interleaved 2 of 5	Jlm	0, 1, 3	e	65
Matrix 2 of 5	JX0		m	6D
NEC 2 of 5	JX0		Y	59
Straight 2 of 5 IATA	JRm	0, 1, 3	f	66
Straight 2 of 5 Industrial	JS0		f	66
MSI	JMm	0, 1	g	67
Telepen	JBm		t	74
UPC		0, 1, 2, 3, 8, 9, A, B, C		
UPC-A	JE0		c	63
UPC-Awith Add-On (アドオン付き UPC-A)	JE3		c	63
UPC-Awith Extended Coupon Code (拡張コード付き UPC-A)	JE3		c	63
UPC-E	JE0		E	45
UPC-E with Add-On (アドオン付き UPC-E)	JE3		E	45
UPC-E1	JX0		E	45
Honeywell Code ID 追加				5C80
AIM Code ID 追加				5C81
Backslash 追加				5C5C
Batch mode quantity			5	35

2次元シンボル

シンボル	AIM		Honeywell	
	ID	モディファイア (m)	ID	16進数
All Symbolologies (全シンボル)				99
Aztec Code]zm	0-9, A-C	z	7A
Chinese Sensible Code (漢信コード)]X0		H	48
Codablock A]O6	0, 1, 4, 5, 6	V	56
Codablock F]Om	0, 1, 4, 5, 6	q	71
Code 49]Tm	0, 1, 2, 4	l	6C
Data Matrix]dm	0-6	w	77
Dot Code]J0		.	2E
GS1]em	0-3	y	79
GS1 Composite (GS1コンポジット)]em	0-3	y	79
GS1 Ominidirectional (GS1データバー標準型)]em	0-3	y	79
MaxiCode]Um	0-3	x	78
PDF417]Lm	0-2	r	72
MicroPDF417]Lm	0-5	R	52
QR Code]Qm	0-6	s	73
Micro QRコード]Qm		s	73

郵便シンボル

シンボル	AIM		Honeywell	
	ID	モディファイア (m)	ID	16進数
All Symbolologies (全シンボル)				99
Australian Post (オーストラリア郵便)]X0		A	41
British Post (イギリス郵便)]X0		B	42
Canadian Post (カナダ郵便)]X0		C	43
China Post (中国郵便)]X0		Q	51
InfoMail]X0		,	2c
Intelligent Mail Bar Code]X0		M	4D
Japanese Post (日本郵便)]X0		J	4A
KIX (Netherlands) Post (オランダ郵便)]X0		K	4B
Korea Post (韓国郵便)]X0		?	3F
Planet Code]X0		L	4C
Postal-4i]X0		N	4E
Postnet]X0		P	50

ASCII変換チャート (コードページ1252)

キーボードアプリケーションで、ASCII制御文字は以下のように3つの異なる方法で表現されます。CTRL+XファンクションキーはOSとアプリケーションによって異なります。以下のテーブルはMicrosoftで使用される共通の機能のリストです。この表は、アメリカ方式のキーボードに適用されます。特定のキャラクタは、国コード/PCの地域設定によって異なる場合があります。

印刷不可能なASCIIコントロールキャラクタ			キーボードコントロール+ASCII (CTRL+X) モード		
10進数	16進数	Char	*コントロール+Xモードオフ (KBDCASO)	Windows モードコントロール+Xモードオン (KBDCAS2)	
				CTRL + X	CTRL + X function
0	00	NUL	Reserved	CTRL+ @	
1	01	SOH	NP Enter	CTRL+ A	Select all
2	02	STX	Caps Lock	CTRL+ B	Bold
3	03	ETX	ALT Make	CTRL+ C	Copy
4	04	EOT	ALT Break	CTRL+ D	Bookmark
5	05	ENQ	CTRL Make	CTRL+ E	Center
6	06	ACK	CTRL Break	CTRL+ F	Find
7	07	BEL	Enter/Ret	CTRL+ G	
8	08	BS	(Apple Make)	CTRL+ H	History
9	09	HT	Tab	CTRL+ I	Italic
10	0A	LF	(Apple Break)	CTRL+ J	Justify
11	0B	VT	Tab	CTRL+ K	hyperlink
12	0C	FF	Delete	CTRL+ L	list, left align
13	0D	CR	Enter/Ret	CTRL+ M	
14	0E	SO	Insert	CTRL+ N	New
15	0F	SI	ESC	CTRL+ O	Open
16	10	DLE	F11	CTRL+ P	Print
17	11	DC1	Home	CTRL+ Q	Quit
18	12	DC2	PrtScn	CTRL+ R	
19	13	DC3	Backspace	CTRL+ S	Save
20	14	DC4	Back Tab	CTRL+ T	
21	15	NAK	F12	CTRL+ U	
22	16	SYN	F1	CTRL+ V	Paste
23	17	ETB	F2	CTRL+ W	
24	18	CAN	F3	CTRL+ X	
25	19	EM	F4	CTRL+ Y	
26	1A	SUB	F5	CTRL+ Z	
27	1B	ESC	F6	CTRL+ [
28	1C	FS	F7	CTRL+ \	
29	1D	GS	F8	CTRL+]	
30	1E	RS	F9	CTRL+ ^	
31	1F	US	F10	CTRL+ -	
127	7F	n	NP Enter		

下位ASCIIリファレンステーブル

注意：Windowsコードページ1252および下位ASCIIは同じキャラクターを使用します。

印刷可能なキャラクタ								
10進数	16進数	キャラクタ	10進数	16進数	キャラクタ	10進数	16進数	キャラクタ
32	20	<SPACE>	64	40	@	96	60	`
33	21	!	65	41	A	97	61	a
34	22	"	66	42	B	98	62	b
35	23	#	67	43	C	99	63	c
36	24	\$	68	44	D	100	64	d
37	25	%	69	45	E	101	65	e
38	26	&	70	46	F	102	66	f
39	27	'	71	47	G	103	67	g
40	28	(72	48	H	104	68	h
41	29)	73	49	I	105	69	i
42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
45	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
48	30	0	80	50	P	112	70	p
49	31	1	81	51	Q	113	71	q
50	32	2	82	52	R	114	72	r
51	33	3	83	53	S	115	73	s
52	34	4	84	54	T	116	74	t
53	35	5	85	55	U	117	75	u
54	36	6	86	56	V	118	76	v
55	37	7	87	57	W	119	77	w
56	38	8	88	58	X	120	78	x
57	39	9	89	59	Y	121	79	y
58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
59	3B	;	91	5B	[123	7B	{
60	3C	<	92	5C	\	124	7C	
61	3D	=	93	5D]	125	7D	}
62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
63	3F	?	95	5F	_	127	7F	△

拡張ASCII キャラクタ					
10進数	16進数	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 Scan Code
128	80	€	Ç	up arrow ↑	0x48
129	81		ü	down arrow ↓	0x50
130	82	,	é	right arrow →	0x4B
131	83	f	â	left arrow ←	0x4D
132	84	„	ä	Insert	0x52
133	85	…	à	Delete	0x53
134	86	†	â	Home	0x47
135	87	‡	ç	End	0x4F
136	88	^	ê	Page Up	0x49
137	89	‰	ë	Page Down	0x51
138	8A	Š	è	Right ALT	0x38
139	8B	‹	ï	Right CTRL	0x1D
140	8C	Œ	î	Reserved	n/a
141	8D		ì	Reserved	n/a
142	8E	Ž	Ä	Numeric Keypad Enter	0x1C
143	8F		Å	Numeric Keypad/	0x35
144	90		É	F1	0x3B
145	91	‘	æ	F2	0x3C
146	92	’	Æ	F3	0x3D
147	93	“	ô	F4	0x3E
148	94	”	ö	F5	0x3F
149	95	•	ò	F6	0x40
150	96	–	ù	F7	0x41
151	97	—	û	F8	0x42
152	98	~	ÿ	F9	0x43
153	99	™	Û	F10	0x44
154	9A	š	Ü	F11	0x57
155	9B	›	ø	F12	0x58
156	9C	œ	£	Numeric Keypad +	0x4E
157	9D		¥	Numeric Keypad -	0x4A
158	9E	ž	ł	Numeric Keypad *	0x37
159	9F	ÿ	f	Caps Lock	0x3A

160	A0		á	Num Lock	0x45
161	A1	¡	í	Left Alt	0x38
162	A2	¢	ó	Left Ctrl	0x1D
163	A3	£	ú	Left Shift	0x2A
164	A4	¤	ñ	Right Shift	0x36
165	A5	¥	Ñ	Print Screen	n/a
166	A6	_	ª	Tab	0x0F
167	A7	§	º	Shift Tab	0x8F
168	A8	¨	¿	Enter	0x1C
169	A9	©	¬	Esc	0x01
170	AA	ª	¬	Alt Make	0x36
171	AB	«	½	Alt Break	0xB6
172	AC	¬	¼	Control Make	0x1D
173	AD		¡	Control Break	0x9D
174	AE	®	«	Alt Sequence with 1 Character	0x36
175	AF	—	»	Ctrl Sequence with 1 Character	0x1D
176	B0	°			
177	B1	±			
178	B2	²			
179	B3	³			
180	B4	´			
181	B5	µ			
182	B6	¶			
183	B7	·			
184	B8	¸			
185	B9	¹			
186	BA	º			
187	BB	»			
188	BC	¼			
189	BD	½			
190	BE	¾			
191	BF	¿			
192	C0	À			
193	C1	Á			
194	C2	Â			
195	C3	Ã			
196	C4	Ä			
197	C5	Å			
198	C6	Æ			
199	C7	Ç			
200	C8	È			
201	C9	É			
202	CA	Ê			
203	CB	Ë			
204	CC	Ì			
205	CD	Í			
206	CE	Î			
207	CF	Ï			
208	D0	Ð			
209	D1	Ñ			
210	D2	Ò			
211	D3	Ó			
212	D4	Ô			
213	D5	Õ			
214	D6	Ö			
215	D7	×			
216	D8	Ø			
217	D9	Ù			
218	DA	Ú			
219	DB	Û			
220	DC	Ü			
221	DD	Ý			
222	DE	Þ			
223	DF	ß			
224	E0	à	α		
225	E1	á	β		
226	E2	â	Γ		
227	E3	ã	π		
228	E4	ä	Σ		
229	E5	å	σ		
230	E6	æ	μ		

拡張ASCII キャラクタ (続き)					
10進数	16進数	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 Scan Code
231	E7	ç	ı		
232	E8	è	ø		
233	E9	é	Ù		
234	EA	ê	Ω		
235	EB	ë	ð		
236	EC	ì	∞		
237	ED	í	φ		
238	EE	î	ε		
239	EF	ï	∩		
240	F0	ð	≡		
241	F1	ñ	±		
242	F2	ò	≥		
243	F3	ó	≤		
244	F4	ô	∫		
245	F5	õ			
246	F6	ö	÷		
247	F7	÷	≈		
248	F8	ø	°		
249	F9	ù	·		
250	FA	ú	·		
251	FB	û	√		
252	FC	ü	n		
253	FD	ý	²		
254	FE	þ	■		
255	FF	ÿ			

ISO 2022/ISO 646 キャラクタ変換

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するものとは別のコードページを使用して作成されている可能性があります。その場合は、バーコードが作成されたコードページを選択してください。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。

コードページ選択方法/国	標準	国別キーボード	Honeywellコードページオプション
アメリカ (標準ASCII)	ISO/IEC 646-IRV	n/a	1
自動国キャラクタ置換	ISO/IEC 2022	n/a	2 (デフォルト)
バイナリコードページ	n/a	n/a	3
デフォルトの「自動国キャラクタ置換」は以下のCode128、Code39、Code93用Honeywellコードページオプションを選択します。			
アメリカ	ISO/IEC 646-06	0	1
カナダ	ISO/IEC 646-121	54	95
カナダ	ISO/IEC 646-122	18	96
日本	ISO/IEC 646-14	28	98
中国	ISO/IEC 646-57	92	99
イギリス (UK)	ISO/IEC 646-04	7	87
フランス	ISO/IEC 646-69	3	83
ドイツ	ISO/IEC 646-21	4	84
スイス	ISO/IEC 646-CH	6	86
スウェーデン/フィンランド (拡張Annex C)	ISO/IEC 646-11	2	82
アイルランド	ISO/IEC 646-207	73	97
デンマーク	ISO/IEC 646-08	8	88
ノルウェー	ISO/IEC 646-60	9	94
イタリア	ISO/IEC 646-15	5	85
ポルトガル	ISO/IEC 646-16	13	92
スペイン	ISO/IEC 646-17	10	90
スペイン	ISO/IEC 646-85	51	91

10進数			35	36	64	91	92	93	94	96	123	124	125	126
16進数			23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
US	0	1	#	\$	@	[\]	^	`	{		}	~
CA	54	95	#	\$	à	â	ç	ê	î	ô	é	ù	è	û
CA	18	96	#	\$	à	â	ç	ê	É	ô	é	ù	è	û
JP	28	98	#	\$	@	[¥]	^	`	{		}	—
CN	92	99	#	¥	@	[\]	^	`	{		}	—
GB	7	87	£	\$	@	[\]	^	`	{		}	~
FR	3	83	£	\$	à	°	ç	§	^	μ	é	ù	è	..
DE	4	84	#	\$	§	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
CH	6	86	ù	\$	à	é	ç	ê	î	ô	ä	ö	ü	û
SE/FI	2	82	#	¤	É	Ä	Ö	À	Ü	é	ä	ö	å	ü
DK	8	88	#	\$	@	Æ	Ø	À	^	`	æ	ø	å	~
NO	9	94	#	\$	@	Æ	Ø	À	^	`	æ	ø	å	—
IE	73	97	£	\$	Ó	É	Í	Ú	Á	ó	é	í	ú	á
IT	5	85	£	\$	§	°	ç	é	^	ù	à	ò	è	ì
PT	13	92	#	\$	§	Ã	Ç	Õ	^	`	ã	ç	õ	°
ES	10	90	#	\$	§	í	Ñ	¿	^	`	°	ñ	ç	~
ES	51	91	#	\$	·	í	Ñ	Ç	¿	`	·	ñ	ç	..
国	国キ	ポート	Honeywell ISO/IEC 646 国別キャラクタ変換											

キーボードキーマップ

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B					5C	61	66	
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39			53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C			3D			3E	3F	38	40		4F	54	59		63	68		

104キー アメリカスタイルキーボード

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	2B	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2A					5C	61	66	
2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39			53		5D	62	67	6C
3A	3B	3C			3D			3E	3F	38	40		4F	54	59		63	68		

105キー ヨーロッパスタイルキーボード

サンプルシンボル

UPC-A



0 123456 7890

Interleaved 2 of 5



01234567890

EAN-13



9 780330 290951

Code 128



Code 128

Code 39



BC321

Codabar



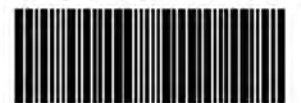
A13579B

Code 93



123456-9\$

Straight 2 of 5 Industrial



123456

Matrix 2 of 5



6543210

RSS-14



(01) 00123456789012

PDF417

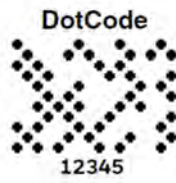


Car Registration

Code 49



1234567890



プログラミングチャート



K0K
0



K2K
2



K4K
4



K6K
6



K8K
8



K1K
1



K3K
3



K5K
5



K7K
7



K9K
9



KAK
A



KCK
C



KEK
E



MNUSAV.
保存



RESET_
リセット



KBK
B



KDK
D



KFK
F



MNUABT.
破棄

注意：（保存を読み取る前に）文字または数字をスキャンしてもエラーとなった場合は、**破棄**を読み取り、正確に文字または数字をもう一度スキャンして、**保存**を読み取ってください。

日本ハネウェル株式会社
セーフティ & プロダクティビティ ソリューションズ
〒105-0022 東京都港区海岸1-16-1
ニューピア竹芝サウスタワー20階
電話 : 03-6730-7344
FAX : 03-6730-7224
MAIL : HSMJapanInquiry@Honeywell.com
WEB : <https://honeywell.co.jp/>